

SPUR

VOL.66 & 70TH ANNIVERSARY SPECIAL EDITION

- 2022 -



TOHOKU UNIVERSITY SKI TEAM

SPUR

東北大学学友会スキー部

創部 70 周年記念号

表紙デザイン

浅野 颯太

表紙写真 撮影地：山形蔵王 龍山クロスカントリーコース
(2018年2月撮影)

裏表紙写真 撮影地：野沢温泉向台シャンツェ
(2019年1月撮影)

スキー部 70 周年記念誌

スキー部七〇周年記念誌目次

【基調文】

創部七〇周年を迎えるにあたり	実行委員長	日出間 純	1
創部七〇周年記念事業の実施にあたって	スキー部長	風間 聡	3

七〇年という歴史の重さ	副部長	青木 俊明	5
-------------	-----	-------	---

東北大学スキー部七〇周年と萩雪会の五八年	萩雪会長	工藤 博司	6
----------------------	------	-------	---

【寄稿文】

クロカンの思い出	高橋 公正	11
----------	-------	----

卒部六三年生の記	木名瀬 武男	12
----------	--------	----

四年間のスキー部生活を回想	小野寺 満憲	14
---------------	--------	----

揺籃期の東北大スキー部の思い出	石田 孝	16
-----------------	------	----

インカレのリレー参戦記・	森 啓	17
--------------	-----	----

世界選手権(ノルウェー)観戦記

東北大学スキー部の歩みと萩雪会	栗原 義郎	18
-----------------	-------	----

振り返ると	金ヶ崎 史朗	22
-------	--------	----

東北地区大学スキー競技会と新聞報道	青山 浩志	25
-------------------	-------	----

「虎溪三笑」	中村 彰太郎	26
--------	--------	----

野沢温泉スキー場の思い出	富田 光彦	28
--------------	-------	----

唯一の入賞メダル	工藤 博司	30
----------	-------	----

オートバイで春スキーは二倍楽しい	加藤 孝	32
------------------	------	----

スキー部の思い出	清水 紘治	34
----------	-------	----

スキー部時代の思い出	今枝 友明	35
------------	-------	----

六〇年前のスキー部の私	鬼木(栗原)美枝子	36
-------------	-----------	----

スキー部七〇周年に寄せて	高津 宣夫	37
--------------	-------	----

第二代スキー部長北村仁先生	佐藤 佑	38
---------------	------	----

秋雪ヒュッテをめぐって	高田 潤一	39
-------------	-------	----

スキー部生活がもたらしたもの	原田 有造	41
----------------	-------	----

初めてのジャンプ	松久 勝利	42
----------	-------	----

プロスキーヤー三浦雄一郎さんの思い出	壺 富士雄	43
--------------------	-------	----

昭和四五年卒同期会半世紀前を偲んで	高橋 喜三雄	44
-------------------	--------	----

スキー部の思い出	渡部 安雄	45
----------	-------	----

現役との「絆」合宿	清水 真理子	46
-----------	--------	----

スキー部長の仕事	清水 邦敏	46
----------	-------	----

スキー部一年次の思い出	風間 聡	49
-------------	------	----

コンパ・肝試し・借り物競走・鈍行列車の旅	青木 俊明	51
----------------------	-------	----

「スキーの縁は、人の縁」	牧田 誠司	54
--------------	-------	----

〜エネルギーを紡ぎ続けて	小野木 伯薫	56
--------------	--------	----

スモールヒルポイント越え?	田中 倫久	57
---------------	-------	----

田山スモールヒル設計について	伊藤(天野)文字	58
----------------	----------	----

谷を経て(二〇〇七〜二〇一六年の変化)		
---------------------	--	--

創部七〇周年を迎えるにあたり

東北大学スキー愛好会としてインカレ（全日本学生スキー選手権大会）に出場した昭和二七年（一九五二年）を、東北大学学友会スキー部の創部元年として、今年（二〇二二年）七〇周年迎えることができました。これまでの七〇年間、部員が競技スキーを通して、スキー技術の向上は勿論、人間として向上できる場として活動を続けてこられたのも、大学関係者、歴代のスキー部長を務められた先生方、そしてスキー部OB・OG諸氏のご指導に加え、スキー部の活動の原動力となっている萩雪ヒュッテの維持、また山形蔵王スキー場での活動にご協力をいただいている蔵王温泉関係者の皆様によるものであり、ここにスキー部七〇周年記念事業実行委員会を代表して、心より感謝申し上げます。

私は萩雪ヒュッテが完成した昭和三九年（一九六四年）に生まれ、昭和五九年（一九八四年、創部三二年）に東北大学に入学しました。私は埼玉出身ではありませんが、幼少期よりスキーをしていたこともあり、大学では、「せっかく東北にきたのだから」スキーサークルまたはスキー部に所属して、さらなる技術を身に着けたいという気持ちをもっていました。しかし体育会（学友会）は、厳しいというイメージがあり、また金銭的にもやっつけてけるのか？という不安がありました。まずは話を聞いてみよう、スキー部の部

室の門をたたきました。

初めて話しをしたのは、当時主将だった喜多見哲先輩（昭和六一年卒）でした。喜多見先輩は、「ジャージ持っている？今から練習に行くから、まずは一緒にやってみる？」といわれ、早々にジャージに着替え、参加しました。練習中、金銭的な話などをすると、当時四年生の竹野浩之先輩（昭和六〇年卒）が、「東北大は、山形蔵王に先輩が作った合宿所（萩雪ヒュッテ）もあり、宿泊費は無料、自炊の食事代だけ、夏、山形蔵王でお手伝いをして優待券をもらえるから、心配しなくても大丈夫だよ、東北大スキー部は恵まれているからね！」と優しく、フレンドリーに言われたことを、今でも鮮明に覚えています。

そして、ゴールデンウイークの萩雪ヒュッテでの新歓合宿に参加し、初めてヒュッテを訪れた時は、「いや、東北大は凄いなあ、こんな山形蔵王スキー場のど真ん中に、こんな素晴らしい山小屋、合宿所をもっているなんて」と大変強いインパクトと感動を受けました。その後は、スキー部での生活を中心に、当然ある萩雪ヒュッテ・山形蔵王スキー場を拠点に技術向上、インカレ入賞を目標に、四年間を過ごしました。

現役を終えて、萩雪会会員となってからは、毎年開催される萩雪会の忘年会等に参加させてもらい、現役時代には

七〇周年記念事業実行委員長 日出間 純

なかなかお会いできなかつた、森昌造先輩（昭和三〇年卒）、佐藤陽二先輩（昭和三〇年卒）など、創部当時を知る先輩らとお酒を飲みながら当時の話しを聞き、また加藤孝先輩（昭和三九年卒）や工藤博司先輩（昭和三九年卒、第四代スキー部長、萩雪会長）からは萩雪ヒュッテ建設に至る尽きない秘話や苦労話を毎年のように聞きました。OB・OGの皆さんと接する機会が増えてからでしょうか、私が初めて萩雪ヒュッテに入った時に感じた「東北大は凄いな」という印象が、「スキー部の先輩たちは偉大過ぎる」へと変化したのは・・・。

私は、大学院時代を含め東北大学に籍を置き今日に至っていることもあり、卒業後はスキー部監督、スキー部副部長、そして工藤先輩の退官後、スキー部長として、スキー部員の育成、部の運営にも携わらせていただきました。

幸いなことに、「萩雪ヒュッテ開設二〇周年記念祝賀会（一九八五年）」、「東北大学スキー部創部四〇周年記念祝賀会（一九九三年）」、「創部五〇周年祝賀会（二〇〇二年）」、「東北大学萩雪ヒュッテ利用五〇周年感謝の集い（二〇一五年）」の企画・運営にもOB・OGの諸先輩方と共に実行委員として携わらせていただき、スキー部の歴史は勿論、価値観、考え方、人との接し方など、多くのことを学ばせてもらいました。そしてこの度、創部七〇周年記念事業では、実行委員長として運営・企画することになりました。このことは大変光栄であると同時に、これまでの企画・運営を通して、諸先輩方のスキー部への強い思いは勿論のこと、東北大スキー部が創部以来七〇年経った現在も、創部当初と同様に、大学関係者、蔵王関係者、宮城県スキー連盟などの多くの方々の支援があつて今のスキー部が存続し

ていることをあらためて感じる次第です。

今なお多くの方々が東北大スキー部の活動を支援していただけるのは、諸先輩たちが築き上げた信頼関係、伝統にほかならないことは確かです。私は部長時代、現役諸君が将来「スキー部で活動したことを誇りに思うことが出来る」活動の場・環境を与えたいと思い、スキー部の運営に携わってきました。

現在は、東北大学学友会体育部の副部長として、大学本部の立場からスキー部を含む体育部の活動を支援していますが、大学が学友会活動を支援する理由は、言うまでもなく、人間性を養い、人間としてさらに向上するためには必要不可欠な活動と考えているからです。学友会活動を通して、人間性を養い、向上するためには、ありきたりの言葉かもしれませんが、「歴史を知り、古き良き伝統を継承し、発展させる」ことではないでしょうか。

スキー部創部七〇周年を迎えるにあたり、これまでスキー部の活動を支えていただいた関係各位に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援、ご指導いただくようお願い申し上げます。現役員には、創部七〇周年を一つの節目として、スキー部がこれまで築き上げてきた「古き良き伝統」をあらためて継承し、この先一〇〇年、二〇〇年へとつなげてもらうことを期待します。

最後に、創部七〇周年記念事業の実施に際し、ご厚志を寄せていただいた皆様に重ねて厚くお礼申し上げます。

創部七〇周年記念事業の実施にあたって

スキー部長 風間 聡

東北大学学友会スキー部が大学当局ならびに関係各位、部員だったOB・OG諸氏の努力によって昭和、平成、令和の三時代を経て、ここに記念すべき創部七〇周年を迎えることができました。スキー部の活躍はSPUR本誌の部長文をみてもえればわかりますが、インカレ(全日本学生スキー選手権大会)において数度の国立大学トップ、女子一部昇格、個人表彰、七大戦の二〇一四年から七連覇など枚挙にいとまがありません。学内においても指定国立大学申請にスキー部の写真が使われたり、数々の学友会の賞を獲得したりなど他の運動部に対して鼻が高いことを学内のOB・OGは日々感じているところです。

こうした歴史と実績あるスキー部七〇周年に何をするかについて様々な意見が出ました。二〇一九年末の萩雪会忘年会の時から議論をはじめ、その後一時、新型コロナウイルスの感染拡大によって先が全く見通せなくなりましたが、二〇二二年には元に戻るだろうとの希望的観測のもと、準備だけはすることにしました。七五周年との話もありましたが、今の幹部の間にやることとしました。これらの打ち合わせは、オンライン会議システムが発達したおかげで、容易に行うことができました。第一回の準備委員会を二〇

二一年四月一九日に開き、工藤博司萩雪会会長(昭和三九年卒)、日出間純前部長(昭和六三年卒)、青木俊明前部長(平成五年卒)、浅野颯太監督(令和二年卒)と筆者の五人が参加しました。その後、在仙OBの加藤孝さん(昭和三九年卒)、牧田誠司さん(平成五年卒)、土屋史紀さん(平成七年卒)、田中倫久さん(平成一四年卒)の四人を加えて中心的な実行委員会として二ヶ月に一回程度の打ち合わせをしてきました。全てオンライン会議でした。

記念式典として大学関係者と学外でスキー部を支援して頂いている方々への感謝を示すこと、現役スキー部員のお披露目をする事とし、記念事業として七〇年記念誌をSPUR通常号と合冊して記念号として刊行すること、過去の部誌とSPURの電子化、寄付金を集めることなどの方針を決めました。

東京萩雪会のOB・OGには幹事の壺富士雄さん(昭和四四年卒)と上條敦さん(昭和五三年卒)を通して参加を促してもらいました。

記念式典の挙行や記念誌の発行は節目の大事な事業です。部活動の様々な記録や記憶を残すことが大事です。その時々の苦労や問題点、感動やうまくいった経験など時を

越えて共有できません。今回の記念事業の計画でも、五〇周年記念誌は大いに参考になりました。この記念号も後年の参考になることでしょう。一〇〇周年の際、また、さらに先の後輩がこの記念号を読んでスキー部の伝統を感じてもらえれば望外の喜びです。

そのためにはスキー部の継続が必要です。SPUR本誌の部長文に新しいスキー部の考え方を少し書きました。柔軟な対応をして、ぜひ持続可能なスキー部を築けるよう皆様のお力添えをお願いいたします。

末筆になりますが、いつもスキー部を支えて頂いている大学内外の多くの関係各位に深く感謝の意を表します。また、七〇周年記念事業の実施にご厚志を寄せていただいたOB・OG諸氏に厚く御礼申し上げます、引き続きスキー部の発展を支えていただくようお願いいたします。

七〇年という歴史の重さ

スキー部 副部長 青木俊明

東北大学学友会スキー部は、一九五三（昭和二八）年に学友会の一員になりましたが、その前年のスキー愛好会の発足から、本年で七〇年を迎えることができました。これはひとえに、四〇〇名以上のOB・OGの皆様をはじめ、大学関係、蔵王温泉スキー場、宮城県スキー連盟の皆様など多くの方々のご支援とご鞭撻の賜と思います。

七〇年という年月は、一九六〇年代の日本人の平均寿命でもあり、人生では様々なことを経験するように、七〇年の間にスキーを取り巻く環境も大きく変わり、スキー部も様々な変化を経験してきました。

昭和三〇年代から四〇年代にかけ、空前のスキーブームが訪れ、スキーは冬の娯楽としての地位を確立しました。つまり、スキー部はブームに先駆けて誕生したことになります。九〇年前後のバブル期には、映画「私をスキーに連れてって」にみられるように、スキーは多くの若者を魅了し、一時間以上のリフト待ちが当たり前となりました。この頃、スキー部も部員が大幅に増加し、萩雪ヒュッテに部員が入りきれないということもありました。しかし、「兵どもが夢の跡」がごとく、バブル崩壊とともにスキーブームは去っていき、スキー部も部員数の少ない時期が続きました。その後、スキー業界では、フリースタイルスキーやバックカントリースキーが普及してきたこともあり、部員数は回復し、安定した状態になっているように思われます。また、時間を経ることによって、人間の価値観も変化しながら

ら、成熟していくように、スキー部も成熟してきたように思います。創部当時の先輩方は非常にエネルギーに満ち溢れており、ヒュッテの開設をはじめ、「スキー映画のタペー」や「ダンスパーティー」といったイベントを開催して部活の資金を集め、精力的にスキー部の基礎を固めてくださいました。バブル期にはスキー部も壮年期となり、合宿中は昼のスキーのみならず、夜のコンパでも精力的に活動しておりました。大人の事情もあり、詳細は控えますが、いかにも体育会らしいコンパが行われていました。現在のスキー部では、その歴史に相応しく、分別ある、落ち着いた大人のコンパが行われています。

このようにスキー部も歴史とともに変わってきましたが、スキー部員の「スキーへの情熱」は現在まで変わらずに引き継がれていると思います。創部時の先輩方が必死の思いで創りあげてくださった「スキー部（と萩雪ヒュッテ）」というタスキが、同じ情熱を宿した若い仲間と七〇年間も引き継がれたことには万感の思いを抱かざるを得ません。また、そのタスキには四〇〇名以上の青春の思い出が染み込んでいると思うと、このタスキをさらなる未来へとつなぐことの責任を強く感じます。これからも学友会スキー部は時代とともに変化を続けていくと思いますが、後輩諸君には先輩方からのタスキを引き継いでほしい、関係の皆様には変わらぬご支援をお願いします。

東北大学学友会スキー部の益々の発展を祈念します。

東北大学スキー部七〇周年と萩雪会の五八年

萩雪会会長 工藤博司

東北大学スキー部が学友会の正式な運動部として認められたのは、一九五三（昭和二八年）年ですが、原点はその前年十二月に発足した「スキー愛好会」（会長加藤愛雄理学部教授、副会長柳原正金属材料研究所助教授）であり、そこを基点として本年度創設七〇周年になります。スキー愛好会のメンバーは森昌造（医学部、盛岡一高出身、昭三〇年卒）、吉田裕（文学部、能代高出身、昭三二年卒）、千葉忠男（工学部、盛岡一高出身、昭三二年卒）と大田口隆（農学部、秋田高校出身、早世）四人でした。



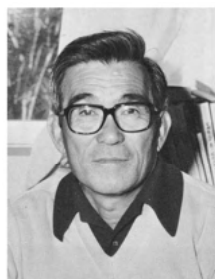
初代主将
森昌造 先輩 (1932-2016)

欠場。滑降競技で吉田選手が二部で六位に入賞し（森八位、大田口三七位、二部（当時のインカレは二部制）で総合十一位（得点一）になった実績が認められ、その年の六月に「スキー部」に昇格しました。



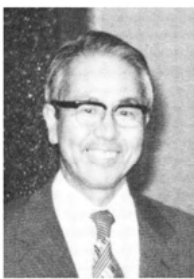
初代部長
加藤愛雄先生 (1905-1992)

森、吉田、大田口の三選手はその翌年（一九五三年）一月に五色温泉スキー場（山形県米沢市）で開催された第二五回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）に出場しました（千葉選手は病気で



第二代部長
北村 仁先生 (1919-2008)

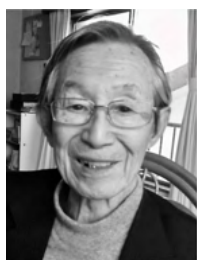
任し、教育学部・体育系の北村 仁（第二代部長）、佐藤昭男、海鋒 修の三先生が顧問として加わりました。部員は愛好会に所属していた森、吉田、千葉、大田口の精鋭四人で、森先輩が初代主将



初代副部長
八木健三先生 (1914-2008)

「スキー愛好会」をつくって実績をあげようということになったのでした。

実は、本学の学生が初めてインカレに参加したのは、愛好会結成前の一九五二（昭和二七）年一月の第二四回大会（岩手県鉛温泉スキー場）でした。岩手県出身の千葉、森両先輩が地元の利を生かして大回転競でそれぞれ一〇位と一七位になりました。当時は学生スキー連盟に登録していなくても出場できたようですが、「それはまづい、スキー部を創ろう」ということになりました。柳原先生の後押しを得て学友会にスキー部設立を申し入れたのですが、実績のないものは部として認められないと門前払いだったので、それなら



初代主務、第二代主務
吉田裕先輩 (1932-2021)

を務め、吉田先輩は初年度に主務を、その翌年には主務を務めました。九月に部員募集を始めたのですが、応募者は少なかったそうです。それでも、体育系の学生が興味を示し伊藤（永野）孝夫（昭和二十九年卒）、

島田郁夫（昭和二十九年卒）、高橋公正（昭和二十九年卒）、石井孝夫（昭和三十一年卒）の四名が入部し、運動部としての活動が本格化しました。なお、スキー部発足の経緯や当時の活動については森先輩が東北大学スキー部創部五〇周年記念誌（2002）に、吉田先輩が SPUR 59（2015）に詳しく記されています。

「萩雪会」は東北大学スキー部 O B ・ O G の親睦会ですが、「東北大学萩雪会」という団体もあります。一九六四（昭和三九）年秋に宮城県スキー連盟への加入が認められた県連所属団体です。スキー部の O B と O G が全日本スキー連盟（S A J）に競技者あるいは有資格者として登録するための組織で、県連でも古参の所属団体です。スキー部が七〇周年を迎えたこの機会に、「東北大学萩雪会」の五八年間の歩みを紹介します。



初代監督
佐藤陽二先輩 (1933-2014)

一九六四（昭和三九）年の春にスキー部を「追い出された」同期の竹内興二君（本年三月逝去）と筆者は卒業後も競技を続けたいとの希望をもっていましたが、選手登録等で現役部員に負担を掛けたくないとの思いから、O B 会として県連に登録することにしました。スキー部の監督で、宮城県スキー連盟で

高体連の指導者として活躍していた東北高校の佐藤陽二先輩（昭和三十一年卒）と相談し、会長を高橋先輩にお願いして夏休み前に宮城県連への加入を申請しました。名称は東北大学のロゴマークにもなっている「萩」と雪上競技（スキー）の「雪」を取り込んで「東北大学萩雪会」としました。

その年の八月六日に山小屋（萩雪ヒュッテ）の竣工祝賀会が大平ホテル（山形市蔵王温泉）で催されましたが、それに先立って、学生部から山小屋の名称を提案するようスキー部に依頼がありました。加藤部長に相談のうえ、O B 会の名称を参考に「萩雪ヒュッテ」を提案しました。学生部は了承してくれましたが、一言「O B 会が『東北大学萩雪会』の名称で宮城県スキー連盟に加入申請中とのことだが、ヒュッテの名称はその名を取ったのではなく、O B 会がヒュッテの名を冠した」ということになって欲してと言われました。「萩雪会」の名は「萩雪ヒュッテ」に因んで付けたと語り継がれていて、それで一向に構わないのですが、実はそのような裏話もありました。

一九六七（昭和四二）年に竹内君と筆者は仙台を離れましたが、幸い大学院に進学する部員も増え、毎年何人かの O B ・ O G が選手登録をして国体予選に出場し続けました。所属団体として存続することができたのは陽二先生（私たちは親しみを込めて佐藤陽二先輩をそう呼んだ）の存在でした。県連の役員として高体連の運営に尽力するとともに、S A J の公認資格登録（競技運営指導員、競技技術指導員、ジャンプ競技飛距離審判員）を東北大学萩雪会の一員として継続していました。筆者は一九九四（平成六）年に仙台に戻りましたが、東北大学萩雪会があったおかげで S A J の有資格者登録

(クロスカントリー技術代表)を継続することができました。

陽二先生は毎年欠かさず在仙OB・OGの忘年会に出席し、飛距離審判員として参加した札幌五輪の裏話や東北高校の教員として本田武史と荒川静香選手の二名のオリンピック選手を育てた経験、長野五輪のことなどを楽しそうに語ってくれました。晩年には、「今年も切腹しました。三回目です」とがん(癌)克服の闘病生活を悲壮感なしに語り、同席していた癌専門医の森昌造先輩も「頑張るね」と感心していました。

残念なことに二人とも癌には勝てず、陽二先輩は二〇一四(平成二六)年九月に、森先輩は二〇一六(平成二八)年六月に他界されました。森先輩は二〇〇一年(平成十三)年に高橋先輩から萩雪会会長を引き継ぎ、翌年のスキー部創部五〇周年記念事業を先頭に立って引っ張っていただきました。二〇一四(平成二六)年八月六日に大平ホテル(蔵王温泉)で開催された「東北大学秋雪ヒュッテ利用五〇周年感謝の集い」にも盛岡の自宅から自家用車で駆けつけていただきました。そのクルマの屋根にはスキー収納用のポートが付いていて、「いつでも滑れるように積んであるんだ」と話しておられました。お悔やみに伺った時に奥様から「亡くなる」二カ月前にも夏油スキー場で滑ってきたんですよ」と聞き、凄いなと思いました。

かつてSPUR65(2021)のOB・OG名簿で調べてみると「秋雪会」の会員は四三五名(逝去会員を含めると四六三名)にのぼります。七〇周年を迎えたスキー部はこれほどの人材を輩出し、多くが国内のみならず世界で活躍しています。初代部長の加藤愛雄先生は一九六八(昭和四三)年に「地磁気の変化磁場の測定と微細変動の原因

に関する研究」で学士院賞(第五八回)を受賞しました。初代副部長の八木先生は一九六二(昭和三七)年に北海道大学理学部教授に転任されましたが、北海道自然保護協会会長(一九八〇〜九〇年)として知床国立公園内の国有林伐採阻止などに尽力されました。第二代部長の北村仁先生は、東北大学退官後、仙台大学学長(第六代、一九八六〜九〇)として体育学部の基盤をつくられました。

初代主将の森昌造先輩は食道外科の第一人者として日本外科学会会長を歴任するなど医学界をリードし、医学部附属病院と東北公済病院の院長も務めました。佐藤周子先輩(旧姓武田、昭和三七年卒)は愛知がんセンター研究所放射線部長を務めていた一九八八(昭和六三)年に「放射線によるがん細胞分裂死の研究」で「自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者」に与えられる猿橋賞(第八回)を受賞しました。金ヶ崎史朗先輩(昭和三七年卒)は退官後の今でも東京大学名誉教授として生命科学の先端研究に取り組んでいます。木名瀬武男先輩(昭和三四年卒)は三菱電機の代表調査員として富士山レーダードーム建設の中心となって活躍し、NHKの人気番組「プロジェクトX」でも大きく取り上げられました。

大企業のトップや役員として活躍された先輩は枚挙にいとまがありません。渡邊高峯先輩(昭和三八年卒)はJ.R東海の副社長として鉄道技術の発展に尽力されました。中村彰太郎先輩(昭和三八年卒)は大連(中国)やタイにも工場をもつ中村技研の現職の社長であるばかりではなく、那須烏山市(栃木県)の名士として文化活動にも力を注いでいます。中村先輩からは七〇周年の祝いにと、東

北大学に多額の寄付金を寄せていただきました。現役諸君は諸先輩を手本に将来に向かって広く研鑽を積み、OB・OG諸氏は現役の活躍を暖かく見守り、これから先も五〇年、一〇〇年とスキー部が発展し続けることを願っています。

二〇年前にスキー部五〇周年を祝った時、筆者はスキー部長（第四代）を務めていました。ホテル仙台プラザ（二〇一一年年閉館）で開催した記念式典・祝賀会には、米寿の八木先生が札幌から駆けつけて祝辞を述べていただいたことを今でも思い出します。次は八〇周年かなと考えていましたが、その時まで皆が元気だとは限らないと思います、七〇周年での記念事業を風間部長（第六代、平成二年卒）に提案したところ、快く受け入れてくれました。日出間前部長（第五代、昭和六三年卒）は実行委員長として諸事に力を注いでくれました。

記念事業の一つとして編纂した「SPUR七〇周年記念号」に多くのOB・OGから趣のある原稿が寄せられました。筆者も編集の一翼を担い、OB・OGから寄せられた原稿に目を通しては忘れかけていた昔のことを思い出し、楽しみながら作業を続けました。コロナ禍は気掛かりですが、一〇月一五日の祝賀会では一人でも多くのOB・OGに再会し昔話に花を咲かせたいものです。

近年、東北大学スキー部が国立大学の中ではトップレベルの競技力を備え多くの大会で好成績をおさめています。これは現役員諸君のたゆまない努力に加え、総長はじめ大学関係者の温かい支援と萩雪ヒュッテがあつてこそだと思えます。ヒュッテでの合宿練習を支えてくださる蔵王温泉の関係各位に心より感謝し、「萩雪会」もス

スキー部のさらなる発展に向けて支援を続けてまいります。
シーハイル (Schi Heil)

山小屋が20歳に

東北大スキー部（部長・森啓理学部助教授）の山小屋「萩雪ヒュッテ」が二十周年を迎え、二十七日午後五時半から仙台市の共済会館で祝賀会を行う。二十周年記念誌も発行する。二十年代後半の創部以来、各地を転々と合宿していたが、三十九年、同部OB会「萩雪会」の名をとった萩雪ヒュッテができた。山形蔵王の上の平ゲレンデ近くだ。当時、大学院生だった森助教授は、「部員が地質や水の便を調べたり、苦労した」

と振り返る。以来、まる二十年。インタカレッジですつと三部に甘んじていた同部もレベルアップし、五十八年度には二部に進出した。国立大では北大、筑波大に次ぐ快挙だ。今回の祝賀会は、山小屋創設当時、世話になった人々たちを招き、七十三人が出席する予定だ。

河北新報 1985年4月27日
(森啓所蔵)



萩雪ヒュッテのスケッチ (1972年3月31日画、八木健三画文集より)

クロカンの思い出

高橋公正（昭和二九年卒）

最近のインカレ（全日本学生スキー選手権県大会）の戦績をみると、ノルディック種目で成果を挙げているようだ。これは東北大学だけではなく、国立大学全般にいえるのではないか。

最近では雪上トレーニングだけでなく、陸上でもローラースキーなどでクロスカントリースキーの練習が可能と聞いている。数年前、川内キャンパスのグラウンドで現役が練習していたので声をかけたことがある。

筆者は北海道育ちで毎日片道四kmをスキーで通学し、クロカンの下地が身についたように思う。旭川師範までは練習していたが、仙台に転校する時、スキーは出来なくなると思い用具は処分してきた。

東北大学教育学部入学後、体育実技にスキーが可能と聞き、山形蔵王の合宿に参加した。以来、愛好会に入会し私のスキーも復活した。その頃、青根温泉の岡崎弥一郎さんが手元にクロカンの古いスキーがあるというので譲り受け、県民大会距離競技四kmに出場してみた。

スキー部の集まりでも話題になっていたが、笛木劭さん（昭和三三年卒）がクロカン最初のランナーだったと記憶している。当時金研の柳原先生を訪ねると、ご自分の経験から「是非とも『ラングラウフ』をやれ、経験がなくても大丈夫」と気炎を上げられていた。

そこでOBでリレーチームをつくらうということになった。何とかメンバーを四人揃えたが、スキーは二台、靴は二足しかない。足の大きさに合わせて一走と三走、二走と四走を決めた。選ばれたのは佐藤陽二さん（昭和三十一年卒）、木名瀬武男さん（昭和三四年卒）、柴田徹一さん（昭和三六年卒）、そして筆者である。何とかスタートしたものの、佐藤さんの番になってその場に居ないのだ。慌てて床屋から連れ戻すといったハプニングもあった。

その後、卒業生も増え吉田睦男君（昭和三九年卒）が宮城県第一女子高校に赴任してスキー部の顧問として距離競技の指導を始め、筆者もお手伝いを頼まれた。指導しながら私も県民大会教員の部一五kmに出ることにした。何年か続いたが、吉田君の転任もあり、クロカンのスキーもお蔵入りとなった。

代わって楽しんだのはゲレンデスキーである。二月の始め頃、毎年二〇名くらいで「山形蔵王樹氷を見る会」に参加した。八五歳まで滑ったが、運転免許証の返納を期にスキーとはお別れした。

今年も新入生が入部して新しい体制が出来つつあると思うが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で色々苦労も多いと思う。創部七〇年にあたり、東北大学スキー部の益々の発展を祈念したい。

卒部六三年生の記

木名瀬武男(昭和三四年卒)

スキー部のこと

東北大スキー部を作った先輩、そして部を受継ぎそれぞれの時代で奮闘してきた多くの部員の努力により今日の七〇周年を迎えたことに心からの敬意を表します。

スキー部には多くの思い出がある。片平町部室、天守台のランニング、天守台の坂を全力で駆け上がる、片足跳びでの階段上がり等のトレーニング。

三年生時の蔵王合宿…何故か三〇kg近くもある重い荷物(米等の食料持?)、雪不足で毎日地藏岳まで登山、お握りを立ったままで喰う昼食、ガタガタになった膝でザンゲ坂を下りての三角小屋への帰還、八時には寝てしまう原始的な合宿(?)。初めて作ったユニフォーム左腕に二本の白線が入った緑色のセーターは真っ白な斜面によく似合った。合宿の一日の終り、リフトを降り赤く染まった月山方向の西の空を眺め今日も終わりだなあと感慨に耽る。

昭和三四年野沢でのインカレ…滑降コースの三九度の壁の下に前年度死亡事故があった大樹に同輩の荒木大将(勉、昭和三四年卒)が激突しスキー板が都合五片に折れるも幸い大怪我には至らなかった。この大会で、当時日本では未だ珍しいライトブルーのキルテングコートを纏い颯爽と回転競技のポールセットを指示していた猪谷千春の姿が印象に残っている。大会を終えて仙台への帰途長野駅前「油や」でのすき焼

は美味かった、「油や」は八木健三先生(初代副部長)の学友が主で今も駅前のビルに店あり。

そして最後の大会は県体、東北大としてはじめて参加したリレーチームの一員として走ったのはいい思い出になった。

現在卒部六三年なるも元気で暮らしている。自分は春、秋は軟式テニス部と二つの運動部で活動していた。部活での練習が身体の健康基盤を作り、部活動の体験がその後の人生の歩みの糧となり今日の生活があるという意味で、スキー部には大変感謝している。

プロジェクトX「富士山レーダー建設」

NHKの「プロジェクトX」は二〇〇〇年三月から六年間で一九一回放映されている。その第一回そして最初の場面に登場し、昨年三月の再放送で五七年前の仕事が再び取り上げられたのは懐かしくもあり、幸運だと思っている。

私は三菱電機入社数年の時代、厳冬の富士山頂調査隊の責任者、レーダードームの主設計者として富士山レーダー開発プロジェクトに参画した。

真冬の山頂測候所からの山頂、東京間の見通し試験はNHKテレビ、小説・映画「富士山頂」の名場面として描かれている。最後の最後に見通し試験を奇跡的に成功させることが出来た。『執念は周りの人を動かしそして自然現象まで味方してくれることがある。何でも一所懸命やれば何とかなるものだ』というこの若い時の体験がその後の自分の大きな財産となった。

この見通しテスト、レーダードーム設計過程での悪戦苦闘の数々、山頂のドーム設置後間もなく大型台風の直撃を受けその現場に居合わせる、そして無事だったこと等。この仕事を通して自分という単なる個人を超えた天命というか不思議な力を感じた。今思うと日本の高度成長の時期次々と新しいテーマが出てきて若い技術者が挑戦する場があったのは幸運だった。

自分が設計したレーダードームが風速一〇〇mに本当に耐えるかのチェックは、会社では出来なく、当時の世界的な權威の大学教授に頼った。こんなエピソードがある、ある夕方東大の研究室で「もう時間だからいいだろう」とウイスキーをご馳走になった。畏れ多い大教授が若輩技術者にこのような気遣いをして呉れることに大感激！将にオールジャパンで前向きな高揚した機運が日本中に満ちていた良き時代であった。それにしても自分がやった仕事が今もテレビで見られたのはうれしい限りである。

テニスと健康

健診の諸数値を下げるという健康上の理由で六〇歳からテニスを再開、現在も週数回はテニスをやっている。お蔭で何とか心身の健康を保っている。月数回壺富士雄君（昭和四四年卒）らとのテニス&アフター、先日は石田孝（昭和三六年卒）、栗原義郎（昭和三七年卒）、青山浩志（昭和三八年卒）、壺等の諸兄とのPTC懇親、また何度か白馬でのテニス大会（清水ヒュッテ）にも参加させて貰う等のスキー部OBとの交流もある。

テニスは男女、年齢に関係なく体力に応じた運動が出来る個人スポーツであり、楽しみながら心肺機能・足腰の筋力維持が出来るのは有難い。いろいろなスポーツの中で健康寿命維持に最も効果があるというデータがある（テニスをする人は運動しない人より九・七年健康余命が長い）。また頭を使いながら身体を動かす、仲間との交流・コミュニケーションは脳の健康維持に非常にいい。加齢による運動能力（バランス、柔軟性等）の低下は避けられないが、出来るだけ遅らせるべく毎日自宅トレーニングをすることになっている。

今年初めより一念発起しベテランシングルの全国各地の公式大会へ参戦している。現在全日本ランキング第二〇位（八五歳シングルの部、令和四年六月現在）。シングルスは一對一の対決で、フルセットになると二時間以上も走り回ることもある、体力・足+頭（作戦を考える力）の耐久性が勝負になる。元気であれば九〇歳シングルスをやりたいと思っているが…（了）

四年間のスキー部生活を回想

小野寺満憲（昭和三五年卒）

スキー部入部まで

・北海道美幌町で小中学校。自宅から見えるジャンプ台付設スキー場で熱中。ある日鮮やかな滑りの選手を見かけた。当時のインカレ（全日本学生スキー選手権大会）のトップ選手・法政大学湯浅選手の帰省時の滑りだった。小枝ポールで夢中で練習。網走地区大会入賞が町のスポーツ店に掲示されたのが幼き日の誇らしい思い出。新婚旅行でスキー場の小ささに驚き。

・中学三年の秋、母の父危篤。「孫の誰かが、仙台の大学に」との強い遺志と、次弟の脳手術のため子供七人引き連れての移住決断。三年の三学期に五橋中学に編入。「熊の出るような田舎から今頃出てきた小野寺君は仙台の高校は無理」と言われていたらしいが、必死で勉強し幸い仙台二高に合格。だが、三年間は仲間もできない追いついていくだけのガリ勉田舎者。さらに試験直前の親戚からの故郷登米への帰農圧力騒動。勉強どころではなくかなり雌伏の浪人生活。やっと、祖父の希望通り、叔父と同じ工学部機械科に合格するも劣等感の塊でお先真っ暗。一年生の一四六cmが一六六cmに急伸した心身のアンバランスも影響しての精神状態だったのだろうか。五年間のスキー・ブランクがあったが唯一、人並に出来そうなスキーで立ち直ろうとスキー部入部を決意。

トレレニングの思い出

・一年時インカレは、参加の力なしとの先輩達の判断。五十周

年記念誌の創部時の森昌造（昭和三〇年卒）・吉田裕（昭和三一年卒）先輩らの成績を知ると当然の判断だったと納得できる。それでも初参加の鳴子での県民体育大会スキー競技会で国体強化選手枠に入る成績だったらしい。大学へのその連絡は私には届かなかったが、トレレニングに励めば何とかかなるとの希望を持った。

・トレレニングコースに青葉城の急坂があり、力の配分を知らない新人達のダツシュを横目にベテラン達は途中ですいすい追い抜く快感。この成果が校内マラソン大会で発揮されスキー部員続々上位に。私は途中の急坂で断然トップに躍り出たが、先のコースが分からず後続を足踏みしながら待つ失態。その後山岳部の選手と追いつ追われつ。九十九山道でのコース取りの差（最短か、真ん中か）を面白く思いながら走ったが山岳部に敗れる。

・三年生から栗原義郎君（昭和三七年卒）と早朝トレレニング開始。自宅から同距離の東照宮までのランニングで湯気ポツポツで落合い階段利用の兎跳びなど一時間余り練習。家で千回縄跳びし、途中の仙山線ルール上をバランス訓練と小走り。今考えると合理性疑わしい内容でお恥ずかしいが二人とも超真面目。誘う私も可笑しいがそれに応えた栗原君も同類。それで疲れて授業は居眠り常習犯。同学科の鈴木浩一先輩（昭和三四年卒）のノートに助けられ以後頭が上がらず。

トレレニングの余慶

・三年生の夏休み、今年こそインカレ入賞をと工学部必須の工場実習にも行かずトレレニングに励んでいたが、時間を持って余り校内のロシア語講座を何気なく受講。そこで聴いたロシア民謡が胸にぐっと響き独学開始。今考えると、チチハル生まれの幼い私の耳に、ノモンハン事件直前でロシア情報収集していた父（憲兵）のロシア語学習や隣人の白系露人の娘ナターシャ姉さ

んが可愛がつて遊んでくれていた片言ロシア語が入っており、その脳内記憶が蘇ったのかもしれない。

・入社直後から自分の専門分野のロシア語文献が提携先のアメリカ企業の技術をも上回る内容なのを知って有効活用しながら技術ロシア語学習。当時の米露の激しい技術競争でソ連邦中心のモスクワに人材・資金を集中して連邦向け実用的設計書が出版されていたらしい。その状況を日本の業界誌に「ターボ機械のロシア語技術資料展望」として皆さんの参考に供した。全露科学技術情報研究所発行の月刊要約誌「ポンプ・圧縮機・冷凍機」(1969-1998)に紹介された専門図書とターボ機械設計書で実用性で独語設計書以上と評価されたベー・エフ・リスの「一九八一年版、遠心圧縮機」序文からソ連邦のターボ機械の有り様を概観した。ソ連邦崩壊で余慶は消えたが同時に定年退職。現役時代の良いとこどりのロシア語に感謝。そして幻のナターシヤに。

インカレ回想(五〇年記念誌で確認でき有難かった)

・二年生の時、五色インカレ(第三一回大会、昭和三三年一月)に初出場。菅原俊成主将(昭和三三年卒)の寒いスタート地点サポートに感激。折ったマイスキーの代わりに部備品の二・一mのヒッコリースキーで出場。回転では長さをこなせずコースアウトし、完走したが二本目滑れず。滑降は中間曲がり部の人命救助筵巻き大木範囲を安全減速したがヒッコリーの滑りで二八位に。

・三年生の野沢インカレの記憶は、トップ学生選手達との合同練習での引退直後の猪谷選手の段違いの世界レベルの滑りに感嘆。あの湯浅選手が役員として参加していたのに感慨。最善の夏季トレーニングで臨んだ合宿初日に捻挫負傷でポール練習不足。後輩の森啓(昭和三六年卒)・柴田徹(昭和三六年卒)両選手に負ける。意気込み過ぎ注意の人生訓。但し、その後の仙台学

生大会で高熱看病を受けながらも優勝したのがささやかな満足感。

・四年生の小樽インカレ。滑降では二七位で部内トップ。回転ではただ一人二本目完走し三一一位。当時、一・二部共通ポールで、一部選手のコースとり二流選手の轍に構わず直線最短の轍に技術の差を痛感。また、練習バーンでの地元高校女子選手の滑りにも及ばない自分のレベルにがっかり。

卒業後のスキー

・会社に競技スキーの機運があり部を創設。合宿には我が先輩達と競い合った北大出身の中条指導員の指導を受けた。最後まで勝てず先輩達のレベルの高さを再認識。

・定年間際、妻が所属する神奈川県のみろく(美老久)山の会の冬のスキー合宿での指導を頼まれ、指導員取得に挑戦。低速技術に苦労したが六六歳で指導員合格。会員八百名中二百名を指導。曲げようとしなくて立ち上がって曲がるのを待ちましょうとのキーワードで多くの有級者を。

最後に

スキー部OBの鈴木・栗原・中澤篤郎(昭和四三年卒)諸氏と共に十数年間、田中英道東北大名誉教授(元歴史教科書をつくる会会長)の英道塾で「国民の芸術」をテキストに日本の歴史・文化を学ぶ読書会や歴史探訪で時間を共有できた。スキー部での共有記憶がある分他のメンバーとは違った親しみを感じながら交友を楽しんだ。同期のマネジャー山田文彌君(昭和三五年卒)は浪人時の学友で、スキー素養なしにも拘わらずその人間性で現在大きく育った各種の芽を生んだ人物として敬意を。

四年間のスキー部生活を振り返ると、我が危うい人生に大きな恵みを与えてくれた有難さをつくづく感じる。

揺籃期の東北大スキー部の思い出

石田 孝（昭和三六年卒）

この度、萩雪会会長の工藤さん（昭和三九年卒）より、スキー部七〇周年記念に当たり、SPURの記念号を出すとのことで、その原稿の依頼がありましたので、六〇年程前のスキー部在籍の頃を思い出しながら、文章を書いています。

私がスキー部に入るきっかけは、東北大一年生の昭和三三年の一月に、受験勉強から解放されて八ツ森スキー場でのんびりとスキーを楽しんでいた時に、スキー部の大先輩の吉田裕さん（文学部、昭和三一年卒）にたまたま声を掛けられてスキー部に入部しました。

新潟県の片田舎の元女学校が新制高校になった非進学校から運良く東北大に入った私は、競技スキーなどやったこともなく、スキー部に入ることなど考えてもいませんでした。その私に「君くらいの腕ならスキー部に大歓迎だ」と勧められて入部したのが始まりでした。

東北大のスキー部の発足の話は次の通りでした。当時の学友会にはスキー部は無かったため、能代出身の吉田さんと盛岡出身の森昌造さん（医学部、昭和三〇年卒）達が東北大スキー部の名を借りてインカレに出て、吉田さんが入賞するなどの好成绩を得て、昭和二八年六月に学友会スキー部として正式に認めてもらったそうです。

私は、昭和三三年の一月より三六年三月までスキー部に在

籍したわけですが、当時のスキー部はアルペンしか無く、試合に出ても好成绩を得ることは少ない状態でしたが、昭和三七年卒の栗原義郎さんが主将の時に、“本場の競技部になる”と頑張り始めたのがきっかけで、ディスタンス（クロスカントリー）の工藤さんたちが加わり、そのまた数年後にジャンプ陣も加わり現在の競技部としてのフルスペックの東北大スキー部が出来上がり、現在に至って好成绩を残せる本格的な競技スキー部になっていることは、誠に喜ばしい限りです。

私はスキー競技で良い成績は残せませんでした。卒業間近の昭和三六年のシーズンに、在仙大学対抗のスキー大会があり、それに参加して運よく三位に入賞したのが唯一の入賞記録で、その時の賞状をスキー部卒業の記念として、その後数年大事に保管していたのですが、海外勤務（メキシコシティ、ロスアンジェルス）十年の間の引越騒ぎに紛れて紛失してしまったのが、今では大変残念でなりません。

私は三年生の時に、マネージャーを務めた為、寄付金集めなどのスキー部の財政的運営に苦労しましたが、七〇周年を迎える今では、スキー部の諸先輩が各方面で多数活躍されており、寄付金集めなどはスキー部の揺籃期の頃に比べると、少しは楽になったと思います。スキー部の今後の益々の発展を祈念いたします。

インカレのリレー参戦記・世界選手権大会

(ノルウェー) 観戦記

森 啓 (昭和三六年卒)

はじめに、現役時代の自分の空前絶後のノルディック競技参戦について紹介したい。毎年、全日本学生選手権大会(インカレ)では回転と滑降に参加したが、自慢できる戦績は残せなかった。四年生の時の第三四回インカレは一九六一(昭和三六)年一月に長野県の野沢温泉で行われた。この時、スキー部は初めて四〇kmリレー(四×一〇km)にエントリーした。競技直前になって人員が一人足りず、全く素人の筆者が三走として走るようになった。

タツチを受けて走り出して一kmも行かないうちに体力が限界となり、スキーは滑らず、誰がこんなワックスを塗ったのかとぶつぶつ言ったりしていたが、三走なのに一部の四走の選手たちに追い抜かれ疲労は極限を越えた。「がんばれ!」という応援に励まされたが、屈辱的なヒソヒソ話も聞こえてきた。反発する気力もなく、頭を真っ白にしてゴールに倒れ込んだ。その後の記憶は全くない。「実力もなく、展望もないのに、唯々諾々と軽々に物事を簡単に引き受けてはならない」という大きな教訓を残した。

話は変わって、学部卒業三年後に縁あってスウェーデンに留学することになり、大学院を中退して、以後六年間ストックホルム大学地質学教室のお世話になった。東京オリンピック

ク(一九六四年)が終わって一週間後、横浜港からスウェーデンの貨物船に乗せてもらい、五三日掛かってスウェーデンにたどり着いた。

滞在二年目、隣国ノルウェーでノルディックスキー世界選手権大会が開催されることを知り、二泊三日の予定で応援に出かけた。ノルウェーでは、スポーツ選手として最も人気のあるのはノルディックスキーの選手で、しかも複合の選手は憧れの的であることをこの時知った。

応援初日、会場のオスロ市郊外のホルメンコーレンは、応援の人でうめつくされた。距離競技のスタートでは、地鳴りのような大歓声に圧倒された。以後の世界選手権大会やオリンピックのテレビ観戦でも、このような人の波は見たことがない。日本選手の戦績は厳しかったが、日本の選手一人ひとりにも大きな声援があったのは印象的だった。

この観戦旅行には、大きな(研究上の)おまけがあった。ノルウェー行きのことを指導教官のヘスランド教授に話したところ、オスロに行くなら、オスロ大学のヘニングスモエン教授(古生物学)に会ってくるように言われ、電話で会う約束もとってもらった。オスロ滞在二日目、オスロ大学地質学教室で先生にお会いし、自分の進行中の学位論文の話をし、これが契機となってノルウェーでの研究が実現した。

二年後に野外調査に行ったが、この時お世話になったオスロ大学のボツケリー氏に車でホルメンコーレンに立ち寄ってもらった。大会の大歓声とは対比的に、人の全くいない静寂が印象的だった。戦いのあったジャンプ台のてっぺんからのスカゲラック海峡(オスロ湾)とオスロ郊外の遠望も素晴らしいかった。もし今、外国旅行でどこに行きたいかと問われれば、躊躇なくスウェーデンとノルウェーをあげる。

東北大学スキー部の歩みと萩雪会

栗原義郎（昭和三七年卒）

創部のいきさつは既に、森昌造さん（昭和三〇年卒）がスキー部五〇周年記念誌（二〇〇二年）に、吉田裕さん（昭和三一年卒）がSPUR59（2015）に詳しく書いているが、当時の部活動を共にした者の一人としてその頃のスキー部の歩みを記しておきたい。

東北大学スキー部は一九五二（昭和二七）年一月に岩手県鉛温泉で開催された第二四回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）に千葉忠男さん（昭和三一年卒）、森昌造さん、大田口隆さんが参加したことを契機に誕生した。初めはスキー愛好会だったが、翌一九五三年の第二五回インカレ（米沢市五色温泉）で吉田さんが滑降で二部六位に入賞するなど（総合十一



影 近 者

位）の実績を残したことから、その年の六月に学生会スキー部として正式に認められた。筆者が入部したのは一九五七（昭和三二）年であるが、中学生だった一九五一（昭和二六）年頃から八ツ森や鳴子で開催されたスキー大会に出場してい

てスキー部の先輩とも交流があった。高校生の頃には大学のポールを吉田さんや森さんなどと一緒に滑らせてもらっていて、緑色のセーターの腕に二本の白線があるスキー部のユニホームは憧れの的だった。

当時は加藤愛雄先生が部長、八木健三先生が副部長だったが、実質的なリーダーは金属材料研究所の柳原正先生だった。体育系の北村仁（第二代部長）、佐藤昭男（顧問）、海鋒修（顧問）の諸先生とも国体予選や本大会などに同行して親交があったので、筆者はスキー部創部前から十年以上も一緒に行動したことになる。

当時のスキー部

教養部は富沢や三神峯に分散されており学部は片平丁にあった。スキー部の部室は片平キャンパスの法学部テニスコート前の「部室長屋」にあった。スキー部は学友会の正式な運動部だったが、当時はスキーブームだったこともあり未だ同好会か、それに類した雰囲気もあった。一九五六（昭和三一）年にイタリアのコルチナ・ダンペッツォで開催された冬季五輪で猪谷千春が回転で銀メダルを獲得し、アルペン三冠王のトニーザイラーが映画「白銀は招くよ」に出演したり、来日して山形蔵王で滑ったりしてブームに火を付けたのだった（撮影にはスキー部員がアルバイトとして協力した）。

川内キャンパスが未整備だったので評定河原運動場が唯一のトレーニングの場だった。他には青葉城址への坂道、大年寺山の中継センターや植物園への道がトレーニングコースだった。冬の合宿には蔵王温泉の山

形屋に頼んで「どんぐり小屋」を使ったり、共済会のドッコ沼の施設や三五郎小屋などを使った。

筆者は在学中にインカレに四回、宮城県代表として佐藤陽二さん（昭和三十一年卒）や吉田睦男君（昭和三十九年卒）と共に国体（大回転）に二回出場した。インカレは三年生の時までは二部だったが、参加校の増加により翌年（一九六一年）から三部制になり、前年度の第三三回インカレ（小樽、一九六〇年）で無得点に終わった本学は残念ながら三部校になってしまった。

森啓さん（昭和三十六年卒）、石田孝さん（昭和三十六年卒）、市川民雄君（昭和三十八年卒）、青山浩志君（昭和三十八年卒）、吉田君たちと共に夏冬を通して一生懸命に練習し学友会運動部としての存在を示したかったがなかなか二部復帰は叶わなかった。

アルペン種目が主体だったが、高橋公正さん（昭和二十九年卒）、笛木 劬さん（昭和三十三年卒）、佐藤多助君（昭和三十七年卒）、渡辺 洋君（昭和三十九年卒）などノルディック種目を目指す人たちも現れ始めた。一九六〇（昭和三五）年にはリレーチームが結成され、少しずつ運動部らしくなってきた。工藤博司君（昭和三十九年卒）を中心とするリレーチームは第三六回インカレ（野沢温泉、一九六三年）で三部五位と吉田裕さん以来十年ぶりの入賞を果たし、翌年の第三七回インカレ（鳴子）でも四位に入賞したがまだ二部には手が届かなかった。

運営資金の調達

合宿や遠征の費用調達のためダンスパーティーや映

画会、講演会などを開催して資金を集めた。山岳映画やスキー映画製作で名の通った福原プロダクションやプロスキーヤーの三浦雄一郎氏（北海道大学スキー部OB）を招き好評を得た。

主務の中村彰太郎君（昭和三十八年卒）や加藤孝君（昭和三十九年卒）が部誌の広告や資金集めに奔走してくれた。市内の運動具店やスキーメーカー（西沢スキー、飯山スキーなど）の援助も助けになった。

部誌からSPURへ

スキー部の活動を記録する部誌第一号は一九五七（昭和三二）年に発行され、第二号、第三号と続いたが、部誌に親しみやすい名称を付けてはどうかということになり、金ヶ崎史朗君（昭和三十七年卒）、渡邊高峯君（昭和三十八年卒）、竹内興二君（昭和三十九年卒）、工藤君、今枝友明君（昭和四〇年卒）たちが中心となって検討した。雪の斜面に画かれるシュプールに部活動の記録“足跡”（独語 SPUR）の意を込めて SPUR に決まり、部誌第四号は SPUR No. 4 と名を変えて現在に至っている。

東北地区大学スキー大会の創設

当時、学生のスキー競技会としてインカレと在仙三大学対抗大会があった。東地区大会の開催を望む声が高まり、加藤愛雄先生の尽力もあって、岩手大学、山形大学、東北学院大学、東北薬科大学等が参加する東北地区大学対抗戦が実現し、第一回大会が一九五九年一月に岳温泉スキー場で開催された。この大会から女



健命寺での合宿【野沢温泉村、1960(昭和35)年12月、左から4人目が筆者】

子の部が創設され、アルペン種目で松本(坂本)弘子さん(昭和三十六年卒)、栗原幸恵さん(四年生時逝去)、菊池(武田)尚子さん(昭和三十八年卒)、鬼木(栗原)美枝子さん(昭和四〇年卒)らの活躍があり現在の女子部門発展の礎を築いた。一九六一年一月に鳴子スキー場で開催された第三回大会では、東北大学が初めて総合優勝を飾り、その後も好成績を納めた。

運動部としての強化合宿

夏冬を問わず色々なところで合宿をした。金ヶ崎君と第三四回インカレ(一九六一年年)開催地の野沢温泉で合宿所を探していたところ、日陰ゲレンデ下の健命寺の本堂を借りることが出来、鉄道便(チッキ)で寝具を送り、安価な合宿ながら成果をあげたことは思い出深い。野沢は豪雪の地である。到着した晩に一メートル以上の積雪があり、昨日まで見えていた墓石がすっぽり埋まってしまった。半日かけて全員で日影スロープを踏み固めた。宿舎の本堂には雪が舞っていた。イワ

シや竹輪の天ぷら(精進料理)も初めての経験だった。ちなみに、健命寺は長野名物「野沢菜」の種元である。春には雪を求めて宮城蔵王の白雲山荘(かもしか温泉・賽の河原の下の濁川沿い)にあったが火災で焼失)、湯殿山、月山などでも合宿した。有志で夏の穂高唐沢や立山の雷鳥沢に遠征したこともあった。桂島(松島湾)の公民館に泊まった夏の合宿では、ボート部から借りたフィックス(六人で漕ぐ椅子固定式ボート、二艇)を皆で心を合わせて漕いで塩釜の艇庫と桂島を往復し、チームワークの育成に役立った。

「萩雪ヒュッテ」の建設

運動部として成長し、競技力を高めるためには合宿のベースとなる自分達の山小屋を持つことが大きな目標だった。副部長で地質学が専門の八木健三先生が加藤君と工藤君を連れて山形蔵王に出掛け、候補地の地質(飲料水確保のため)を調査した。一方で大学(学生部)への予算化の働き掛けと資金調達のために、中村君らが大いに活躍してくれた。富田光彦君(昭和三十九年卒)を東北大学学友会の運営委員に送り出したことも大学への働きかけに大きな効果があった。蔵王温泉の老舗旅館である高見屋、大平ホテル、山形屋、樹林などの協力を得て建設場所や給排水等の許可が得られ、ついに山小屋の建設が実現した。

「萩雪ヒュッテ」の完成は筆者が大学を去った後のことだった。その数年後には、昭和四三年卒の高田潤一君、原田有造君、照井頌二君、中澤徳郎君たちを中心とした第一期黄金時代を迎えた。近年、スキー部が

総長表彰を受ける運動部に育った背景には、萩雪ヒュッテの存在と、合宿の場を提供してくれた白馬の清水邦敏君（昭和五七年卒）と真理子（昭和五六年卒、旧姓仕入）夫妻のヒュッテ「絆」の存在だと筆者は思っている。

八木杯と萩雪会

萩雪ヒュッテが完成してから、三月の卒業時期に現役とOB・OGが一緒になって、アルペン、クロスカントリー、ジャンプの三種目総合で競う「八木杯」が開催されることになった。北海道大学に転勤した八木先健三先生の功績を記念する部内大会である。現役と萩雪会会員が交流を深める絶好の機会であり、在仙の加藤君や工藤君に加え、関東からも筆者の呼びかけに応じて石田さん、青山君、壺富士雄君（昭和四四年卒）らが何度も参加して八木杯を盛り上げた。

これとは別に清水君の白馬の「絆」をベースにスキーだけではなくテニス大会も毎年開催され、杉山弘一君（昭和五六年卒）や中川万規人君（昭和五七年卒）たちの努力によって萩雪会の交流の場が広がっている。個人のこと

多くの先生、先輩、同輩、後輩に恵まれたことは筆者の人生にとって貴重なものである。一九七〇年代に数年間、仕事でドイツに滞在した。その際、ヨーロッパのスキー場や山々を訪れた。ベンゲンの滑降コースは厳しく長く、シヤモニーの谷は硬くて急斜面だった。ホルメンコーレンやインスブルクのジャンプ台は天に高く伸びて怖かった。

金ヶ崎君、八木先生や佐藤昭男先生がデュッセルドルフに訪ねて来られ、工藤君とはスイスのインタールンケン近くのドライブインで偶然に出会ったこともあった。学生時代、家が近かった小野寺満憲さん（昭和三五年卒）とは毎朝近くの東照宮境内の階段上りや仙山線の線路上でバランスの練習をし、多くのことを教えてもらった。

萩雪会東京支部の前身は小野寺さん、当時在京の柳原先生、鈴木浩一さん（昭和三四年卒）たちと始めた白頭会である。一九六四（昭和三九）年十月に東北大学萩雪会が発足したのを受けて（発足の経緯はSPUR64（2020）掲載の「東北大学萩雪会のこと」参照）、名を変えた東京萩雪会の運営を支えてくれた清水君、壺君、上条敦君（昭和五三年卒）、八重樫誠司君（昭和五七卒）らにも感謝したい。

筆者には四人の兄妹があつたが、筆者を含め三人がスキー部に所属して活動出来たことは創部七〇周年を迎えるに当たり真に悦ばしく感慨深いものがある。

大学の制度や基盤は時代とともに変化するが、スキー部と萩雪会は永遠の存在であることを祈念する。

※ 本稿はSPUR64（2020）に掲載された「東北大学スキー部の創設と萩雪会の発足、そして拡大」をSPUR七〇周年記念号に転載するにあたり著者の許可を得て工藤博司が縮刷版として再構成した。

振り返ると

金ヶ崎 史朗（昭和三七年卒）

卒後のスキー部の継続と発展に賛辞を送り、創部七〇周年を祝いたい。本稿を書きながら、亡くなられた恩師、先輩、同輩、後輩の一人一人に思いを馳せているところである。

前回五〇周年記念誌には現役時代のことを少々書いた。

今回は自分自身のことについて紹介したい。ただ前回、栗原義郎君（昭和三七年卒）が書いた萩雪の名称決定は、部屋が片平丁から評定河原に移ってからで、幾つかの候補の中から故渡邊高峯君（昭和三八年卒）提案のものをOB数人で選んだものである。彼と私、栗原君の他、工藤博司君（昭和三九年卒）、故竹内興二君（昭和三九年卒）など後輩諸君三、四人が投票に加わった。なお、部誌四号（一九六〇年）に始まるSPURの名は、栗原主将の下副将として一緒に部内を切り盛りしていた私の発案である。

私は大学（旧理学部生物学教室）とは道路を隔てた片平丁小学校の出身である。明治生まれの父がスケートとテニスに堪能だったので、小学校の時から、冬になると毎朝四時起きで当時五色沼にあったリンクに通いフィギュアスケートに励んだ。スキーは中学生になって、かつての疎開先、岩手県岩谷堂で始めたが、スケートより格段に面白く、大

学では本格的にスキーをやりたいと思っていた。テニスを始めたのはその後随分後になる。一方、小学校の高学年の頃には、生きている事へ興味を持ち、漠然ながら将来生命に直結するような研究をしたいと考え始めていた。東二番町にあった東北学院の中高一貫教育の中学一年の時、新設なったサイエンスビルでの動物学の授業で、年間を通じて週一回、各種小動物の解剖実習があり、さらに人類の遺伝学など関連分野の本多数を読んで、生命についての関心を深めた。

幸いなことに生命科学分野における探求心と、スキーへの情熱は八三歳の今日でも持ち続けることが出来ている。昨年も、渡邊君を苦しめた多発性骨髄腫による骨の損傷防止の手立てについて論文を国際誌に掲載した。現役教授時代には身体の防御機構の解明とその欠損による易感染性患者の研究を、退官後は主として防御機構を利用した固形がん治療法の開発研究に取り組み、現在でも実現化の夢を追い続けている。一方スキーについては、回転や停止の為に脚力を使わない技術を長年指導してきた経験を基に、その理論づけと解説、具体的やり方とこつ、練習法を記したスキー技術書を最近書き上げ、公表を考えている。

大学院終了後、スキーが出来る留学先として Boston の医科大学を選び、一九六八年から五シーズン、研究の傍ら米国東海岸各州のスキー場を楽しむことが出来た。帰国しないつもりで渡米したが、業績が評価されて東大医科研に招

聘され、東京在住の五年程は栗原君らの創設になるスキークラブに加わって滑った。その後、西独 Feiburg の某教授にスキーが出来るからと勧誘され、大学院生を連れて研究単位を移した。Düsseldorf に滞在中の栗原君とは入れ違いになった。ここでは一九七七年秋から七九年春まで、年間を通じて欧州各国各地の有名スキー場で滑ることが出来た。

その後再び東大に戻ることになり、スキーのできる医学生物学の学会、特に米国の Keystone Symposium などには好んで出席し、Colorado 州や Utah 州のスキー場に滞在した。

また欧州での国際会議の度に機会を作ってスキーをし、New Zealand & Australia でも学会に乗じてスキー場を訪れた。同好の土を見つけ、リフト上で専門分野の情報交換や討論を行う楽しみもあった。また休暇でカナダ CMH のヘリスキーや Banff 近郊のスキー場にも行く機会があった。

一方、日本では故森昌造教授（昭和三〇年卒）らと盛岡近郊の網張スキー場をベースに滑り、毎年各地のスキー場で開かれた外科系の集会や立山で開催のがんセミナーにも紹介頂いて参加した。また、一九八七年からは、当初は春に後には厳冬期も加えて年に数回ずつ、森教授に他の仲間も加えて八甲田を滑った。これは三度目の海外赴任となる二〇一二年まで続いたが、オフピステがブームになる前だった。また、現役教授時代には栗原君とも一緒に滑る機会が多く、特に志賀高原は彼の世話で良く通った。この二人とは、機会があるとスキーの技術論やスキー板の性能など

についての論議を楽しんだ。

私は二八歳の時、左膝内側側副靭帯の損傷で、膝は外側に外れ、九〇度程度にしか曲がらなくなってしまう。それでも長い間スキーを続けていられるのは、脚力による回旋技術に到達したからである。止めるのではなく止まるように、曲げるのではなく曲がるように身体を動かす雪と喧嘩しない技術なので、外国での長距離滑走でも止まることがなく快感度高く滑れた。

技術の基となったのは、若い時に研鑽した、ずれることのないアイスおよびローラースケートの体重移動と膝の先行を使った回旋である。スキー板の動きに着目すると、回旋はエッジからエッジへの切換でおこり、自分がそれに合った合理的な身体の動きをしていることに独逸から帰国後に気付いた。カービングスキーが普及するずっと以前のことである。腰を折らずに立っている疲れの少ない体勢で滑り、スキー板にきちんと乗った山回りで、ずらさずに斜面を上れば速度が制御され、その時点で身体（重心）を回旋弧の中心に向かって伸ばしエッジを切り替える。膝も谷側へ傾くが同時に膝を中心とした上体を斜面に正対する方向に捻じると、その動きがスキー板に伝わり回旋を助長する。この早い段階でのエッジの切換により、整備していない斜面でも回旋当初からスキー板が雪面を切って進んで行く。二つの先行動作でスキー板は身体の後から付いてくるので余裕もある。抜重動作を伴う回旋とは異なり、スキー板は

常時雪に働きかけており雪煙の上りが少ない。

この技術は、スラロームを経験した部員には習得が容易と考えている。スキー板を蹴って身体を思い切り斜面下方のポールに向かって伸ばし、身体を先行させる体験が役に立つからである。スキー部で一緒に滑った古い仲間たちとも何年か一緒に滑る機会があったが、渡邊君の場合には、急斜面で頭から斜面に突っ込むと示唆したところ、簡単に技術を習得した。感覚は個々のスキーヤーで異なるが、競技経験者には他の方法もある。山回りでスキー板をシェーレン状態に開脚すると、身体（重心）が両スキーの間にあるので、そのまま重心を残しながら山スキー板に乗り、谷スキー板を引付ければエッジ切換が容易にできる。この時膝を中心に上体を谷に正対するように廻す。回転に際して踏み込む山側スキー板への乗り方は、谷側スキー板の位置がどこにあっても変わりがないという統一的な理論を基に指導している。これによりブルークボーゲンの初心者から上級者まで一緒に練習ができる。

現在でも年間五〇日近く、長い間教えてきた九〇歳近くの男性を含め、網張の三本リフトをつないだ頂上からリフトの始点までの長距離を、トレインで止まらず一日何本も滑走することが出来ている。この技術に興味を持つ諸君の連絡を歓迎したい。（二〇二二年四月記）

東北地区大学スキー競技会と新聞報道

青山浩志（昭和三八年卒）

スキー部創部七〇周年記念SPURの寄稿依頼を受けて、まずは古い学生時代のアルバムを本箱の片隅から引っ張り出して、見ることにしました。なんと、その中に鳴子での「第三回東北地区大学スキー競技会」を伝える河北新報の切り抜きが出てきました。

一九六一（昭和三六）年一月二六日の開会式を伝える記事には、「華やかに開会式」の見出しで、開会式は加藤愛雄大会委員長（初代スキー部長）の開会宣言に始まり、大会会長黒川利雄東北大総長の挨拶、選手代表の東北大主将栗原義郎選手が力強く宣誓して、第一日目の開会式の様子を写真入り三段抜きの記事で伝えていきます。

大学対抗の新聞予想では、全日本学生スキー三部回転十三位の栗原（義郎、昭和三七年卒）選手（東北大）、ベテランの森（啓、昭和三六年卒）、柴田（徹一、昭和三六年卒）両選手、二年生の青山（筆者）選手と層が厚く、総合優勝は東北大が有利と記者は書いています。

翌二七日の二日目の記事は東北大がリードの見出しで、回転競技について、期待の栗原選手が中ごろの旗門を失し、圏外に去ったが、青山、竹内（興一、昭和三九年卒）両選手が二、四位にくい込んで、穴をおぎなつたと書いています。

それから数十年経って、八木杯のスラロームで栗原さんとは十数回競っています、一度も勝たしてもらえないのは、多分この記事のせいかも知れません。

二八日の最終日の記事は「東北大初の総合優勝、行を替えて、」大回転で坂本（弘子、昭和三六年卒）（女子、東北大）の五段抜きの見出しで、まさにオリンピック並みの扱いです。

競技会の総評では、技術的な考察のほかに、競技運営に協力した鳴子体協、自衛隊の努力に敬意を表したいと結んでいます。多分総評は北村仁先生（当時副部長）が書かれたような気がしますが、大会委員長の加藤先生の大会を運営するにあたって、組織の調整力と行動力が新聞報道にも表れています。

全国紙を除けば、四大地方紙（北海道、河北、中日、西日本）

の一つである河北新報が、回転と大回転の二種目しかない東北地区大学スキー競技会を三日間にわたって大々的に取り上げ報道したのは、前年（一九六〇年）東北大ボート部がローマオリンピックに出場したことにより、大学スポーツに対する関心が高まっていたためと考えられます。

それから半世紀以上たつて、白馬のゲレンデで地獄の特訓と表し、二〇歳以上も年上のこの老人に稽古をつけてくれるヒュッテ「絆」のオーナーの清水邦敏（昭和五七年卒）、真理子（昭和五六年卒、旧姓仕入）夫妻、毎回難しいポールセットをする中川万規人君（昭和五七年卒）に、この切り抜きを見せたい。



第3回東北地区大学スキー競技会総合優勝（1961年1月、鳴子・上野々）
前列左から柴田、森（啓）、佐藤（陽）監督、加藤部長（中央）、栗原主将、武田（周）、坂本、海鈴先生、後列左から中村、鈴木、竹内、金ヶ崎、青山、小川、栗原（幸）、三玉、石田、内田、渡辺（勝）、渡邊（高）、渡辺（洋）、工藤、日下、加藤（孝）

「虎溪三笑」

中村彰太郎（昭和三八年卒）

長野県野沢温泉の健命寺で合宿した部員は三四名の大所帯。飯を炊き、おかずも手造り。ドカ雪が降り、練習前はラッセルでひと汗かいた。二年生の私はサブマネージャーとして、正マネージャーの高頭正行先輩（昭和三七年卒）と下働きに精を出した。

スキー部の活動を記録する部誌を親しみやすいものにするこゝとなり、編集を教養部時代に引き受け、加藤孝君（昭和三九年卒）たちと分担して広告集めに励んだ。

愛称が「SPUR（シュプール）」と決まり、表紙の絵は栗原義郎先輩（昭和三七年卒）に、目次のデザイを建築科の山品寛一君（昭和三九年卒）にお願いして「楽しい部誌」が完成した。部誌第四号はSPUR No. 4 (1960)と名称を変えて現在に至っている。軌跡という過去だけでなく、滑る足元の現在、先を見て描く未来を意味するのが「シュプール」です。

貧乏でも希望に燃えていた。正マネージャーとなり、先輩の事業を引き継ぎ、部活動費の一部は自分たちで稼ぐことにしたからです。下宿代を節約して合宿費を蓄えるために、麦飯三食付きの八畳の部屋で、後輩の吉田睦男君（昭和三九年卒）と二人で二年間生活した。

五月の連休には宮城蔵王かもしか温泉の「白雲山荘」に泊まり春スキーを楽しみ、練習に励んだ。副部長の八木健三先生と加藤洋（昭和三二年卒）、鈴木浩一（昭和三四年卒）、小野寺満憲（昭和三五年卒）の諸先輩も参加した。

夏のトレッキングは桂島の公民館で合宿。ポート部からフィックス二艘を借りて、塩釜の艇庫と桂島を往復した。帰路、潮に流されて一艘が牡蠣棚のりあげ、ようやく脱出するとう危ない思いもした。

十月には、「社交ダンスの講習会とダンスパーティー」の開催で稼ぎ、ハイライトは十二月の「スキー映画の夕べ」。二千名定員の「川内記念講堂」を満員にした。部員の行動力の賜物だった。竹内興二君（昭和三九年卒）が撮影した蔵王や月山のスライド写真を映写した時には「ワァッ！」という驚嘆の声が上がった。東北大学混声合唱団が歌う「雪山讃歌」、「山男の歌」、「北上夜曲」などに酔いしれた。大きな収入を手にして、合宿費と遠征費の一部を賄うことが出来た。

インカレは青森県の大鱈スキー場で開催された。仙



春の蔵王合宿（宮城蔵王かもしか温泉）
左から竹内興二、鈴木浩一、栗原美枝子、
八木健三先生、武田尚子、小野寺満憲、
吉田睦男、佐藤多助、清水絃治、高頭正行、
中村彰太郎、青山浩志、市川民雄
（1961年4月29日=工藤博司撮影）
朝の体操（ヨイシヨ！）

台から遠かった。猪苗代で開催された第四回東北地区
大学スキー大会では、男女とも総合優勝を果たし、名
をあげた。三月には山形蔵王パラダイスグレンデの「樹
氷の家」で合宿。優雅なスキーを楽しんだ。

ある日、スキー部長の加藤愛雄先生から電話があり
研究室を訪れると、「文部省から三五〇万円の予算を確
保したよ。山小屋の候補地を決めて欲しい」と満面の
笑顔で言われた。加藤先生のご人徳とお力は偉大でし
た。全員で「やった！」と歓声を上げた。これで、選
手は思う存分練習出来る。強くなれると思った。

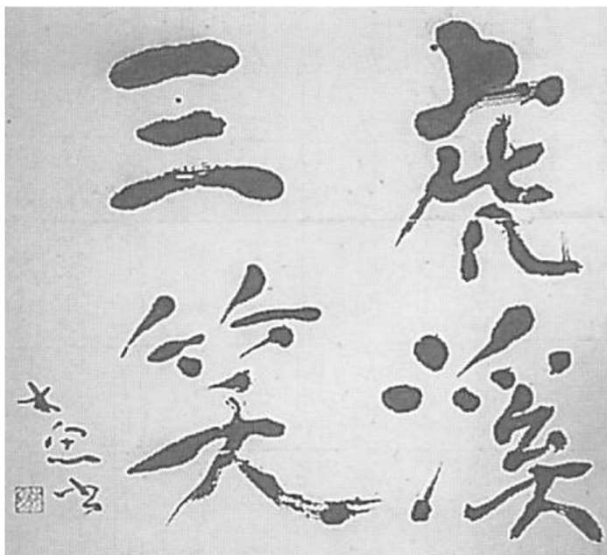
山小屋の候補地を山形蔵王と決めて、次年度の役員
(主将吉田睦男)に引き継いだ。一九六二(昭和三七)
年の夏、マネージャーの加藤孝君と副主将の工藤博司
君(昭和三九年卒)が八木先生(地質学が専門)のお
供をして高鳥コース脇の国有地で水脈調査に汗を流し
た。最終的には、大平ホテル所有の現在地を借用する
ことになり、一九六四(昭和三九)年八月に待望の山
小屋「萩雪ヒュッテ」が完成した。

多彩な事業をやり遂げた原動力は、健命寺の「野沢
菜の味」と同じ釜の飯を食った仲間たちにあると思う
次第です。スキーがあまり上手くない人もいたが、部
活動に協力的で素晴らしい仲間だった。

「虎溪三笑」という故事がある。東晋の慧遠法師は
廬山東林寺に隠棲し、悟りを開くまでは虎溪の石橋を
二度と渡るまいと誓ったのですが、訪ねて来た陶淵明
と陸修静を送って行ながら、話に夢中になって石橋を

渡ってしまった。虎の鳴声で気がつき、三人で大笑い
したという。虎溪は東林寺の前の谷川のこと。
何時会ってもあの時に戻る。真の朋友であり人生の
心友たち。

創部七〇周年おめでとうございます。
共創工作！ 美好未来！



恩師・石川木魚先生の書

野沢温泉スキー場の思い出

富田光彦（昭和三九年卒）

名古屋生まれの私が初めてスキー場を訪れたのは中学二年生の頃で、年の離れた二つ上の兄に連れられて行った先が野沢温泉スキー場だった。昭和三〇年頃であつたらうかスキー場に入つて正面はなだらかな緩斜面、その先は急斜面の滑降コースと続く。一方、入つてすぐ右側は日影スロープと言つて急斜面の回転競技コースになつていた。全くの初心者のはもつぱら緩斜面の所で上り下り周回するロープに掴まりスキー板を滑らせて出発点まで上り、そこから滑つて下る。兄は山屋でスキーは余りうまくなかったがボーゲンなどを教えてくれた。

その後はスキーに触れることなく昭和三五年に大学生になつて、昔を思い出しスキー部に入部した。当時、オフは走り込みが中心で、大手門の急坂登り下り、亀岡八幡宮の石段登り、二段飛び、ウサギ飛び登り、これはきつかった。評定ヶ原の合宿所ではこれに加えて片平丁本部周辺の霊屋下、端鳳殿の辺りをぐるっと周り、野球場の外野フェンスの石壁の上に立つて前傾姿勢。先輩の叱咤に耐えながらよく頑張つた。

その年、冬の練習は奇しくも野沢温泉スキー場であつた。十二月半ばに身の回りの物や布団をチツキで送つた先は野沢温泉健命寺というお寺。広い本堂に三〇名は参加していたと思うが、

電気炬燵と石油ストーブ。寒くて、寒くて。一つの炬燵に十数名が足だけ突つ込み野沢菜に目刺しの天ぷら、よく我慢して過ぎたものだ。練習は、初級者と中上級者とに分かれていたと思うが、ゲレンデは日影スロープであつた。当時の主将は栗原さん、副将は金ヶ崎さん（通称ゲルさん）。

ゲルさん曰く「真つ直ぐ滑れ、真つ直ぐ滑っているうちに曲がるようになる」と厳しい叱咤激励。何とか慣れて来た時分、翌年一月二日、何本か滑っているうちに行つちやいけない方に飛び出しコブにはねられてドスンと前のめりに倒れて動けなくなった。直ぐさま、栗原さんとゲルさんが駆けつけてくれて「親指動かかー」。動く、痛みない、しかし立てない。温泉街の診療所に担ぎ込まれ、右脚の骨二本（脛骨と腓骨）の複雑骨折と診断。直ぐ実家に連絡が行き、兄三人が名古屋から夜行列車に乗つて翌日駆けつけてくれた。

長野電鉄木島駅から国鉄長野駅へ、スキー客でこつた返すホームの中を骨折者優先乗車、急行赤倉で名古屋へ。到着後すぐさま自宅近くの病院に直行、三ヶ月の入院生活。その時の事は昭和三六年のSPURに書いた。本部に保管されておれば是非再見したい。

二年生の時に中村彰太郎さん（昭和三八年卒）から学友会体育部で人を募集しているからやってみないかと打診され、体育部委員（学生委員）に就いた。部長は先生だったが、運営は殆ど学生に任されていた。体育部時代は各部への予算配分、七大学

(旧七帝大) 体育大会の創立準備、東北地区インカレの世話。三年の時には大学祭実行委員長を務めたこと等々得難い経験をさせて戴き大きな思い出となっている。本人は承知していなかったが、体育部委員にいたことが萩雪ヒュッテ建設に際して大学との折衝に役に立っていたと後から知った。スキーは上手にはならなかったが部には結構顔を出していた。

野沢温泉スキー場では昭和三八年にもインカレが開催された。私も現地で応援していたが旅館街では雪降る早朝各大学部員の「天突体操」のかけ声が勇ましく響き渡って結構盛り上がっていた。当時スキー部長をしておられた地球物理学の権威加藤愛雄先生も忙しい中応援に駆けつけてくれて、日影スロープでスキー板を履き竹ストックで立っておられたその姿を今でも懐かしく思い出す。

十年くらい前の秋に家内と野沢温泉を訪れた。健命寺は腐もせず立派に建っていた。本堂を覗いてみると広さは昔とかわらず、若い娘さんが出てきて怪訝そうに見つめてきたので「ずっと昔ここで合宿させて貰いましたね、懐かしくて覗いて見ました」と言ったらにっこりしてどうぞごゆっくりといつて引込んで行った。日影スロープは少し様子が変わっていたが斜面の急さは変わらない。凡そ五〇年振りであったが、よくこんな急な所で滑っていたものだと思えてびっくりした。人生四度の野沢温泉スキー場の訪問であった。

「ユラユラユラリは湯の煙 チャラチャラチャラリは水の音
ササチャラリトナ」 — 野沢温泉小唄の一節 —



合宿をした健命寺本堂 (野沢温泉村)

唯一の入賞メダル

工藤 博司（昭和三十九年卒）

鳴子町体育館で催された閉会式から戻った主務の今枝友明君（昭和四〇年卒）が入口の扉を激しく開けて叫んだ「メダルが出たぞ!!」。

一九六四（昭和三九）年三月一日の夕方、宿泊していた鳴子町の旅館の浴場での一幕。第三七回インカレの最終日（アルペン種目は一月に開催されたが、ノルディック種目は雪不足のため三月に延期）、午後一時スタートのリレー競技を終えて鈴木正明君（昭和四〇年卒）、高津宣夫君（昭和四一年卒）、筆者の三人（出走順）は温泉につかっていた。佐藤佑君（昭和四二年卒）もリレーメンバーの一人だったが、その年の三部のリレーは三×八kmとして実施されたので、彼はスタート付近で選手のサポート役に徹してくれた。四位に入賞したものの、もう少しのところまで三位に届かず、念願のメダルを逃したので少し悔しい思いが残っていた。

「エッ本当!!」三人は同時に聞き返した。前年の大会（第三六回、野沢温泉）のリレーで三部五位となり、「今年こそは優勝を、悪くても三位以内」と胸に秘めてレースに臨んでいたので、メダルを手にして皆の顔に笑顔が戻った。

野沢でのリレー五位はわが部として十一年ぶり二度目の入賞だった（メンバーは渡辺洋（昭和三九年卒）、筆者、神村則行、鈴木正明の順）。その晩、当時明治学院大学のスキー部長だった吉田裕先輩（昭和三一年卒）が宿（常盤屋旅館）を訪れ、祝いの美酒をご馳走してくれた。十一年前の入賞者はその吉田先輩で

あり、第二五回大会（一九五三年一月、米沢市五色温泉）の滑降二位六位入賞だった。その実績が認められて（得点一、総合十一位）、一九五二年十二月に結成されたスキー愛好会はわずか半年余で学友会スキー部に昇格した（一九五三年六月）。その立役者との不思議な縁を感じながら飲み明かし、互いの健闘を讃えあった。吉田先輩は鳴子インカレにも格上（二部）の明治学院大学の部長として参加していたので、ゴールに駆けつけ



リレー競技終了後の記念写真（鳴子町上野々スキー場、1964年3月18日）
左から川畑カズコ、北村仁副部長、今枝友明（手前）、佐藤 佑、高津宣夫、鈴木正明、工藤博司、吉田 裕夫妻、吉田睦男

東北大（三部）が四位

箱根 大会の幕を閉じる

鳴子町体育館で催された閉会式から戻った主務の今枝友明君（昭和四〇年卒）が入口の扉を激しく開けて叫んだ「メダルが出たぞ!!」。

一九六四（昭和三九）年三月一日の夕方、宿泊していた鳴子町の旅館の浴場での一幕。第三七回インカレの最終日（アルペン種目は一月に開催されたが、ノルディック種目は雪不足のため三月に延期）、午後一時スタートのリレー競技を終えて鈴木正明君（昭和四〇年卒）、高津宣夫君（昭和四一年卒）、筆者の三人（出走順）は温泉につかっていた。佐藤佑君（昭和四二年卒）もリレーメンバーの一人だったが、その年の三部のリレーは三×八kmとして実施されたので、彼はスタート付近で選手のサポート役に徹してくれた。四位に入賞したものの、もう少しのところまで三位に届かず、念願のメダルを逃したので少し悔しい思いが残っていた。

「エッ本当!!」三人は同時に聞き返した。前年の大会（第三六回、野沢温泉）のリレーで三部五位となり、「今年こそは優勝を、悪くても三位以内」と胸に秘めてレースに臨んでいたので、メダルを手にして皆の顔に笑顔が戻った。

野沢でのリレー五位はわが部として十一年ぶり二度目の入賞だった（メンバーは渡辺洋（昭和三九年卒）、筆者、神村則行、鈴木正明の順）。その晩、当時明治学院大学のスキー部長だった吉田裕先輩（昭和三一年卒）が宿（常盤屋旅館）を訪れ、祝いの美酒をご馳走してくれた。十一年前の入賞者はその吉田先輩で

朝日新聞（宮城版）
1964年3月19日



第37回全日本学生スキー選手権大会入賞メダル

今、そんな時代があったことを現役諸君に知ってもらえれば嬉しく、東北大学スキー部の益々の発展を期待したい。

筆者はクロスカントリー（XC）スキーにのめり込み、国体に選手として八回出場したが（宮城県代表一回、茨城県代表七回）、公式大会の入賞メダルは唯一このメダルだけであり（写真）、今も大事にしまっている。ちなみに、国体の参加章は二二個もついで（選手八回、XC監督八回、総監督六回）、秘かな自慢だ。勤務先の日本原子力研究所（茨城県東海村）のスキー部に競技部門が

てくれた（写真）。当時は、新聞もしっかり報道していて、朝日新聞は翌日の朝刊（宮城版）で「東北大が四位」と大きな見出しで伝えた（写真）。

インカレの得点配分は現在一位一七点、二位一五点、・・・五位一点だったが、筆者らの時代には一位七点、二位五点、・・・六位一点だった。個人種目で七位や八位には何度かあったのだが、得点の前に高い壁があり、なかなか越えられなかった。今年の九五回大会（鹿角市）で男子は六〇点を獲得して二部総合五位、女子は七〇点で二部総合十二位というように、常に二部の上位（女子は一部昇格の経験あり）に位置する現役諸君には想像が難しいかも知れないが、六〇年前には「得点の壁」を前に苦闘が

あったことが幸いし、走る仲間を増やしながらXCスキーを続けることができた。

現役最後の公式レースは三七歳で出場した第三五回国体（一九八〇年、小樽市）だった。引退後は茨城県スキー連盟の強化部長を務め、全日本スキー連盟（SAJ）公認XC技術代表（TD Technical Delegation、審判長役でジュリー会議の議長）として年に一度は各地で開催されるSAJ公認大会のTDも務めた。

一九九四（平成六）年四月に東北大学に戻って教授室で最初に受けた電話は森啓先輩（昭和三六年卒）からだ。「スキー部長を引き継いでくれ」。先輩の言には逆らえず「ハイ」と答えたが、実は願ってもない話で大変嬉しかった。

宮城県スキー連盟所属団体である東北大学萩雪会の一員としてSAJに登録したところ、その冬からTDとして宮城県連のXC競技の運営にも携わることになった。当時、県連には筆者の他にXC競技のTD有資格者がいなかったため、国体県予選と高校総体県予選のTDを二〇一七年まで二三年間務めた。毎年一月に欠かさず鳴子に通ったのにはもう一つ大きな目的があった。現役員諸君の力走を大会本部から見守ることであり、それが何よりの楽しみだった。しかも、XC競技出場者の大半（ある年には女子を含めて三〇人中二〇人）が東北大学の選手だったこと、またそのうちの何人かが県代表として国体に出場していたことから、他の競技役員も東北大学スキー部の存在に一目を置き、TDを務める筆者としては鼻高々だった。

七五歳でその役を辞し、その後は近くの宮城蔵王えぼしスキー場などで「ゲレンデスキー」を楽しんでいる。年に一度は地蔵岳のお地藏さんに会いに行きザンゲ坂を降る。昨シーズン合計一〇〇kmほど滑った。

オートバイで春スキーは二倍楽しい

加藤 孝（昭和三九年卒）

スキー部では通称デプロと呼ばれ、映画会やダンス講習会など部費稼ぎのイベントと山小屋完成を夢見た学生だった私も八〇歳越えた今も仕事と遊びに汗を流している。

十数年前には家業の不振がきっかけでうつ病が高じ、二〇一〇年には起きるのが困難となって東北大学病院の精神科に入院した。七ヶ月の入院生活の中で迎えた東日本大震災を体験したがベッド生活だったので、家族や宮城県民などが味わった苦労はしなかった。

しかし、退院後はすっかり元気が戻り、徐々に仕事に復帰していった。治療らしい事は何も無くとも、長期の休養は人間を生き返らせるもだと自分でも驚きだ。

このような苦難の時期を過ごしたが、六〇歳を前にまるまる借金で建てた賃貸マンション建てたので、どん底から抜け出る事ができ、七〇歳代は何とか無難に過ごし、八〇歳代に入った今、こんなふうに行って良いのかと思うほど快適な日々を過ごしている。

現在、賃貸業はまずまずの経過だが、今後民泊経営はインバウンドで楽しくなりそうだ。

昨年春から作並のハイランド団地で、むかし山田文彌先輩（昭和三五年卒）と働いた事があるSONYショップを営む友人と始めた菜園は、収穫を知人やご近所、お客様など

に配って喜ばれている。

ここでやつとスキーの話であるが、まだスキーをやっているかと聞かれる事も多い。

スキー部の八木杯には案内があれば参加する。同期の工藤博司君（昭和三九年卒）も参加する。そうなれば彼に一種目は勝つてみたいと思うが、高校時代から柔道で鍛えスキーも現役時代から各種大会で記録を残している彼には全く歯が立たない。彼は今もトレーニングもしている様だ。

以前の様に八木杯にジャンプ種目があればこの種目だけは勝つ見込みはあった。ケガを覚悟で突っ込めば良いのだから。

ジャイアントスラロームは八木杯といえども普通では彼に勝てないが、油断している時にすっかりワックスを塗ればたまには勝てる時がある。だが、走る方はまるで歯が立たない。

昔から自分は何をしても普通では勝てないので、いつも他人と違う楽しみ方をしている。学生時代は工藤君とは新潟県小千谷までサイクリング旅行をしたのも良い思い出だ。一九六一年八月十一日朝三時四〇分起床、宮城県庁舎前集合、四時三〇分の出発であった。

色んな方にご支援戴いた先輩を訊ねての新潟往復八日間の旅の始まりは福島の高野紘一先輩（昭和三八年卒）、冬鳥越の清水紘治君（昭和四〇年卒）、長岡の高頭正行先輩（昭和七年卒）、小千谷の渡辺高峯先輩（昭和三八年卒）などの自宅を訪問し大変お世話になった。帰仙後、電力ビル屋上のビアガーデンに直行し乾杯した。

その後、五〇歳代の時社員の若者二人と蔵王の刈田岳駐車場から馬の背と熊野岳、地藏岳經由でスキー場を自転車で下ったのも楽しい思い出。八ミリビデオで撮影しながら大平コースを下って何度も転んだが、上の台のエコーハウスに泊った。

最近のスキーと言えば二〇一二年のシーズンからは、宮城蔵王えぼしスキー場に行っている。道路に雪が無くなればホンダの二五〇ccのオートバイでえぼしスキー場まで往復はツーリング、これはいつも相棒が居ないので単独行である。

何でバイクかというのと、まず時間短縮だ。自動取縮機に引掛からない。前にナンバプレートが無いからである。スラローム気分でツーリングは快適そのもの。用具一式はスキー場に預けて置いて、目立つウェアを着て行く様になっている。

二年前まではスプリングバレースキー場に通っていたが、最近はずいぶん長い宮城蔵王えぼしスキー場をホームグラウンドにした。

我が家からスキー場迄は四〇km以上あるが殆ど信号が無いので六〇分弱、ナイトー無しリフト休止時刻が早いので帰路は対向車に出会う気づかいが無くて走りやすい事などがある。

体力が落ちたので週一回行きたいが、ミニテニスの練習もあるので中一日は空けている。

この頃は足腰以上に体幹の衰えを実感する。物を持ち上げる時と立ちゴケしたオートバイを起こそうとする時であ

る。オートバイも駐輪したりする時コケる事は普通にある。恥ずかしい話だがこれが起こせないのだ。しかし、毎回どこかの若者が見つけて助けてくれるが自分で起こせる様にトレーニングで鍛えるのが今後の目標である。
来るスキーシーズンには、春スキーも楽しめる様に精一杯調整して行きたいと思っている。

スキー部の思い出

清水紘治（昭和四〇年卒）

スキー部の萩雪ヒュッテが完成したのは、私が大学四年生のとき、一九六四（昭和三九）年で、このときから、スキー部の永年の夢であった山小屋での合宿が始まったと思います。その前年には、当時スキー部の部長をされていた加藤愛雄先生をはじめいろいろな方に、主将だった私と主務の今枝友明君（昭四十年卒）で、山小屋の件で何度もお願いに伺ったことが懐かしく思い出されます。もちろん山小屋を完成させるためには、多くの歴代の先輩の方々のご努力があったわけですが、私どもの年代が丁度山小屋が完成するという機会に出会えたということは大変光栄なことでありました。もちろん初年度ということもあり、いろいろな問題もありました。たとえば、水道が凍ってしまい、水が出なくなるということもあり、部員のみなさんとその修理に苦労したことなども懐かしい思い出です。

当時の全日本学生スキー選手権大会（インカレ）は一部八校、二部十二校、そのほかは全て三部だったと思いますが、我がスキー部はこの三部で、大学数が大変多い状態でした。私はアルペンに所属していましたが、最高の成績は二年生のときに野沢温泉スキー場で行われた第三六回インカレの回転競技でした。このときの結果については、新潟県の地方新聞だったと思いますが、次のような記事が出ていました。概略を示しますと、「本県からは三部に東北大の清水

紘治（新潟、加茂高出）選手らが出場、清水選手は一回目五二秒六の好ラップで上位入賞なるかと思わせたが、二回目中間のカベ付近でスキーが走っておさえがきかず五五秒二となつて合計タイムで十位にとどまった。」というものでした。このような状態で、入賞することもできず、誠に残念でした。今のスキー部の活躍をみると、驚くばかりです。

これからもスキー部のますますの発展を願っています。



レースは明日から（野沢温泉、1963年1月15日）
左から筆者、吉田睦男、石田孝、加藤愛雄先生、渡邊高峯、工藤博司

スキー部時代の思い出

今枝友明（昭和四〇年卒）

スキー部創部七〇周年おめでとうございます。小生昭和三六年に東北大に入学したのですが、東北大の先輩との関係は高校時代にすでにありました。

当時、毎年八ツ森スキー場で仙台市民スキー大会が開催されていきました。小生の高校にスキー部はありませんでしたが、個人的に出場したことがありました。子供の頃からスキーに親しんでいましたが、本格的な競技は初めての経験だったので、成果は散々でした。急斜面で転倒し、その際、小生の後ろからスタートした緑のユニフォームの東北大の先輩（氏名は不明）に追い越されてしまいました。その時の悔しい思いが忘れられず、入学したらスキー部に入部してみようと思いついたのです。

当時、部室は教養部のある川内にあり、その部室を覗いてみると一年先輩の竹内興二さん（昭和三九年卒）が在室していました。申込書を書かされ、いろいろ訊かれた記憶があります。

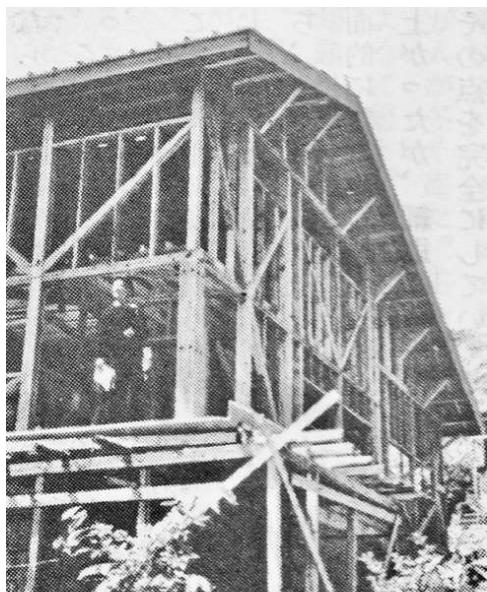
部活への参加はゴールデンウィークを利用した春山合宿が最初でした。参加した先輩諸氏がどのくらいの腕前であるか等の興味をもって合宿に入りました。小生の実力は前述のようなものでしたが、先輩諸氏の滑りを見て、何とか遅れずについていけそうに思い、安心しました。

その年の新入部員は男性四名、女性二名でした。入部して一〜二年は無我夢中でしたが、三年生になり主務をやることになりました。部を裏から支える立場になり、皆さんに力を貸していただきながら一生懸命務めました。

東北大スキー部はスラローム関係は他の国公立大学に比べて若干劣っていましたが、ディスタンス（クロスカントリー）関係はかなり力がありました。それなりの成績をあげて、部としてもかなり盛り上がっていました。

三年生の時に、大学の山小屋（萩雪ヒュッテ）ができて、合宿等も容易にできるようになり、部の競技力も徐々に上昇していきました。

七〇周年迎えることができたのは、OB・OG諸氏と現役の皆さんのたゆまない努力の賜物だと思っております。今後のスキー部の益々の発展を祈り筆を置きます。



山小屋建築現場に立つ筆者 [1964 (昭和39)年6月]

六〇年前のスキー部の私

鬼木(栗原)美枝子(昭和四〇年卒)

私が東北大学に入学したのは日本が六〇年安保闘争に揺れた翌年のことです。女子高出身で殆ど世間のことは何も分からず入学したのでした。それに当時の東北大学の女子の人数が極端に少なく、私の入った文学部でさえ百五十人中十五名という少なさで、学内でマゴマゴしながら過ごしていたと思います。

スキー部の入部は、幼い頃から父親に連れられて山登りやスキーに親しんでいたこと、頼りになると兄(義郎、昭和三七年卒)と姉(幸恵)が既に入部していたという単純な理由によるものでした。単純な理由で入ったため、多くの部員の方々には「どうしようもない奴」と思われていたことでしょう。

当時のスキー部はヒュッテを持っていなかったのですが、合宿は蔵王温泉の「山形屋」や宮城蔵王の「白雲山荘」などに泊まり練習していました。それでもひとシーズン中に三十日ほどスキーの練習合宿に参加していたシーズンもあったと思います。合宿では自炊もしました。ワイワイ騒ぎながらやっとなった料理を他の部員と食べる楽しさ、食後は皆で山の歌を歌ったことなども忘れがたい思い出です。

試合には何回か出場させてもらい鳴子や猪苗代の大会に出場しました。一九六二(昭和三七)年一月に猪苗代スキー場で開催された第四回東北地区大学スキー競技会では、回転で二位、大回転で六位になり優勝に貢献できました。

鳴子での第三回大会ではスタートした直後にスキー板からビンディングが外れてしまったためにタイムロスし、順位が後半になってしまった事がありました(現在では転ばない限りビンディングが外れることなどないでしょう)。

卒業後には、高校教師生活、結婚、出産、そして十年近くアメリカのボストンとカナダでの生活の中でも常にスキーは好きで、雪山が好きで、無理してでも年に数回は七〇代後半になるまで雪山に出かけていました。ボストンの生活では、先輩の金ヶ崎史朗さん(昭和三七年卒)に大変お世話になりましたし、ボストン郊外の町で同級生の植木昌範さん(若くして亡くなられました)に偶然にお会いして旧交を温めることができました。これも東北大スキー部の繋がりと 생각합니다。

七〇歳代中ごろに安比高原スキー場で肩を骨折して以来、スキーはやめました。ただにスキー板とブーツは捨てられません。



第4回東北地区大学スキー競技会で男女とも優勝(1962年1月、猪苗代スキー場)
前列左から菊池(武田)尚子、筆者、後列左から2人目清水(畑中)典子、6人目栗原幸恵

スキー部七〇周年に寄せて

高津宣夫（昭和四二年卒）

喜寿を過ぎて振り返ると、身近に雪がある地域に住めた幸せを感じる。郷里新井（現妙高市）、仙台、上田。その間細々ながらも連綿とクロスカントリースキー（XC）を続けてきた。七〇歳で長野県上田に移住したことで、近くにある諸所のXCコースを楽しむことができていただけでなく、インカレ・国公立戦などでの現役諸君の戦いぶりの観戦を経験できた。また、同じく雪国に住んでいる後輩諸氏（ヒュッテ絆の運営で後輩に支援を惜しまない穂高の清水夫妻、たんばらスノーパークでペンションを経営する杉山夫妻）とも交流する機会に恵まれている。

直近のもっとも印象に残った出来事は、二〇二一年三月に妙高高原池の平池廻家の女将横山宇良子氏とアカカントリーゾートXCコースと一緒にスキーを楽しんだことである。同氏はかつてノルディック世界選手権（一九七二年チェコ）日本代表に選ばれ、四名中で最高位二九位の結果を残した。普段どの程度スキーを履いているのか聞かなかったが、見事なバサガングを披露してくれた。ただし板は最新のフィッシュヤーだった。池廻家は横山久雄・宇良子夫妻が経営する温泉旅館で、長年XC選手を育ててきた宿であり、OB・OGの中にも滞在した方がおられると思う。久雄氏も中央大学三年の時インカレ一五kmで優勝（昭和三七年一

月、筆者大学入学の年）、夫妻のお子さん（久美子・寿美子の二姉妹）もXC選手に育ち、どちらも冬季オリンピック、世界選手権、ワールドカップに参戦した。

そのきっかけになったのは、二〇一七年一〇月、信越五高原ロングライドというサイクリングイベント九五kmに参加したことである。発着点が池廻家の目の前だったので前泊したが、その折に昔話をしていて久雄氏に氏の主催する「ヨコヤマヒサオスキーランニングセミナー」への参加を勧められた。その後セミナーの行事でシーズン中はアカカントリーゾートや黒姫高原、ゴールドデンウィークには近くの笹ヶ峰、六月には立山天狗平、シーズン初めには北海道白銀温泉など各地での合宿に参加することができた。現役時代はただがむしやらに走っただけだったが、このセミナーで久雄氏からダイアゴナル走法を基礎から学び、「その歳にしては良い」と言われて喜んでいく。

XC以外では、二〇一〇年二月（六六歳）に安比高原で滑走面に溝の無いカービングスキーを初体験した。それ以来いわゆる基礎スキーを習っているが、若いころの悪癖がなかなかとれずに苦労している。また日本山岳会員の高校同期生らとともに近くは根子岳、遠くは群馬の至仏山や前武尊に山スキーに出かけている。このようないわゆるバックカントリースキーは近年大流行であるが、子供時代のスキーでは非圧雪の斜面を登ったり降りたりを繰り返していたのでこの年齢でそこに回帰している気がしている。この年までスキーを楽しめているのも東北大学スキー部に在籍したお陰と感謝している。スキー部の益々の発展を期待します。

第二代スキー部長 北村 仁先生

佐藤 佑（昭和四二年卒）

一年生の秋頃の土曜日だったと思います。クロスカントリーメンバー（と言っても四年工藤博司さん（昭和三九年卒）、三年鈴木正明さん（昭和四〇年卒）、二年高津宣夫さん（昭和四一年卒）と小生の四人）で愛子方面に集団走してから評定河原の部室前でチューブ引きの後、工藤さんのあとについて、当時副部長の北村先生（一九六九（昭和四四）年四月部長就任）の家に初めて行きました。突然伺ったようだったのですが、奥様の手料理を沢山頂いた事でも鮮明に憶えています。ある先輩は「腹が減ったら北村先生の家に行くことだ」と言っていたが、後輩の諸君たちも良く北村宅で見かけたのでした。



川内キャンパスの北村研究室に出入りするようになり、先生の母校である東京教育大学大学院に進学、初めて職を得たのが順天堂大学体育学部でした。帰郷の度に北村邸に遊びに行きましたが、ある時「おまえにはも

ったいないが、いい人がいる」とお世話いただいたのが奥様の教え子でした。仲人は勿論先生ご夫妻で、嫁さんと仙台大学の職を同時に頂戴しました。

さしたる競技実績のない小生でしたが、競技人口の少ないソリ競技に携わらせてもらい、褒美にカルガリー五輪日本選手団の役員として貴重な体験をすることができました。また、仙台大学スキー部複合OBの伊藤時彦君は松尾村役場に就職し、小林陵侑選手をはじめ小林兄弟の少年団から高校までのコーチであり、小生の自慢の教え子でもありません。

北村先生は東北大学停年退官後、仙台大学の体育出身の初の学長（第六代、一九八六―一九九〇）として、現在の大学の盤石たる基礎造りをされました。先生ご夫妻は私も夫婦の恩師であるばかりでなく、二人の子供を孫同然に可愛がって下さり、公私共々何かと大変お世話になりました。八〇歳を前にして心豊かに楽しく過ごしていられるのも、スキー部に入部して北村先生との出会いが全てであるとしみじみと深く身に染みて感謝しています。

秋雪ヒュッテをめぐる

高田潤一（昭和四三年卒）

私は今年七八歳を迎えるOBです。工藤博司先輩（昭和三九年卒）から連絡を受け、久し振りに青春時代を振り返る機会を得ました。スキー部長の加藤愛雄先生や先輩諸氏の尽力の結果、蔵王に秋雪ヒュッテが完成した当時、私の同期七人は一年生部員でした。初めての冬季合宿は、大きなプロパンガスのボンベをスノーボードに乗せ、上の台ゲレンデを経てヒュッテまで引き上げたり、寝具、鍋釜、食器などを持参しての自炊合宿でした。小さな沢の水で米を研ぎ、当番制で食事をつくったことも懐かしい思い出です。

平野耕一郎キャプテン（昭和四一年卒）を中心に、早朝練習は夜明け前から大平コースをパラダイスゲレンデの下までスキーを付けて踏み上げ、ダウンヒルを一本滑ってから朝食（クロカン部員がつくってくれた）を食べることもありました。さすがに三食自炊の合宿は辛いので、翌シーズンの岡田博文キャプテン（昭和四二年卒）の時代からから食事担当の女子学生をアルバイトで雇うことになり、練習に専念できたので大いに助かりました。当時は男子部員だけだったので、アルバイトの女子学生の一屋は「大奥」と称して部員は出入り禁止でした。

古いアルバムを見ながら、現役時代の頃を思い起こすと、合宿や遠征、競技大会を通じた先輩、同期、後輩達との触

れ合いや対話の記憶が懐かしく思い出されます。

当時の資金づくりの苦労話に移ると、食事係の女子学生を雇うために、在京のスポーツ店や企業を廻って景品を沢山集め、抽選会付きのスキー映画会を昼夜二回興行したり、アルバイト合宿と称して夏に上の台ゲレンデの

ダリア園造りの作業やホテルのトイレ清掃もしました。

私にとって、東北大学教育学部に入學し卒業したことから、スキー部員であったことが人生の誇りであり、先輩、同期、後輩に感謝です。

創部七〇周年を祝してシーハイル!!



秋雪ヒュッテ2年目の冬季合宿（1965-1966シーズン）



秋雪ヒュウテアの恩人加藤愛雄先生退官記念パーティー (1969年4月、仙台共済会館)

前列中央に加藤愛雄部長夫妻、その左へ北村仁部長、高橋公正、佐藤陽二、武田尚子、清水統治、右へ森博副部長、佐藤昭男顧問、吉田睦男、工藤博司、加藤孝、高津宣夫、2列目左から3人目原田有造、その右へ筆者(写真所蔵)、田中勝、松久勝利、最後列部旗から右へ照井頌二、一人おいて佐藤 佑、他現役部員(学生服)

スキー部生活がもたらしたもの

原田有造（昭和四三年卒）

私は入部した時はアルペン競技者としては初心者で、高田潤一君（昭和四三年卒）という絶好のお手本がいて、随分熱中したにもかかわらず、四年生の時の東北インカレでの四位入賞が唯一の部への貢献という結果でした。しかし卒業後もスキーへの情熱は続き、大学院時代には現役スキー部の合宿に参加したりして、金ヶ崎史朗先輩（昭和三七年卒）が我々にしてくれたように後輩に寄り添ったり、特に女子スキー部員の監督と称して技術指導のために月山での特別合宿に参加したり、南蔵王スキー場で蔵王分校の中学生を指導して宮城県での総合優勝に導いたりしていました。

大学院にこれ以上在学できなくなり、就職もできない身となり、居候をしていた両親にもそろそろ出て行くと言われ、やむを得ずスキー場と仙台市の中心部との中間で、仕事にもスキーにも便利だということで、川崎町の基石というところにセルフビルドで家を建て、設計事務所を経営するようになりました。萩雪ヒュッテの生活体験の影響もあり、所員たちと共同生活をしてお野菜は自給するというスタイルでした。

やがて子供達と一緒にスキーを楽しむようになり、あちこちのスキー場を巡りましたが、次男の彦が特にスキーに熱中するようになり、小学校の先生から競技

に出してみないかと誘われ、ジュニアの大会に参加させるようになりました。また、地元セントメリースキー場が開設され、子供たちを集めてジュニア競技部のコーチになりました。朝はスキー、昼から仕事、夜と日祭日は子供のコーチという生活。自ら選手も兼ねて宮城県民スキー大会などでは常勝でした。

彦はスロベニアにスキー留学し、帰国後国体で優勝するなど各種大会で活躍し、現在もスキーのコーチで生計を立てますが、私はスキーで大怪我をし、コーチも選手も諦めました。しかし三年後から少しずつ再びスキーをはじめ、スキー部の合宿の賄いのアルバイトに来て知り合い、結婚した妻と二人で、今でも毎年カービングスキーの心地よさを楽しんでいます。スキー部での体験が生涯の私の生活を豊かで幸せにしてくれました。

初めてのジャンプ

松久勝利（昭和四三年卒）

何分にも五八、九年前のことで、経緯はよく覚えていない。入学したてのことであったか、二年目のことであったか、それも定かではない。気がついたら私は新設のジャンプに配属されていた。覚えているのは、新野と二人で、大鰐で合宿していた時点からだ。新野紘三君（昭和四三年卒）はたぶんジャンプは未体験だったはずだ。私にしても小学生の頃、遊びでジャンプの真似事をしたことがある、という程度である。

当時は蔵王にシャンツェはなく、本格的に練習するとなると、大鰐しかなかったのだ。とにかく当時は確かに若かった。ジャンプ板を履くのも初めてという初心者が二人、どんな練習をしたらよいのかも知らないままに、大鰐で合宿を始めたのだから。

とりあえず七〇メートル台のスタート地点に立ってみた時、激しく後悔した。予想はしていて、とりあえず板は持たずに上ったのだが、文字通り足が竦んだ。私は若かったが、極めつきの臆病者であった。一緒に上った新野は涼しげな表情で、見下ろしていた。その余裕たつぷりの挙動に、私はジェラシーすら覚え、しかし足の震えは止まらない。

ま、こんなものか、と強がってみせ、しかし早々に、這々の体で下りたものだ。

とは言え、大鰐まで来た以上、ジャンプの練習をせざる帰るわけにはいかない。幸い大鰐の地には、小学生用の二〇メートル台があった。子供たちが華麗に飛んでいる中、大学生の初心者が練習に加わるのは、まことに気恥ずかしいものがあつた。しかし他に選択肢がない以上、そこで頑張るほかなかった。その後の人生において、私は沢山の恥ずかしい経験を重ねてきたけれど、このときの経験を踏まえて乗り越えてきたように思う。下手くそは未熟ではあつても、恥ではない、と開き直つて・・・。

その年の合宿の最後に、私は七〇メートル台での試技を試みている。キ〇タマが縮みあがつたが、同時に風に乗るふわりとした高揚感も味わい、怖いけど楽しいと思えた瞬間を経験できた。三年生の時（一九六七年）には鳴子での第四〇回インカレに出場し、地元ということ、河北新報に写真入りの記事が出たりもした。その頃には、ジャンプを選んで良かったと思える自分がいたのであつた。

プロスキーヤー三浦雄一郎さんとの思い出

壺 富士雄（昭和四四年卒）

私が東北大学スキー部に入部したのは昭和四〇年代初めで、現在とは比較にならない程の資金不足で、必死に資金集めに奔走していました。

そのころの最大の収入元は、福原プロダクション制作のスキー記録映画の上映会でした。三浦雄一郎さんが富士山の噴火口をパラシュートをつけて直滑降をした、『富士山大滑降』の上映をした時に、同じ演壇で三浦プロに講演をして頂きました。

それをきっかけに、スキー部と三浦プロとの繋がりが深くなり、宮城蔵王で三浦プロが率いる、ドルフィンチームと一緒に春スキートレーニングを経験しました。春のザラメ雪が凍った難しい斜面で、ガスがかかって全く見えない斜面を上の方から氷を割く音をたてながら、ドルフィンキックで滑ってくる三浦プロを見たときは、その大胆で力強い滑りに感動を覚えました。

三浦プロにお世話になったのは、インカレ出場一週間前に、私が蔵王の大平コース出口の一の壁、二の壁の滑降トレーニングで転倒してしまい、雪に先端がささり、体重がそのまま掛かってメタルスキーが曲がってしまい途方に暮

れていた時のことです。

三浦プロと親交があった、高田潤一先輩（昭和四三年卒）が急遽三浦プロに電話連絡をしてくれました。そうしたところ三浦プロから「一〇万円持って、浅草の『サクライ』というスキー問屋に行けば、なんとかしてくれます」と言ってくれました。有難い支援の言葉に応えて、その日のうちに仙台の自宅に戻り何とか資金を都合して、早速浅草に向かいました。

夕方六時過ぎだったと記憶していますが『サクライ』を訪問したところ、社長さんが直接面談してくれて、早速倉庫に案内してくれました。そこには国内・海外のあらゆるメーカーのスキーが無数に並んでいて、当時の学生の身はその宝の山に圧倒されて立ちすくんでいたところ、社長さんが「三浦プロから連絡があったので、この中からなんでも好きなものを選んで良い」と言ってくれました。夢のような気持ちの中で、選んだのがフィッシャーのメタルスキーでした。

残念ながら、インカレでの成績は振るいませんでしたが、東北大学スキー部に入部したお蔭で、三浦プロとの素晴らしい経験ができましたし、さらに希望の総合商社に入社して、スキー部で活躍できたのも、東北大学スキー部のお蔭と思

い心より感謝しています。創部七〇周年おめでとうございます。今後益々のご活躍を願っています。

昭和四五年卒同期会半世紀前を偲んで

高橋喜三雄（昭和四五年卒）

昭和四五年卒の同期は十三名、来年三月末までに全員後期高齢者になります。幸い誰も物故した者が無く、所在不明者もいません。東日本大震災のあった二〇一一年の秋に卒業後初めての同期会を設け集まりました。六〇歳定年を数年過ぎて大半が年金生活に入りつつある頃で、以後二〇二〇年のコロナ騒動で中断されるまで九回開催されています。第三回目は震災後の仙台に集まり、思い出の川内、片平、青葉山、評定河原を巡り蔵王温泉へ。翌日は東京に移動して二次会という豪華版でした。集まって話すのは共有した時間の思い出と、病気の話。我が同期は私を含めほぼ半数が冠動脈にステントが入っており、情報交換に大いに盛り上がりました。

九回目は四三年卒、四四年卒にも声を掛けて東京で合同同期会を開催し、会うのが約五〇年振りの先輩にも多数参加して頂きました。一人一人が現在の状況と思ひ出話を披露し大いに盛り上がりました。同期会も九回ともなると思ひ出話も同じことの繰り返しになるのですが、これが飽きないのです。毎年同じ話になると、「待ってました！」とばかり笑い興じるのです。

在部四年間を思い返してみると、我々同期は競技よりも合宿生活、特に食当、コンパ等飲食の思い出の方が強い記憶に

なっているようです。上級生からの暴力等は勿論のこと、パワハラ、いじめ等も無く、節度をわきまえれば何でもものが言えた四年間だったと思います。学生運動が過激化していった時期の四年間でしたが、それに関して激論を交わすということもなく、大部分がノンポリだったのだと思います。

また、私が在部中女性部員はたった一人で、その女性も中途退部しています。最近の女性部員の活躍には驚かされますが、五〇年前と比較するのが土台意味がありません。でも男ばかりでなく女性が相当数いたらと想像するのも楽しいものです。

半世紀の間にスキー競技も激変しました。用具、衣類、ルール、テクニク、スポーツ医学、法律。何事も科学が重要視され進化し続けています。何事も現在に比べて長閑だったあの時代、ランナーだった私たちは薄いユニホーム、木綿の下着、手袋は軍手、木製合板のスキーに自分で金具をつけ、手製の竹のストック、テクニクは勿論クラシカルのみで、頼りは陸トレで培った体力と根性だけ。科学を入れる発想はありませんでした。大学入学と同時に酒・たばこはOKが世間の常識で、小屋でのコンパの無礼講は一番楽しい思い出です。

コロナで中断している同期会、早く再開でき、またバカ話に花を咲かせる日がくることを願っています。

スキー部の思い出

渡部安雄（昭和四五年卒）

「スキー部の思い出は？」と問われれば、昭和四五年卒の仲間は間違いなく「一年生の時の合宿」と答えるであろう。その一年間は大学の勉強をした記憶があまり残っていない。記憶にあるのは、合宿での体験である。月山での春山合宿に始まり、三月の追出し合宿までの間に年八回もの合宿を経験した。合宿がなかった月は六月と一〇月だけである。その当時は大変な思いはあったが、今考えるとそれぞれ有益な楽しい合宿であった。

合宿の中で諸先輩とのコミュニケーションも取れ、多くの事を学ぶことが出来たと思っている。同期の仲間との絆も強くなり、この歳になっても毎年、東京やスキー場で同期会を開き旧交を温めている。

合宿の中でも、特に冬の山小屋での合宿は一年生にとつては大変な毎日であった。冷たい水での食器洗い、夜の温泉街への買い出し、スキーの手入れ。それに加え、一、二年生の寝起きする場所は、ホール横の暖房設備がなくホールの暖気もあまり入らない寒い部屋であった。当時一年生は二〇人以上いたので、寝具は毛布三枚のみで、防寒着を着て寝ても寒く、朝四時頃には目を覚ましていた。先輩に用事があり階段を上って二階に上がると、冬のアラスカからハワイに行ったような感じがした。

また、合宿というほどではないが、三月の末から四月にかけて、アルペン数人が高田潤一さん（昭和四三年卒）と原田有造さん（昭和四三年卒）から受けた特訓が今でも記憶に残っている。気温が低くなる夕方から始まり、誰もいない大平コースにポールを立て、暗くなるまで何本も滑った。本当に練習をしたという充実感があった。暗くなつた大平コースから見えた温泉街の灯りが今でもはつきりと脳裏に焼き付いている。

合宿の打ち上げに酒は付きもので、酒に関する思い出も沢山ある。九月初めの夏休み終盤に、上の台のダリヤ園の整備を手伝う労働合宿があった。最終日の夜、森永ハウスの（現在はジュピア）で日本酒を飲みながら芋煮を食べた。小屋に戻るとホールの床にサントリートとハイニツカのダブルサイズのボトルがずらりとならんでいた。どんぶりでお酒を飲み、一年生はほぼ全員つぶれた。死人が出て不思議ではない状況だった。もし、あの時死人が出ていたら今のスキー部はなかったと思う。七〇周年を迎えられたのも、当時一年生の我々がその時踏ん張ったお陰かなと、一人ビールを飲みながら感慨にひたっている。

現役との「絆」合宿

清水真理子（昭和五六年卒）

清水邦敏（昭和五七年卒）

長野県白馬村にあるヒュッテ「絆」での東北大スキー部の合宿の経緯等については SPUR No. 64 (2020) に書きましたのでそちらも読んでいただければ幸いです。

両親が白馬スキー場に小さな別荘を建てようと思うと言い出した時、スキー部を卒業したてだった我々にはスキー場と言えば菽雪ヒュッテが刷り込まれていたもので「どうせなら二〇人ぐらいで合宿できる大きさがうれしいです」と言う言葉通りに造られた白馬の別荘、人々が集い、心をつなぐ場になるようにと名付けられた「絆」でスキー部の現役が夏冬合宿するようになって早一八年になります。OBとして現役の練習をサポートできる事をとて嬉しく思っています。

絆合宿の一年は毎年、夏合宿で新入部員の一年生に会えることから始まります。彼らの新鮮さを楽しみにしています。自己紹介で出身地、学部、入部動機等を聞き、顔と名前を覚えようとしませんがなかなか大変で、食事を一緒に作りながら話をし、名前を覚えていくというのが実際のところでした。絆デビューする一年生は大学生になりたてで初々しく、先輩達に学びながら

絆生活に順応していきます。台所の使い方、食事の作り方、掃除の仕方をまず一年生には覚えてもらいます。翌年二年生になって来た時は、新人の一年生を絆合宿で指導してくれるようになります。三年生になると部員達を引き連れて白馬まで来てくれ、部の代表として挨拶、部員の紹介、合宿の運営、統率をしていきます。四年生になって来てくれる時には、最上級生として貫禄も付き、部の役務から解放され学業と選手を両立させながら伸び伸びと自己の練習に打ち込んでいる姿になり、とても頼もしい限りです。

合宿をサポートしていることの一歩の楽しみは、この一年毎の現役たちの成長の速さとすごさを見て、感動できる事です。現役の日々黙々と練習する姿を見るにつけ、少しでもアスリートたちの役に立ちたいと、機会あるごとに食事作りを手伝っています。一日一人千円の予算で栄養バランスの取れたメニューを考え、タンパク質と野菜を少しでもたくさん食べてもらうことにしています。食事は美味しく作りたいと思っていますが、上手くできたかどうかはわかりません。しかし歓迎と応援の気持ちを込めて料理を作っていることには自信があります。

絆には「入った時より綺麗にして帰る」という暗黙のルールがあるのですが、現役は合宿中、絆を綺麗に使ってくれており、助かっています。風呂も毎日掃除してくれ、退去日にはシーツの洗濯、部屋、台所、トイレの大掃除をして撤収してくれます。

歴代の部員が後輩たちに絆の使い方をよく伝えてくれている賜物、本当にありがたいです。

それから絆にはゲストブックという A4 のノートが置いてあり、フリーフォーマットで絆の感想や合宿のことを書いてもらっています。自己紹介ではわからなかった部員たちの一面が垣間見え、とても楽しく読ませてもらっています。この原稿を書くにあたりゲストブックを読み返したのですが、絆が合宿以外で現役たちの役に立ったことが一度だけあったことを思い出しました。

二〇一一年三月一日の東日本大震災の日の夕方、現役は白馬の岩岳スキー場で全日本国公立戦を終えまさに仙台に帰ろうとしているところでした。一瞬にして仙台への交通路や電話網は遮断されてしまいました。急遽、主将に電話し、とりあえず絆に合鍵で入り、テレビからの情報収集、仙台あるいは実家への帰路検討のため宿泊してもらうことにしました。我々も急いで絆へ移動し、その夜現役と合流しました。ある女子部員が仙台の家族と連絡が取れず泣き出したのには本当にまいりました。連絡が取れなくても大丈夫だからと根拠もなく励ますしかなく辛かったです。幸い翌日までに何とか家族に連絡が取れた時の彼女の泣きながらの笑顔は今も忘れられません。

コロナ禍の影響で二〇二〇年の春夏合宿、二〇二一年の夏合宿は開かれませんが、二〇二二年二月の合宿から再開

しています。今後とも体の動く限り、現役が絆に来てくれる限り、現役の成長を見る事を糧に絆合宿をサポートしていきたいと思えます。



ランナーのローラースキー練習



インカレ女子2部優勝旗に触れる



白馬ジャンプ台にて



インカレ白馬大会での集合写真



高梨沙羅選手に教わる現役



白馬ラージヒルでの村田浩道君(平成17年卒)のジャンプ



白馬槍ヶ岳に驚異的なスピードで登った現役達



「絆」 チューンナップルームでのワクシング



「絆」前での集合写真

スキー部長の仕事

風間聡（平成二年卒）

スキー部長はスキー部の顔である・・・ことは全くなく、萩雪会には現役代表のような顔をして臨み、現役には萩雪会代表のような顔をして臨みますが、ともに主宰者ではなく、どちらかというと事務官の体です。長とついているので、選抜された権威のようにみえるかもしれませんが、全くそんなことはありません。部長が何をやっているか知らないOB・OG、現役がほとんどだと思います。七〇周年の機会に部長の話をおきます。

OBの学内教員が部長を務めることが慣習となつていますが、他の部だと必ずしも部のOB・OGではありません。OB・OGの場合、現役と阿吽の呼吸で済むことが利点ですが、口出ししやすいので現役には煩い存在になります。日出間さん（昭和六三年卒）の後を継いでから五年経ちますが、本当は昨年に青木さん（平成五年卒）に交替してもらおうつもりでした。しかし、七〇周年記念式典をやることになり、青木さんに投げてしまうと誹謗されるのでは？と躊躇しているうちに今年まで務めることになりました。

部長職は大学の学友会の構成員の一つにすぎませんし、学外でも学連の構成員の一つにすぎず、特に役職につかない限り、仕事の大きな負荷があるわけでありません。むしろ学友会体育部副部長の日出間さんのほうが負荷は大きい

です。部長の仕事は書類関連の定常業務がほとんどです。その業務は大きく三つの対応に分けられます。現役、学内、学外への対応で、この順に仕事の多寡を表しています。

現役には、四月に新幹部の挨拶を受けて幾つかの書類に押印します。五月にはSPURの部長文を執筆します。これが一番時間のかかる仕事です。コロナ前であれば、五月の新歓コンパとシーズン前の壮行会に出席します。十一月に授業への欠席届や、大会エントリーの書類や保険の書類に押印します。シーズン中は実はあまりやる事が無いのですが、今年のように七大戦の主管だと現役が作る幾つかの書類のチェックや、大学事務に諸々のお願いの電話をしたりします。最も時間を取られるのは、非常業務の一つである怪我や事故があったときです。ひどいときはお見舞いや親御さんや大学への連絡などの対応をします。他に数年に一度位あるのが、四年生がインカレ（全日本学生スキー選手権大会）に出る際の卒論指導教員対応です。クレームが直接きたりします。

学内対応は六月頃にある学友会体育部の役員会に出席することです。活動に関する注意や新しい部の承認などが行われます。三月頃には四賞および学友会長賞授与式があります。七大戦連覇中はずいぶんいい思いをしました。このあとにコンパがあり本部役員と話をする機会があります。不定期に大学からBCP（事業継続計画・感染状況にに応じて大学が示す活動目安）変更による活動抑制や保険関連の連絡が入ったりします。非常なものとして、部室運営の注意が入ったり、感染対策の指導が入ったりして、大学に

謝罪して善後策を伝えることがあります。

学外については年一回の学連総会の議決権の行使が定常業務です。ほとんど委任状で済ませています。他に理事や委員の選挙の推薦や投票もあります。理事や委員は東京近郊在住でそれなりの身分が必要とされており、近年は特に女性が強く望まれています。この条件のためか東北大学は過去ほとんど活動をしていません。北大は大変熱心に選挙活動をやっています。東北大学からの候補者を日出間さんと模索したこともありましたが、断念に至っています。他に萩雪会対応が大事です。仙台在住の忘年会に出席することとはもちろんですが、寄付金を直接的間接的にお願ひしています。記念事業も重要な業務です。しかし、コロナ以降、萩雪会の活動をできていません。何かしら新しい取り組みが必要かと思っています。

上記のように部長職は事務職です。楽しくなさそうですが、スキー部の活動に今も直接関われることに喜びを感じます。現役との交流も本当に楽しいものです。これらは歴代スキー部長が感じていたことだと思えます。

スキー部員からスキー部長になろうと思う人、かつ、東北大学教員を目指す人が出ることを強く望んでいます。

歴代部長（敬称略）

加藤愛雄（理、一九五三～一九六八）、北村仁（教養、一九六八～一九八五）、森啓（理、一九八五～一九九四）、工藤博司（理、一九九四～二〇〇五）、日出間純（生命科学、二〇〇五～二〇一七）

スキー部一年次の思い出

―コンパ・肝試し・借り物競走・鈍行列車の旅―

青木俊明（平成五年卒）

学生時代、もつとも多くの時間を過ごした場所はスキー部であった。バブルに沸いていた時代だったこともあり、現在では考えられないようなことも含め、スキー部では多くの思い出を得た。特に、一年次はイベントが多かったため、思い出も多い。当時のスキー部を振り返ると、直ちに思い浮かぶのは「コンパ」、「肝試し」、「借り物競走」、「鈍行列車の旅」である。倫理遵守が声高に叫ばれる令和では姿を消したイベントも多いが、「スキー部の歴史」という意味で記しておきたい。なお、本稿は令和の学生諸君にイベント復活を促すものではないので、注意されたい。

さて、東北大への入学と同時にスキー部に入学すると、すぐに花見があった。花見の前日、二年生から「一年生は自宅までの地図を書くように」と言われ、事情を知らぬまま地図を書いた。当時、大学新入生の飲酒は暗黙の了解であり、社会もそれを大目に見ていた。どの部（大学）でも、「入学祝い」と称して一年生は酔い潰れるまで酒を飲まされていた。花見は土曜日に西公園で行われたのだが、案の定、スキー部の新入生も全員が酔い潰れ、二年生によって

自宅まで運ばれた。自宅までの地図を予め書いたのは、そのためだった。もちろん、日曜日は二日酔いでほとんど外出できなかった。これを読むと、ひどい部だと思いかもしれないが、スキー部の花見は「紳士的」だ。ほかの部のようにヘルメットで日本酒を一気飲みさせられるようなことはなく、きちんと「紙コップ」で飲ませてもらったのだから。

スキー部員にとって、コンパへの参加は必須だった。しかも、一年生全員が酔い潰れなければ終宴にならない上に、一年生は芸の披露も義務づけられていた。そんな過酷なコンパは、新歓合宿、月山合宿打上、夏合宿打上、他大学との合同合宿、追いコン、と定期的にやってきたため、コンパ前は憂鬱になるものだった。しかし、今となっては不思議なことに、「一升瓶に目盛を振られたこと（一時間で飲みきるため）」も「冬のニセコで、名前が書かれたミカンや雪だまりの中に半袖で見つけに行かされたこと」も「悪臭漂う若人部屋」も、良い思い出だ。泥酔中に尻に味噌を塗られた部員もいたが（目覚めたときを想像して欲しい）、それも良い思い出だろう。

前期が終わると、蔵王での夏合宿だ。夏合宿の名目は「蔵王への感謝と奉仕」だが、メインイベントは「肝試し」だ。日中、草刈りを終えたあと、先輩が「インスペクション」と称して一年生を連れて山中を歩き回った。意味不明だったが、とりあえず二年生に従って一時間ほど歩いた。夕食後、その意味が判明する。「一年生は若人部屋に集まれ」

と言われ、若人部屋に一年生全員が入り引き戸が閉められた。一人ずつ名前を呼ばれ、若人部屋を出ると、神妙な面持ちで座っていた幹部から、線香一本とあめ玉一個を渡された。「精神を鍛える」という趣旨の説明だった気がするが、要は「インスペクションした場所を回って来い」とのことだった。「線香は体育館裏の墓地に供え、迷子になったら、あめ玉で朝まで飢えをしのげ」とのことだった。かくして、夜の蔵王を一人で歩くことになった。墓地は怖くはなかったが、山中で出会った野生動物は怖かった。このとき、野生動物の目は夜間に光ることと、恐怖心は潜在的な身体能力を引き出すことを知った。恐怖心に駆られた人は普段のランニングからは予測できないほどの速さでヒュッテに走って戻って来たのだった。しかし、精神鍛錬の意味は恐怖心に打ち克つことだけではなかった。ヒュッテに戻った瞬間、正面や屋根からバケツで水をかけられ、全身ずぶ濡れになった。しかし、不思議と怒りは湧かず、笑いがこぼれた。これにより、忍耐力も養われたと信じていたい。

夏も終わり、壮行会が終わるといよいよスキーシーズンだ。当時、アルペンの冬は、十一月末のニセコ合宿から始まった。ニセコでは、拓殖大学や宮教大と宿を共にしていたこともあり、度々、宴会が行われた。宴会の際に東京の私大体育部の理不尽さを目の当たりにすると、「自分たちはまだマシだ」と妙に納得した。ニセコで一週間程度滑ると、蔵王に移動し、十二月三〇日まで蔵王で滑った。年始は一月三日の志賀高原集合で始まった。志賀で学生チャンピオ

ンに出場すると、そのままインカレ会場に移動した。当時のインカレは一月の第二、三週に行われていた。

スキー部ではインカレが最重要視されていたため、インカレ開会式の夜に一年生の恒例イベントがあるとは、夢にも思わなかった。夕食後、先輩から「今から借り物競走を行う」と告げられた。借り物競走はA、R、Cのチーム対抗で行われ、全員ワンプイ姿で参加するように言われた。各自がくじを引き、そこに記載されているものを入手して行くのだが、先輩方が事前に「インスペクション」を行っており、必ず入手できるものが書かれている。とは言え、簡単に見つけられるようなものは書かれていない。他大学の先輩の私物を借りてきたり、近所の婦人服店で「女性用下着」を購入してきたりするのだ。女性用下着を握りしめ、ワンプイ姿でヘルメットとゴーグルを着けて夜の商店街を走り抜けるのだから、現代なら警察に通報されるかもしれない。少なくとも、SNSに晒されるだろう。インカレでの初めてのレースがスキーではなく、バブルに沸く妙高の繁華街をワンプイで走るレースになるとは思いもしなかった。

インカレが終わると、仙台に戻って期末試験だ。それが終わると、蔵王での練習と遠征の日々が続く。蔵王・白馬・蔵王・安比・蔵王・白馬・仙台という行程を、経費節約のために鈍行列車で移動するのだが、後半になるほどに心身共にキツくなる。板二本（SL、GS）とポール二〇本ほどを持って電車に乗るので好奇の目で見られることが多かった。ただ、駅員からは「頑張れ」と言われることはあっても、

手荷物料を請求されたことはなかった。よほど気の毒に思われたのだろう。移動中、堅気とは思えない方から「どこの世界も下っ端は大変だな」と声をかけられ、差し入れをいただいたこともあった。シーズン最後の大会を終え、仙台に戻るときは鈍行列車は永遠に続くかのように感じたが、仙台に帰った時の「やっと終わった感」は今でも鮮明に覚えてい

こうして改めて文字すると、なかなか過酷な生活のように思えるが、今となってはどれも大切な思い出だ。そして、「苦勞がなければ、絆と思いは残らない」と改めて思う。また、苦勞するほどに、絆も思い出も強くなるとも思う。

令和のスキー部は、昭和や平成のスキー部とは、また違った文化を持ち、時代に応じた思い出が作られていることだろう。ただし、学生時代の思い出が“人生の宝”であることは、時代を超えて共通していると思う。七〇年前にスキー部を創部してくださった先輩方に改めて感謝するとともに、これからもスキー部が多くの方の思い出の舞台として、その役割を末永く担っていくことを心より祈念します。

「スキーの縁は、人の縁」

「エネルギーを紡ぎ続けて」

牧田誠司（平成五年卒）

東北大学を卒業して、まもなく三〇年になります。卒業しても、ほとんどの時間を仙台で過ごしているので、仕事で近くを通る際は、つい川内や青葉山の道路を選んでしまう自分がいます。時間はしばらく経過しているものの、あの頃と学生の姿は変わらず、その中に、スキー部の四年間でお世話になった先輩、後輩もまざれているような、そんな思いにかられることがあります。

さて、群馬県で生まれ育った私ですが、平地にある街だったこともあり、スキー部に入るまでスキーをやったことがなく、スキー場には入場料が発生すると本気で思っていたくらいです。つまりリフトに乗らない限り、タダでスキーが出来る。特にこれが理由ではありませんが、部門はクロスカントリ―を選択しました。現役時代は、もちろんトップレベルの学生には遠く及びませんが、練習やレース、合宿を通して、競技スキーの面白さを存分に体感させて頂きました。

それは紛れもなく私の財産となり、ここではクロスカン

トリースキーの縁で出会った方の話を紹介します。

私は、仙台で主に住宅に関わる工務店を開いています。住まいとは、「ハコ」をつくることだけではなく、家具やインテリアなどのエッセンスが、暮らしにとつてとても重要な役割を果たします。その中で、出来れば一人か二人くらいでやっている、丁寧な仕事をしてくれる家具職人を長年探していました。ただし、私が提案する家との相性もあり、あまりアート感が強い方とはやりづらいたらう。そのあたりを周りの方に、ことある度に話していたところ、あるとき、一人の職人さんに出会いました。

その方とは、**HOKKA** というブランド名をもつ、工藤博さん。出会った当時は、泉区に工房がありました。現在は岩手県の西和賀町という地に移住され、さらに精力的に活動されています。工藤さん（弘前実業高校・同志社大学卒）は、ガリウムワックスで有名な同和鉱業スキー部に所属していた二〇〇〇年に、クロスカントリ―日本代表選手としてソルトレークシティで開催された冬季オリンピックの男子一五kmと五〇kmに出場されました。宮城県代表として、国体の成年男子一部一五kmで優勝したこともあります。

初めてお会いした際、国際大会の様子や、今でも国体に出場し、当時の仲間と交流している様子などを伺いました。そして希望通り、大変丁寧で、押しと引きのバランスの取れたお仕事ぶりがわかり、感動を覚えました。いつかこの方につくる家具を、しかるべきお客様に提供できる機会があればと思っています。ついに、その時が訪れました。

二〇一八年に、増築とリノベーションを依頼されたMさ



ん。実は増築部分は、ほとんどがトレーニングルーム。当時小学生だった娘さんが、将来水泳でオリンピックを目指しているとの話でした。ついに温めていたカードの順番がやってきました。ちょうどダイニングテーブルを希望されていたこともあり、工藤さんを紹介しました。

オリンピックを目指している子ども（家族）に、オリンピックに出場した経験のある方にテーブルをつくってもらおう。それだけでメッセージは伝わると確信しました。

製作にあたり、間取りを考えるとぜひ楕円に、これは私からの希望でした。そして天板を磨きながら「クロカンのカーブに似ていますね」とニッチな会話をしながら作りあげ、完成した家に届けました。

手にしたMさん家族以上に、私が一番嬉しかったのかもしれない。こうしてスキー部で

過ごした経験が、形を変え、新たな人と出会い、また他の方にエネルギーを伝え続ける。
オリンピックを目指している娘さんは、現在高校生。仙台を離れず、ここから世界を見据えています。いずれどこかでニュースになった際には、ぜひこの話を思い出してください。



スモールヒルK点越え？

小野木伯薫（平成十一年卒）

二〇二一〜二〇二二シーズンをもって、一人の五輪メダリストが引退した。伊東大貴選手。彼について語るのではなく、将来のメダリストと一緒に練習できる環境にあった下川町での話である。

たくさん雪が積もるとジャンプ台の整備は一からやり直しになる。冬のジャンプ台を作るのは、ほぼ一日仕事でその日のうちに練習はできない（試合会場を作ってくれる自衛隊に感謝）。

ランディングバーンにツボ足を入れて、板を履いてジャンプしながら何度も踏みならすのは大変足にくる作業である。体力のある大学生は役に立てるし、そこまで慎重にならないくてもいい作業だ。アプローチからカンテを仕上げる方が大変というか上級者の仕事だ。体力的にはキツくないが、雪を取り除くのと入れるのを雪面の硬さを吟味しながら、その加減を知るものだけが作業に携われる。

そんな私は、当時小学六年生の伊東大貴選手と同級生の千田侑也選手とカンテを仕上げることになった。作業に励んでいる中、三〇m級のスモールヒルではあるものの、隣のノーマルヒルとランディングバーンを共有しているため、非常に大きな台になっている下川のスモールヒルは、誰もK点を超えたことはない（というかどかがK点なのかもわ

からない）という話になった。そのうち、遠くに飛ぶというジャンパーの本能から、

「カンテまっすぐにしたらK点超えるんでねえ？」

という話になり三〇m級のカンテ仰角を0度にしうということになった（通常は一〇度くらい）。K点を越えられるかもしれない。どこまで飛べるのか、童心に帰るとはまさにこのことだった。

私は一番手テストジャンパーとして飛ぶことになった。いつも通りアプローチをぐんぐん加速していく、踏み切った後のフライト感、視界は別世界、どこまでも遠くへ飛べる！と思ったのもつかの間、最終的にはゴーグルレンズと額を割る大転倒だった。

やっぱり、カンテ整備は難しい。

PS…その後、某メダリスト使用のゴーグルを伊東大貴選手からいただきました。

田山スモールヒル設計について

田中倫久（平成一四年卒）

今から一〇年以上前の二〇〇九年、岩手県八幡平市（旧安代町）田山のスモールヒルの設計業務に携わることがあった。当時岩手県内には、小学校低学年が飛べるサマー型のスモールヒルがなく、ジャンプ競技を始める子供も少なくなっていた。そこで二〇一六年の岩手国体に向けたジャンプ競技の強化として、既設のミディアムヒルの横にスモールヒルを新設することになった。

新たにスモールヒルを計画するにあたり、設計業務未経験ながら元ジャンプ経験者であるため、私も業務に携わることになった。これまで鹿角のジャンプ台を利用してきた経験から、田山スモールヒルの設計にあたっては、以下の点に配慮した。

- ・スロープカーにより練習中の体力的負担を少なくし、また既存ミディアムヒルでも活用できる配置とする
- ・練習中の導線を考慮し、中間駅を設け移動距離を減らす
- ・小学生低学年の身長よりもカンテ高を低くし、恐怖心を減らす

これらに配慮した結果、写真のように、斜面下側から見て左側から、田山スキー場…新設スロープカー…既設ミディアムヒル…新設スモールヒルと配置した。

また練習中の導線を確保するため、ミディアムヒルカンテ（スモールヒルトップ）付近にスロープカーの中間駅を設け、ミディアムヒルアプローチにはアンダーパスにより、選手が練習を中断することなく移動できるようにした。

選手には本数も稼げる良いジャンプ台となったと思う。またアンダーパスにより導線を確保することにより練習中の安全性も向上した。しかし設計業務初心者脇の甘さから、散水弁のスイッチボックスの図面数量を入れ忘れていた。そのためコーチはジャンプ台上り下りし、散水をしなくてはならない。かくいう私も、スキー部後輩の練習を見ながら、何度も散水のために上り下りした。

最後に当時の岩手県の強化策は成功し、岩手国体の優勝だけでなく、田山から新たなオリンピックメダリスト・小林陵侑がでたことはご承知のとおりである。



2009年秋撮影（施工前）



2011年春撮影（施工後）

谷を経て（二〇〇七〜二〇一六年の変化）

伊藤（天野）文子（平成二三年卒）

私が現役や監督としてスキー部に密に携わった二〇〇七（平成一九）年からの九年間は、部が大きく変化した時期だったように思う。

〇七〜〇八シーズンのインカレ（全日本学生スキー選手権大会）に出場したのは、医学部スキー部からの助っ人を含め男子九人、女子二人。怪我等で出場していない部員もいたが、オフシーズンの練習に集まるのは毎回五人程度で、当時は部の存続も危ういと感じていた。それでも男子は毎年二部残留（当時四部制）の目標を達成しており、女子は私達の代が数年ぶりの女子部員だったが、インカレ参加二年目の〇八〜〇九シーズンには三部優勝（当時三部制）と、良く言えば少数精鋭だった。

部として最も厳しかったのは、おそらく〇九〜一〇シーズンだろう。四年生男子一人、三年生女子三人（うちマネージャー一人）と、極端に上級生が少ない状況だった。旭岳や音威子府で“一人合宿”したのも今となっては懐かしい。一方で部員数は少しずつ増加傾向にあり、一〇〜一一シーズンにはインカレの出場枠を部内で争う程になり、部の雰囲気も随分賑やかなものになっていた。

その後は毎年コンスタントに新入部員を迎え、部内で良い競争が生まれ競技レベルが向上していく様子を監督とし

て嬉しくみていた。インカレでも確実に総合順位を上げていき、一四〜一五シーズンには男子二部三位、一五〜一六シーズンには女子二部優勝という好成績を残している。男女共にインカレ二部で上位を狙う、層の厚い強い部になるとは、入部した頃は想像も出来なかった。

大所帯になったが故に、それまでのやり方では上手くいかないこともある様子だったが、その時々々の幹部を中心に現役部員が工夫して乗り越えていた。九大戦（国立九大学スキー選手権大会、一月初旬開催）への参加もその一つだ。インカレの規模が縮小され（レース数減と日程短縮、男子三部制・女子二部制への縮小）、インカレでのレース経験が積みにくい状況を改善させた。なお、九大戦に参加するようになった背景にインカレの開催時期の変更（一月中旬から二月）があったことを申し添えておく。

ヒュッテが手狭になる程に部員数が増え、階段でご飯を食べているのには驚いたが、それでも皆楽しそうにしており、部の雰囲気の良さが感じられた。和気藹々としながらも、確実に強くなっていく後輩たちを羨ましく思っていたが、自分たちがしてきたことがその土台の一部になっていたのだと思う。現役部員として私と同期を過ごした世代には失礼かもしれないが、“谷”の時期を経て、強いスキー部があったのだ。

変化もあったが、競技に取り組む姿勢等変わらず受け継がれたものもある。今後のスキー部はどのように変化し、何を受け継いでいくのか、楽しみにみていきたい。

SPUR 66

Spur 66

目次

部長文	…59
監督文	…61
インカレ観戦記	…63
インカレ体験記	…64
九大戦観戦記	…65
九大戦体験記	…67
令和3年度成績表	…69
部長・監督紹介	…78
部員紹介	…79
令和4年度コロナ禍における活動報告	…84
幹部文	…85
部員文	…90
令和3年度会計報告	…126
令和3年度寄付金報告	…127
学友会スキ一部部則	…129
スキ一部部員名簿	…132
スキ一部OB・OG名簿	…135
広告協賛一覧	…149
奥付	…152

再生と新生のとき 70周年に思う

スキー部長 風間 聡(平成二年卒)

コロナ禍がまだまだ続いています。一方、少しずつ元に戻りつつあります。不可逆なものも多くあります。会議はリモートが常識になり、書類の押印が廃止され、トイレのお手拭きは温風から紙に変わりました。私の周りにおいて象徴的なことがありました。工学部に大運動会という一大イベントがあったのですが、雨天中止とコロナ禍でほとんどの学生が運動会を知らず、その伝統は途絶えてしまいました。昨年からの運動会の在り方の議論が始まり、元の運動会に戻そうとする派と新しいものに作り直そうとする派がありました。若手教員の多くは本務でない運動会に情熱がなく、学生が中心となって新たな形での再開を目指すこととなりました。eスポーツの採用はその典型的なもので、一日開催から分散開催など時勢に沿ったものが提案されています。その良し悪しは全くわかりませんが、一度途絶えると様々な理由から、完全に元に戻すのが難しいことがわかります。逆にいうと頑健な組織運営を容易に変革できることもわかります。

残念なことに昨年度のスキー部はコロナ前のような強さを見せつけることはできませんでした。盛者必衰であり、無限に勝ち続けることは無く、いつかは途絶えるものです。私は落胆もせず悲観もしていません。新しい幹部は、原因を分析して復活のために汗を流しています。元の強い東北大スキー部に戻るかどうかは今年にかかっていることを幹部は自覚しています。とはいえ、全く元に戻すことは無いですし、そうする必要もないと思います。新しい伝統を築いてくれれば良く、目的を明確にして励むことを期待しています。再生ではなく、新生スキー部として盛り上げてください。

九大戦で優勝できなかった理由を現役は言いませんが、一つの理由が主管であったことかもしれません。昨年度は東北大学が主管でした。現役幹部が上級生になって大会を経験できずの主管でした。それでも浅野監督と小林主将が中心となって学生部の協力を仰ぎ、総長の挨拶を草稿し、会場の準備や運営を若いOBOGとともに行い、しっかりと開催しました。自身の競技もある中で大変な労力であり、称賛に値する働きです。この場を借りて、現役諸君とご協力いただいたOBOGに深く感謝の意を表します。

本号は七十周年記念誌との合併号となっています。これらの記念事業は先号で触れましたし、特集の頁に詳しく書かれています。末筆にな

りましたが、OB OG諸氏にはいつもスキー部を様々な面で支えて頂き厚く御礼申し上げます。現在のスキー部現役の苦しい状況を認識して頂き、ご支援を引き続きお願い申し上げます。
 (令和四年五月一日)

表1 過去の戦績

開催年		R4	R3	R2	H31	H30	H29	H28	H27	H26
インカレ	男子	5	中止	5	6	4	6	5	3	5
	女子	12	中止	6	5	14*	10*	1	5	9
全国戦	男子	**	中止	中止	1	1	1	1	1	2
	女子	**	中止	中止	3	1	3	1	2	5
九大戦 または 十大戦	男子	4	中止	1	1	1	1	1	1	1
	女子	5	中止	1	1	1	2	1	1	1
	総合	4	中止	1	1	1	1	1	1	1

*一部 ** 参加校が少ないため順位つけず

監督文

工学研究科 修士二年 浅野颯太

前年度に引き続き東北大学学生会スキー部の監督を務めさせていただきました工学研究科修士二年の浅野颯太です。OB・OGの皆様におかれましては昨年度もスキー部の活動を様々な面で支えていただき厚く御礼申し上げます。今年度も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度は東北大学スキー部にとって、嬉しいニュースが増えた年になったと考えております。コロナ禍ではありますが大会が例年通り開催出来たり、インカレでメダルをとる選手が出たりと一昨年度の活動に比べればこの情勢とも折り合いをつけて部活動に取り組めた一年になったと思います。コロナ禍で大変な運営を強いられた幹部代や、右も左もわからないまま何とか頑張った下級生には労いの言葉をかけたいと思います。

ただ、監督として俯瞰してみると部全体として意思統一ができていないのか疑問に感じる場面もありました。部全体の成績が振るわなかったのは、他大学が総合力を強化してきたことも間違いなくあると思いますが、活動内容に改善すべき点があることも事実かと感じます。特に、部としてのコミュニケーションが表面的で、あつてはならないミスや伝達漏れや遅延による障害が所々発生し、残念に感じる場面もありました。私の監督不行き届きもあり責任を感じている次第です。監督としての関わり方は難しいもので、練習へ顔を出し、食事に行った際に、現役の活動を見聞きしていましたが、あまり意見をせずにおりました。どこまで意見していいものか考えモノではありますが、現役に直接何かを伝えられる最後の年であるので伝えられるものは伝えていきたいと思えます。

昨年度の反省を踏まえ今年の現役に期待することは二つあります。

一つ目は縦横関係なく密に連携をとり、結束してチームとして目標を達成すること

二つ目は古き良き伝統を復活させ、時代に合った新たな伝統を作ること

です。一つ目に関して、幹部代は後輩を引っ張りながらも、後輩の意見を取り入れながら団結して活動していくことを期待しています。下級生は吸収できることは大いに吸収し、今後自分たちが部を引っ張る存在になることを考えながら活動することを期待します。

二つ目に関して、八木杯や夏合宿などのイベントの復活に加え、オンオフの切り替えがしっかりなされていた雰囲気を取り戻すことなどハード面ソフト面共に古き良きスキー部を取り戻してほしいです。その為に伝えられることは出し惜しみせずに伝えていければと思います。それ

だけではなく、時代に合わせて新たな文化や行事を作ることも必要になるかと思っています。変化を恐れず進化して行ってほしいと思います。最後に、今年度の現役の活躍に大きな期待を込めつつ、今後とも東北大学スキー部の活動にご理解とご協力をいただきますよう何卒よろしく
お願い申し上げます。

第95回インカレ観戦記

郭啓悦

2022年2月23～27日まで秋田県にある花輪スキー場で第95回全日本学生スキー選手権大会が開催されました。1年生だった僕にとって、初めてスキーに関しての大規模な全国大会でした。

まず、大会の雰囲気は九大戦とは大きく異なり、緊張感のあるものであったと強く感じました。それぞれの大学が全力で取り組んでいることがものすごく伝わってきました。また、レース本番やコースオープンの際の他校の選手の滑りはとても素晴らしかったです。ランナー部門とコンバインド部門は全種目に参加しましたが、アルペン部門は花輪スキー場でのSLとGSのみに出場しました（スーパージャンプも別日程で他のスキー場で行われていましたが、東北大学は参加していません）。今回の大会において、アルペン部門の僕は選手ではなくサポートとして参加させていたため、実際にコースを滑ってはいませんが斜面が急であったということを感じています。九大戦が行われた野沢温泉スキー場のカンダハーコースと同じくらいの斜度もしくはそれよりも少しだけ急でした。しかし、ハードバックされた斜面だったので怖さは九大戦よりも怖いと思われず。

僕は学生役員にも登録されていたため、ジャンプ競技の役員として仕事をしつつもジャンプ競技を観戦しました。男子の1部校がノーマルヒル、女子の1部校と2部校、そして3部校がミディアムヒルを飛びました。東北大学のコンバインド部門は夏の間よくこちらのジャンプ台で練習をしています。いつも練習しているジャンプ台ではありませんが、サマージャンプとシーズン中の雪上でのジャンプはやはり違うようです。また、コンバインド部門は12月に北海道に合宿をしに行きます。そこで使用するジャンプ台と少しサイズが異なっているらしく苦労している人もいます。アルペン部門の僕にはわからないものがあり、とても興味深かったです。

今回の大会では男子は2部校の中で5位、女子は2部校の中で12位という結果でした。女子はケガにより出場ができなかった選手がいましたが、男子は人がおらず万全の状態で大会を迎え、このような結果を残すことができました。大学から競技スキーを始めた人が大半を占めるチームではありますが、インカレというレベルの高い大会でこのような結果を残せるこのチームの凄さを改めて実感しました。僕はそのような環境の中で練習できることに感謝するとともに、来シーズンもまた自分の滑りの技術を向上させたいとも思いました。最後に大会を開催してくださった運営の方々、支援してくださった多くの方々に感謝申し上げます。以上でインカレ観戦記とさせていただきます。

インカレ体験記

山西友貴

ランナー二年の山西です。二月に行われたインカレの体験記を書いていきたいと思います。個人戦も振り返りたいことが多々あるのですが、そこから書くには余白が狭すぎるのでリレーのことに書いて振り返りたいと思います。僕は二走目で、三走目が諒さんだったので、一走の堀さんがどんな順位で帰ってきて、順位をあげるとか、駆け引きとか難しいこと考えずに全力で走って諒さんにつながるスタート前に思っていました。ただ、コースは二・五キロ×二周でいつもより短いからといって、前半に力を使いすぎないようにと意識していました。

スタート直前はとても緊張していて、「堀さん早く来て！」という気持ちと、「まだ心の準備ができてない！」という気持ちがせめぎあっていました。ただ、いざスタートするとそんなのは全て忘れていました。二番目の坂で阪大に抜かされて、「やばい！」ってついていかなきゃとも思ったのですが、「この人は速い人だから、大丈夫、後で諒さんが抜かし返してくれる」と思い、ついていくのを諦めました。ヘアピンの後の平地で京大に追いつきました。「この人は抜かせる！差をつけよう」と思い、とてもペースをあげてしまいました。そして結果的に二週目の前半ぐらいで割と体力を使い切ってしまった。このリレーは二・五キロの周回でかつ鹿角のコースはコース内の様々な場所で応援できるので、コース内のどこを滑っていても絶対に誰かが応援してくれるという状況が救いでした。正直応援なかったら、二週目の最後の急な坂とかもうしんどくてペース落としていたかもしれせん。それくらい全力で滑りました。最後スタートエリアに戻ってきたときはもう何も考えられなくて、ぼーっとしていました。結果的に最後、コースを間違えて三十秒ぐらいロスしてしまいました。本当に申し訳ないです。あれだけ間違えると言われていたのに。もう自分何やってるんだって感じでした。でも、諒さんの滑りは圧巻でした。結果的に順位を三つか四つぐらい上げて、十位でゴールしました。かっこよすぎませんか。諒さんがゴールしてからは正直あまり記憶ないのですが、「来年はミスしても取り返してくれる先輩はいないんだぞ」と言われたのだけは覚えています。諒さんは何気なく言ったかもしれませんが、僕は心にグサツと刺さりました。リレーのとき後ろに速い先輩がいることの安心感はもちろんですが、普段の練習でも見本となるような先輩がいるというのはすごく恵まれていることだと思います。もちろん諒さんだけでなく、ほかの先輩方も僕にとっては安心感があったりすごく心の支えで、このランナーの雰囲気やすごく好きでした。僕もそんな先輩になりたいなって最近思います。別にそれは今までと違う何か特別なことをするのではなく、普段の練習を中途半端にせずしっかり頑張って、試合でも結果出せるよう頑張っていきたいと思っています。そして来年は嬉し涙を流せたらいいなと思います。インカレと大分逸れてしまいましたが、読んでいただいた方ありがとうございました。

九大戦の観戦記は、三年マネージャーの黒田が書かせていただきます。よろしく願います。

コロナ禍で中止となった去年の九大戦から一年経ち、当時二年生だった〇〇の代にとっては初めての大きな試合でした。世の中はお正月、初売り、おせち…といったワードでいっぱいでしたが、私たちは年末年始を全て長野県で過ごしました。年越しの瞬間はみんな翌日のために寝ていたり、世間からすれば変わった年越しだと思えますが、やはり試合続きで充実していて、周りには見慣れた仲間がいてくれたので、良い年末年始だったと記憶しています。

さて、試合についてです。東北大学は総合で四位という成績となり、連覇を守ることはできませんでした。先輩方の作り上げてきた歴史に区切りをつけてしまい、悔しく残念な気持ちでいっぱいですが、今年の九大戦では優勝を目指し、部員一同頑張っていきたいと思えます。私自身は、個人的にこの結果がとても悔しく、また、結果を受けてあまり悔しそうでない選手が散見されたことも少しショックでした。もちろん彼ら自身を責めているわけではありません。コロナ禍で大学の厳しい制限もあり練習時間が限られてしまったことや、偉大な先輩の引退、他大学の躍進もあって、諦めていた部分や、競技を全力で楽しむことに注力した部分があったのだと思います。しかし、今までのスキー部の成績を見ていて、きっと勝ると甘く見ていた私はどうしても悔しい気持ちが勝ってしまいました。来年の九大戦では選手がもっと活躍できるように、また、「勝つ」ということにこだわられるぐらい自信を持って競技に挑めるように、マネージャーとしてできることをどんどんやっていきたいです。私自身も気持ちが切り替わり、気合が入った試合でした。

アルペン部門のハイライトは、当時二年の山内にとって最後の試合だったということです。彼は留学の予定等を考慮して休部の選択をし、この九大戦が大学生活において最初で最後の試合となりました。にもかかわらず、最後の最後にコースアウトしてしまい、部員から大いじりを食らってました(笑)。悔しいラストでしたが、笑顔で引退する彼を見てよかったです！

次にコンバインド部門です。小林先輩、大坪先輩の飛躍はさすがという感じで、特に小林さんの成績は印象的です。東北大のポイント獲得に大いに貢献してくださり、ありがとうございます。ジャンプ部門は、飛ぶ際のフォームの改善が飛距離に直結してくるため、元々のポテンシャルの重要性は低く、練習を重ねる学年が上がるごとに飛距離も伸びて行くという、(勝手な)印象があります。「綺麗な飛び方だな」と思った人は大抵遠くまで飛んでいきます。また、ジャンプ部門はスタートからゴールまでを至近距離で見られる唯一の部門です。その点で他の競技よりもわかりやすく、観戦での充実度も高かったです。

コンバインド部門において当時一年の足立、当時二年の尾崎は怪我のため棄権となり、本当にやりきれない思いをしました。彼女たちの頑張りを近くで見ってきたので、私も悔しかったです。来年の九大戦ではぜひ活躍してほしいと思います！

リレー部門は、コースの要所所で二、三人の部員が応援する形で観戦しました。後半にかけて徐々に体力を消耗して辛くなってくるにもかかわらず、ゴールに向かって懸命に走る選手の姿は感動的でした。東北大の選手がなかなか入賞できなかった中でも、高橋先輩がこの部門で好成績を残しメダルを受け取っておられたのは印象的でした。ランナー選手としての経験や積み重ねてきた努力の量、そして今回残された結果に、尊敬という言葉しか出てきません。ランナーという競技の特性上、強い思いと根気がなければ続けてくることはできないはずです。笑顔でメダルを受け取り他大の選手と並ぶ姿は記憶に残るものでした。

来年の九大戦でも、みなさんの勇姿を見られるのを楽しみにしています。次こそ優勝！連覇の記録を再び始められるように、一丸となって頑張っていきましょう。

九大戦体験記

岩佐帆夏

九大戦8連覇中。このフレーズは、私が新歓活動をされているときから何度も何度も耳にし、口に出してきた言葉です。そして、苦しめられた言葉です。

昨年度の九大戦は、総合4位(男子4位、女子5位)となり、先輩方が積み重ねてくださった連覇を途切れさせる結果となってしまいました。この連覇を築いてきてくださった皆様、そして応援してくださった皆様、期待に応えられず本当に申し訳ありませんでした。敗因はたくさんあると思います。部員数の減少であったり、女子部員が1、2年のみであったり、しかしこの辺りは言い訳にしか聞こえないでしょう。

私は、部員一人一人、全員が大会に向けて努力をし、その結果が総合優勝に繋がるべきだと考えています。まず、この大会に向けて、夏も冬も日々努力してきた部員にしか、今回の優勝を逃したことを悔しがる、悲しむ権利はないと思っています。他力本願で、優勝できなかったと嘆くのは間違っていると思います。

自分が普段から着実に努力を積み重ね、その先の目標が自分の順位を上げ、総合優勝に繋げていくことなのではないでしょうか。経験者が少ないと嘆くだけの、女子をコンバに入れて飛ばせようだの、そのような小細工を考える前に、まず自分が練習に励んで、自分でポイントを取ることに集中するべきだと思います。まずは自分が強くなるための努力をしてからだと思います。私は相当努力してきた自信があるので、今回の結果はとても悔しいです。しかし、この悔しさを共有したいと思える部員が全員ではなかったことがもっと虚しいです。

全員で勝ちに行く、という意識は今の部員にあるのでしょうか。勝ったときに全員で喜べる、負けた時に、全員で悔しがる、そんなチームになれたらいいなと思った九大戦でした。

体験記ということで、後半は自分が出場した競技の話します。1日目から順に、フリー、SL、クラシカル、GS、1日開けてリレーに出ました。私は連覇のこと、ポイントのことは意識しすぎないようにしようと思いましたが、結局毎日そのプレッシャーに押しつぶされていきました。特に1日目のフリーは、コロナの影響で初めての大会でもあり最初の競技だったので、ピークで緊張していました。登り坂で足が上がりなくなり、2度とクロカンなんてするものか、と思ったのを鮮明に覚えています。そしてゴール直前に、前の人が間違えて周回に入ってしまったのにつられて自分も間違え転倒し、戻って、3秒差で4位、メダルを逃しました。悔しいどころの騒ぎではありませんでした。そんな最悪なスタートでしたが、次の日はボールに∞年ぶりに入ったぶつけ本番のSLが6位で、次の日の苦手なクラシカルでこの順位を下回ったら、ランナーとしてのこれまでの努力は何だったのだろうか、となりそうだという変なプレッシャーがかかりました。そしてクラシカル当

日。この日は野沢でも最大規模の大雪で、圧雪をしてもすぐに雪で埋もれてしまうほど大荒れでした。運営していただいた先輩方、応援してくれた他部門の皆さん、本当にありがとうございました。結果は、下駄りまくって、下り坂も走るような酷いレースで4位。今までのダイアゴナルの練習は何だったのだろうかというレースでしたし、クロカン2種目とも4位というとても悔しい結果に終わりました。GSは、前日の下駄って止まる板とは違い、何もしなくてもmg sin^①で自然と斜面を下れるGS板に感動し、この大会で一番楽しく競技ができました。そしたら3位でした。私はランナーを追放されるかと思いました。色んな人に笑われました。結構複雑な思いでした。色々と言りたいことはありますが多方面に怒られそうなので、クロカンの3位とアルペンの3位は私にとっては全然違う、ということだけ言っておきます。リレーはオーダーミスによる失格でした。本当に申し訳ございませんでした。来年からは何人かで確認し、このようなことが2度とないようにします。5種目出場はとても過酷でしたし、毎日ワックスルームに住みついていましたが、この大会ならではの経験ができて良かったです。来年の目標は、クロカンは3種目優勝、アルペンは出場すると思ったら2種目メダル獲得です。そして総合優勝を取り返すことに貢献できたらと思います。

2021 年度 成績表

第 61 回国立九大学スキー選手権大会			
野沢温泉スキー場			
男女総合 4 位 男子 4 位 女子 5 位			
男子 SL			
正シード	順位	名前	合計
	8	山内 辰馬	0:51.33
	21	渡部 新	1:00.95
	22	山田 唯人	1:01.29
	25	鈴木 昂	1:06.08
	26	川田 裕貴	1:06.80
	38	石橋 賢	1:31.00
オープン	順位	名前	合計
	5	郭 啓悦	1:07.43
女子 SL			
正シード	順位	名前	合計
	6	岩佐 帆夏	1:11.56
	8	野崎 菜月	1:13.01
男子 GS			
正シード	順位	名前	合計
	4	山田 唯人	0:34.26
	14	渡部 新	0:35.84
	25	石橋 賢	0:37.29
	29	鈴木 昂	0:37.66
	35	川田 裕貴	0:39.49
	44	山内 辰馬	0:48.95
オープン	順位	名前	合計
	6	郭 啓悦	0:39.75

女子GS			
正シード	順位	名前	合計
	3	岩佐 帆夏	0:38.57
	11	野崎 菜月	0:43.64

男子スペシャルジャンプ				
正シード	順位	名前	合計得点	
	5	小林 幹太	135.9	
	9	大坪 奏祐	74.0	
	DS	村上 大空		
	DS	永島 史帆		
女子スペシャルジャンプ				
正シード	順位	名前	合計得点	
	DS	小澤 わかば		
	DS	足立 玖美佳		
男子ノルディック複合				
正シード	順位	名前	ジャンプ得点	クロスカントリー タイム
	5	小林 幹太	74.0	17:49.4
	9	大坪 奏祐	55.2	18:43.7
	DS	村上 大空		
	DS	永島 史帆		
女子ノルディック複合				
正シード	順位	名前	ジャンプ得点	クロスカントリー タイム
	DS	小澤 わかば		
	DS	足立 玖美佳		

男子 10km FR				男子 10km CL			
正シード	順位	名前	タイム	順位	名前	タイム	
	3	高橋 諒	35:45.0	2	高橋 諒	47:19.5	
	8	中田 和真	36:42.6	17	中田 和真	57:49.4	
	29	山西 友貴	40:24.7	19	堀 倫彰	57:57.4	
	32	小林 幹太	40:52.3	25	山西 友貴	1:03:44.8	
	34	堀 倫彰	41:14.7				
	36	大坪 奏祐	43:36.2				
オープン	順位	名前	タイム	順位	名前	タイム	
	6	村上 大空	42:40:6				
	11	永島 史帆	46:12.1				
女子 5km FR				女子 5km CL			
正シード	順位	名前	タイム	順位	名前	タイム	
	4	岩佐 帆夏	21:47.8	4	岩佐 帆夏	35:14.7	
	11	小澤 わかば	25:07.2				
	13	足立 玖美佳	26:17.6				
男子 5km×4 リレー							
正シード	順位	タイム		オープン	順位	名前	タイム
	4	東北大学	1:12:08.4		2	東北大学 OP	1:28:10.0
		高橋 諒	16:17.9			小林 幹太	22:34.6
		堀 倫彰	19:53.3			村上 大空	25:33.5
		山西 友貴	17:39.6			永島 史帆	21:11.0
		中田 和真	17:20.7			大坪 奏祐	18:50.9
女子 3km×3 リレー							
正シード	順位	タイム		/			
	DQ	東北大学	46:10.0				
		岩佐 帆夏	15:01.3				
		小澤 わかば	16:07.6				
		足立 玖美佳	15:01.1				

秩父宮杯・秩父宮妃杯 第93回全日本学生スキー選手権大会				
アルペン：花輪アルペンコース クロスカントリー：鹿角市花輪スキー場クロスカントリーコースジャンプ： 花輪スキー場花輪シャンツェ ミディアムヒル				
男子2部5位 女子2部6位				
男子2部SL				
順位	名前	1本目	2本目	合計
20	志関 弘平	58.21	52.96	1:51.17
25	山田 唯人	58.22	54.57	1:52.79
51	渡部 新	1:08.26	1:11.66	2:19.92
58	石橋 賢	1:15.22	1:13.61	2:28.83
DF	鈴木 昂			
女子2部SL				
順位	名前	1本目	2本目	合計
38	野崎 菜月	1:21.25	1:17.04	2:38.29
男子2部GS				
順位	名前	1本目	2本目	合計
21	志関 弘平	1:01.79	1:00.71	2:02.50
25	山田 唯人	1:02.38	1:04.18	2:06.56
43	鈴木 昂	1:14.94	1:17.27	2:32.21
DF	石橋 賢			
DF	渡部 新			
女子2部GS				
順位	名前	1本目	2本目	合計
DF	野崎 菜月			

男子 2 部 15kmFR			男子 2 部 10kmCL		
順位	名前	タイム	順位	名前	タイム
9	高橋 諒	45:05.3	3	高橋 諒	29:26.4
37	山西 友貴	53:41.6	28	堀 倫彰	34:08.8
42	堀 倫彰	56:01.1	48	山西 友貴	39:29.0
女子 2 部 10kmFR			女子 2 部 5kmCL		
13	岩佐 帆夏	40:27.3	7	岩佐 帆夏	20:28.6

男子2部ミディアムヒルススペシャルジャンプ				
順位	名前	1本目 得点	2本目 得点	合計
6	小林 幹太	63.4	58.2	121.6
8	大坪 奏祐	55.4	53.9	109.3
15	村上 大空	19.2	15.0	34.2
16	永島 史帆	6.1	10.8	16.9
女子2部ミディアムヒルススペシャルジャンプ				
順位	名前	1本目 得点	2本目 得点	合計
3	小澤 わかば	5.2	9.4	14.6
DS	足立 玖美佳			
DS	尾碕 明			
男子2部ノルディックコンバインド 5km				
順位	名前	ジャンプ 得点	クロスカンтриー タイム	
8	大坪 奏祐	58.1	17:19.4	
10	小林 幹太	53.5	17:28.2	
15	村上 大空	16.4	19:09.2	
16	永島 史帆	14.4	19:54.3	
女子2部ノルディックコンバインド				
順位	名前	ジャンプ 得点	クロスカンтриー タイム	
4	小澤 わかば	13.6	22:47.6	
男子2部3×5km リレー (C・F・F)				
順位	走順	名前	タイム	合計タイム
10	1	堀 倫彰	17:56.8	47:56.6
	2	山西 友貴	17:02.4	
	3	高橋 諒	12:57.4	
女子2部3×5km リレー (F・F・F)				
順位	走順	名前	タイム	合計タイム
DS	1			
	2			
	3			

第 42 回全日本国公立スキー選手権大会				
長野県白馬村岩岳スノーフィールド				
男子 SG				
順位	名前	1 本目	2 本目	合計(1 本制)
14	山田 唯人	44.77		44.77
20	渡部 新	46.01		46.01
58	石橋 賢	48.75		48.75
31	鈴木 昂	50.39		50.39
34	川田 裕貴	52.02		52.02
37	郭 啓悦	52.87		52.87
女子 SG				
順位	名前	1 本目	2 本目	合計(1 本制)
10	岩佐 帆夏	51.90		51.90
11	野崎 菜月	53.86		53.86
男子 GS				
順位	名前	1 本目	2 本目	合計(1 本制)
6	山田 唯人	50.70		50.70
21	渡部 新	55.75		55.75
26	石橋 賢	56.80		56.80
29	鈴木 昂	57.92		57.92
33	川田 裕貴	1:01.52		1:01.52
40	郭 啓悦	1:03.34		1:03.34
女子 GS				
順位	名前	1 本目	2 本目	合計(1 本制)
11	岩佐 帆夏	1:01.75		1:01.75
13	野崎 菜月	1:05.48		1:05.48
男子 SL				
順位	名前	1 本目	2 本目	合計
5	山田 唯人	38.50	38.32	1:16.82

21	渡部 新	43.62	44.84	1:28.46	
28	石橋 賢	48.54	47.34	1:35.88	
34	鈴木 昂	46.06	55.52	1:41.58	
38	郭 啓悦	51.24	53.91	1:45.15	
DF	川田 裕貴				
女子 SL					
順位	名前	1 本目	2 本目	合計	
DQ	野崎 菜月				
男子 2 部 9kmFR			男子 2 部 10kmCL		
順位	名前	タイム	順位	名前	タイム
1	高橋 諒	33:18.8	1	高橋 諒	24:34.2
8	堀 倫彰	40:13.9	4	堀 倫彰	28:30.5
9	山西 友貴	40:25.4	6	山西 友貴	30:31.1
14	大坪 奏祐	42:58.5			
15	村上 大空	43:30.5			
22	永島 史帆	48:44.1			
女子 2 部 6kmFR			女子 2 部 5kmCL		
13	岩佐 帆夏	28:09.1	1	岩佐 帆夏	15:28.1
3	小澤 わかば	33:49.6			
DF	足立 玖美佳				

男子 4×3km リレー (F・F・F・F)				
順位	走順	名前	タイム	合計タイム
2	1	山西 友貴	11:21.6	45:07.1
	2	堀 倫彰	11:31.8	
	3	大坪 奏祐	12:17.8	
	4	高橋 諒	9:55.9	
5	1	山田 唯人	13:05.7	56:03.5
	2	永島 史帆	13:47.0	
	3	渡部 新	16:38.8	
	4	村上 大空	12:32.0	
女子 2部 3×3km リレー (F・F・F)				
順位	走順	名前	タイム	合計タイム
2	1	岩佐 帆夏	12:49.9	1:03:51.4
	2	野崎 菜月	35:34.7	
	3	小澤 わかば	15:26.8	

部長・監督紹介



風間 部長

お忙しい中、部長としてスキー部のために
尽力して頂いております。部員一同心より感謝申し上げます。



青木俊明 副部長

お忙しい中、副部長としてスキー部のため
に尽力して頂いております。SPURの発行にも携わっていただき
ました。今後ともご指導のほどよろしく願います。



安食さんご夫妻

ヒュッテの管理人をしていただいております。
夏合宿やアルペンの冬合宿のコーチもしていただいております。
あのんちゃん、はるくんは仲良く元気に過ごしております。

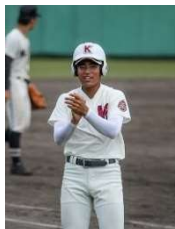


浅野颯太 監督

今年より監督してお世話になっております。
お忙しい中、スキー部の活動にも良く参加していただいております。
今後ともよろしく願います。

部員紹介

1年生



西村 大祐

ゲレンデって
なんですか？



吉田 溪人

同中ならぬ同マンション



阿部 拓人

ういーっす



今井 敬裕

青春謳歌中



加藤 杏奈

ガッツ



根本 京次郎

骨折にもめげない



嘉齊 琉聖

イケイケ系男子



塩倉 颯瀬

RIZIN 優勝者の出身地にて誕生



花田 彩未

おざき好き



増田 優津樹

自転車練習中



其田 啓太郎

長過ぎは嫌だ



澤田 真拓

訛りが可愛い



瀧 颯太

ほー×2



齋藤 瑛斗

物理とスキーが大好き



谷 祥太郎

出会いを求めている



宮崎 真瑛

まちゃ



田中 遼真

暴れん坊将軍



小川 史温

貴重な高身長枠



渡邊 梓

底なしの体力

2年生



小澤 わかば
コンバ

メンヘラ製造機



山西 友貴
ランナー

引き継がれし
ランナーのバ畜



足立 玖美佳
コンバ

ストロングウーマン



村上 大空
コンバ

高所恐怖症



川田 裕貴
アルペン

骨粗鬆症



郭 啓悦
アルペン

まいペーす



野崎 菜月
アルペン

メンタル女王



永島 史帆
コンバ

草やってる



山田 唯人
アルペン

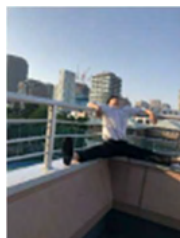
彼女募集締め切りました

3年生



石橋 賢
アルペン

守りたいこの笑顔



山内 辰馬
アルペン

カナディアン



渡部 新
アルペン

宴会の使者



尾碕 明
コンバ

人生に奮闘中



岩佐 帆夏
ランナー

おしとやか系女子(仮)



黒田 凜生
マネージャー

縁の下の力持ち

4年生



大坪 奏輔
コンバ

仮進級



堀 倫彰
ランナー

ぱぱ



中田 和真
ランナー

薄幸



鈴木 昂
アルペン

飲み会最強卍



高橋 諒
ランナー

オタク×ゴリラ

令和4年度コロナ禍における活動報告

石橋賢

今年度のスキー部は、コロナ禍が改善しつつあることや、大学のBCP（災害などの緊急事態に遭遇した場合の行動指針）がレベル1に低下したことから、体育部の課外活動に関する指針にのっとり、比較的コロナ禍以前と同様に、新歓活動や初ジャン、夏合宿を実施することができました。しかし、それでもなお新歓合宿や亀岡祭、新歓コンパなどの行事を開催することはかなわず、新入生、上級生共に悔しさが残る形となってしまいました。

現在、練習については、体調管理や密の回避などの感染対策を施した上で、大学からの許可のもと、比較的コロナ禍以前と同様の練習を行うことができています。また、全体練習を再開することができ、他部門同士で刺激を与え合う良い機会となっています。このように、活動に対する制限が緩和されつつあり、思う存分とまではいきませんが、以前より自由に活動ができていること、部員一同、嬉しく思っています。

そのような中で、新歓合宿はできませんでしたが、5月からの対面新歓を、大学から許可されたこともあり、今年度は、選手100名、マネージャー1名、計109名もの新入生に入部してもらえ、大変嬉しく思っています。今年度の新入生も、昨年と同様、積極的にさまざまな部門の練習に参加し、とても意欲的に活動を行っています。このことは、今後の成長が楽しみであると同時に、スキー部に新たな風が吹き、上級生に対しても良い刺激となっていることでしょう。

また、昨年度の大会については、十分な感染対策と大学からの許可の基、九大戦、国体予選、インカレ、全国公に、2年越しに出場することができました。コロナ禍により、2020年度の大会が中止、もしくは、出場禁止であったことから、昨年度の大会の開催、そして出場許可は、部員一同にとって悲願でした。しかし、大学による課外活動の制限により、自由に練習や合宿ができないまま、臨んだ大会であったため、悔いの残る形となってしまいました。

今年度は、コロナ禍が徐々に改善しつつあることから、感染対策を行った上で、自分たちにできる限りの練習を行い、今年度の目標の達成の為、部員一同、頑張って参りますので、引き続きご支援、応援のほど、よろしくお願い致します。

主将・アルペンチーフとして

主将兼アルペンチーフ 石橋賢

今年度、主将兼アルペンチーフを務めることになりました。石橋賢と申します。入部して2年が経過しましたが、今日までの間、コロナ禍に見舞われ、活動を制限せざるを得ない状況が続いてきました。入学してから、大会に出られたのは去年が初めてでしたし、スキー部の恒例行事において、一切参加したことがないものすらあります。そのため、自分たちが幹部代になったことがまだ信じられず、1年間、部員全員を牽引し続けられるか自信が持てないのが、正直なところですが。

しかし、今年度から、コロナ禍の出口がかすかに見え始め、例年通りの活動が再開できるのではないかと、現役一同やOB・OGの皆さんからいただいている期待は大きく感じます。また、今年度は、創部70周年という記念すべき年でもあります。その期待に応えられれば、主将、そして、アルペンチーフとして本望ですので、精一杯努力して参ります。その中で、4年生やOB・OGさんに、多々ご相談すること、ご協力をお願いすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の部の目標は、「九大戦 総合優勝」「インカレ（2部）男女ともに5位」そして、「伝統の復活」です。まず、前二つの目標を達成するために、主将として、「全部門で1つのスキー部」を大切にしたいと思っています。昨年度はコロナ禍の影響で、日々の活動に人数制限がかけられ、全体で練習をしたり、飲み会をしたり、レクリエーションをしたりする機会がありませんでした。そのため、1年を通して、部員間の接触は部門毎で固定化されてしまい、スキー部というよりも、アルペン部・コンバインド部・ランナー部の3つの部活があるように感じていた人も多いと思います。

「強いチームは雰囲気がいい」と言われますが、私は「雰囲気がいいチームは強い」の方が的を射ていると思います。雰囲気のいいチームは、部員同士で鼓舞し合って高め合い、辛いときがあってもそれを上回るほどの楽しい瞬間があるから、より強くなっていくのです。そこで、今年度は、全体練習の機会を設けたり、部門毎に異なる内容の練習でも、時間と場所を合わせて会う機会を増やしたりしています。また、レクリエーションの頻度を増やして、練習外でも交流する機会を作り、「全部門で1つのスキー部」を作り上げていきたいです。最終的には、部員全員がスキー部に入って良かったと思える1年にしたいと思います。

「伝統の復活」これは、コロナ禍でこれまで、実施することができなかった「夏合宿」「萩雪会」「八木杯」などの行事を今年度から、再開させるというものです。特に、今年は、創部70周年の記念すべき年です。これまで、スキー部はさまざまな数多くの人に支えられてきました。その中でも、OB・OGさんによるご支援は言い表せないほど大きなものであったと感じています。そこで、それらのご支援に

に対する感謝をOB・OGさんに伝える場、そして、これまで積み上げてきたスキー部の歴史・伝統を受け継ぐ場として、OB・OGさんと交流できる行事を大切にしていきたいです。

次に、アルペンチーフとしてですが、去年の練習、特にオフシーズンのトレーニングで感じた課題が「なんとなく練習をした気になっている」です。去年は、曜日毎や時期毎の練習メニューがあまり決まっていなかった状態でした。部活の日に練習に行って、その場で何をするか決め、とりあえずそれをこなして、帰る、を繰り返していました。そのため、その日その日は、なんとなく練習をした気にはなるが、あまり成長している気がしないと感じた人も多いと思います。

そこで、今年度は、一ヶ月毎に、自分の現状を記録し、来月までに到達したい目標を立てるというサイクルをアルペン部門全員で行いたいと思っています。例えば、「現状…400m1分、反復横跳び55回、バーベルスクワット50kg、10回3セット」「目標…400m、56秒、反復横跳び60回、バーベルスクワット55kg、10回3セット」などです。こうすることによって、部員ひとりひとりが自分のペースで練習ができたり、自身の成長を自覚することで、それが自信やモチベーションに繋がったりすることができると思います。そして、これは、オフトレに限らず、冬のオンシーズンの間も自身の滑りに関して、現状の確認と目標の設定を行いたいと思います。最終的には、部員全員の設定した個人の目標が達成できることを目指しています。

ここまで、今年度の主将、そしてアルペンチーフとしての抱負などを書いて参りましたが、今後とも、スキー部一同、そしてアルペン一同、目標達成に向けて邁進して参りますので、ますますの応援のほど、よろしくお願いいたします。

ランナーチーフとして

ランナーチーフ 岩佐 帆夏

今年度、ランナーチーフを務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。この場をお借りして、私のチーフとしての考え、そして今のランナーの現状と目標を話したいと思います。

まず私のチーフとしての考えを話します。私はチーフの仕事は、東北大学のスキー部、私で言えばクロカン選手を強くすることだと思っています。でも、この意識に差があるのが現在の東北大学スキー部だと思っています。今この部活に、強い選手になりたい、大会で結果を残したい、誰々に勝ちたい、という強いモチベーションを持って練習に励んでいる選手はどのくらいいるのでしょうか。最近部員内の話にもよく出てきますが、モチベーション、熱量の差があるのが現在のスキー部の現状です。私知っている数の上までの先輩方と比べると、競技に対する意識が高い選手が少ない部活になっていると感じます。厳しいことを言うようですが、私は学友会の部活に入ったからには競技に対して真剣であるべきだと思うし、生ぬるくやりたいならサークルや趣味程度でいいと思います。

もちろん楽しい部活にしようということは大切ですし、私も苦しいときに支えられたのはランナーの楽しい雰囲気でした。しかし、そこで練習関係のことで緩くしたり甘えたり、礼儀や生活面でだらしなくなるのは違うと思います。練習を毎回全員で、全力でやり切って、そこに部活の楽しさというものがあるのではないのでしょうか。練習と日常の切り替えが大切だと考えます。

こんなことを言っておきながら、私は東北大のクロカン選手を強くすることに不安を感じる毎日です。私は特にスキー部に入ってから、様々な場面で男女の格差を感じました。練習面でも、体力面でも、そして何と言っても立場上的の問題です。過去10年以上のブログを遡りましたが、ランナーチーフは毎年男性の方でした。ここで女だから、と言いつつ訳は知りません。これで甘やかされるのは絶対に違うと思うし、そうされたら腹が立つし、逆に悔しくなります。

先程から述べている“強くする”ことを達成するためには、昨年度のチーフのように、後輩には技術面の指導をし、メニューを考え、先頭を引っ張ったり、逆に後ろについて煽ったり、といったことをしたいです。しかし現在の私には後輩に指導できるほどの技術も指導力もないし、男子にはついていく側だし、メニューを考えても一部からやりすぎだと言われ、何が正解かわかりません。私の実力不足なのか、女子は女子に厳しくしてはいけないからなのか、原因は色々考えられますが、私が見ていたチーフよりもはるかに権限がない現状です。

まとめると、私は東北大学スキー部、その中でもクロカン選手を強くするため、また全員が競技に対して真剣に取り組もうという意識に変わり、努力を継続するチームになるため、自分ができる役割を模索していきたいと思っています。

次にランナーの現状についてです。部員は、4年生3人、3年生1人、2年生1人となっており、メインに活動しているのは2、3年生の2人であるため、コンバインドと合同で練習しています。OB OGの方々からすると、こんなにも人数が少ないのは考えられないと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。我々もこの状況への危機感が大きいにあり、現在は新歓活動を熱心に行っており、ランナー志望の1年生が増えていくと感じております。このSPURが発行される頃にはランナーがより賑やかな部門になっていることを願います。

そんなランナーの目標は、男子は九大戦リレー優勝、インカレリレー入賞、女子は私の目標になってしまいますが、九大戦優勝、インカレ2種目6位以内、そしてリレーが組めたら九大戦優勝です。

今後とも目標に向かって努力を継続して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

コンバインドチーフとして

コンバインドチーフ 尾碕 明

今年度のコンバインドチーフを務めさせていただきました。尾碕明と申します。至らぬ点も多いとは存じますが、一年間何卒よろしくお願ひ致します。

コンバインドチームとしては、「考えて練習をする」ことを大切にしていくな所存です。これまで、下手ながらにコンバインド競技に向き合っていく中で、「なぜするのか」がわからないままの練習が、無意味とまでは言わないものの大変効率の悪いものであることは確かでした。提示された練習メニューをただ漫然とこなすのではなく、チーム一人一人が練習の趣旨を解釈し、意思を持って取り組んでほしいと思います。「この課題解決のためにこの練習をする」といったことはもちろんですが、「疲労度を考えたと怪我をしそうだから次の一本は休む」といったことも立派な意思だと思います。しかしそこで、「疲れたのだからしょうがない」ではなく「一本多く飛べないほど疲労が溜まっていったのは何故が原因か」というように、個々が自発的に次の課題解決のために考え、アクションを起こせるようなチームを目指します。そのためには、各選手が競技に対する正確な知識を、現状よりも遥かに多く身につける必要があると感じます。チーフの私と致しましても、競技についての勉強とともに、後輩への情報提供にも努めて参ります。

また、現在の東北大学コンバインドチームは、他大学と比較すると人数に恵まれており賑やかな練習になることが多いです。明るいチームの雰囲気、練習への意欲につながることは大変良いことだと思います。しかし、一方でチームメイト同士の馴れ合いほどもつたいないものはないとも思います。特に同期が多い現二年生には、互いに指摘し、切磋琢磨しあえる関係性になってほしいと思います。これは信頼関係なしでは出来上がらない関係性であることは確かですので、チームの雰囲気作りに尽力致します。

ここまで、大変偉そうなことを申し上げてしまいましたが、私自身チームや周りの方々のサポートに助けられている部分が大きいと日々実感しております。スキーという競技は多くの方々との協力の上に初めて成立する競技であることを肝に銘じ、これからも精進して参ります。

また、昨年度もOB・OGの皆様をはじめとして大変多くのご支援を頂きましたこと、深く感謝致します。今年度もコンバインドチーム一同頑張つて参りますので、変わらぬ応援のほどよろしくお願ひ致します。

片手剣

阿部拓人

初めまして、薬学部1年の阿部拓人です。出身は北海道です。高校では帰宅部でした。突然ですが、皆様はモンハンというゲームをやったことがありますでしょうか。僕はモンハンでは片手剣をよく使うので、ここで片手剣の布教をしていきたいと思います。

片手剣の強いところは、高い機動力と手数が多さです。片手剣は全武器種の中で最も移動速度が速く、抜刀状態でも納刀状態とあまり変わらない速度で移動することができます。また、片手剣は攻撃モーションが小さく、後隙も少ないので、少しの間でもたくさん殴ることが出来ます。そのため、属性武器や状態異常武器との相性がとても良いです。また、片手剣のみ、抜刀中にアイテムを使用することが出来ます。そのため、戦闘中に閃光弾や音爆弾でモンスターを拘束したり、味方がダメージを負った時に、すぐに粉塵を使って味方の回復をすることができます。また、片手剣はガードをすることも出来ます。ランスやガンランスなどの他のガードができる武器よりもガードの性能が低いので、攻撃をガードするとダメージを受けてしまいますが、咆吼や振動などのダメージの無い攻撃は普通にガードできるので、咆吼回避が苦手な人は活用すると良いでしょう。

ここからは、片手剣のコンボについて書いていきたいと思います。片手剣にはマルチで使ってはいけないコンボが二つあります。それはタテコンとシルバです。この二つは、味方に当たると味方を吹っ

飛ばしてしまうので、マルチでは使わないようにしましょう。タテコンはX↓X↓X、シルバはスライドパッドで方向入力しながらA↓Aで出ます。次に実戦で使えるコンボについて書いていきます。

R+X↓X↓X↓A↓Aです。これが基本的なコンボです。隙が小さい場合には、R+X↓X↓X↓Xでコンボを止めましょう。モンスターを拘束している場合には、R+X↓X↓X↓A↓A↓A↓A↓下入力+A長押しで溜め切りまでコンボをつなげると良いと思います。

ここまで片手剣について書いてきましたが、これはモンハンXX以前のシリーズの話であり、ワールド以降のシリーズでは仕様が変わっているので気を付けましょう。

僕の青春

今井敬裕

はじめまして！兵庫県神戸市出身、経済学部の今井敬裕(いまいたかひろ)です。バリバリの関西人です。十九歳です。「なんで関西からはるばるきとんねん！」というツッコミは東北では聞けなさそうですが、紆余曲折の末一浪して東北大学経済学部に入学しました。今回は僕自身のことについてサラッと書いていきたいと思えます。僕は小、中と野球、高校はバドミントンをやりました。野球は首の皮一枚スタメンって感じで、バドミントンはチーム内番手は上位番手の下位って感じでした。大学にきてから「遊んでそう」とか「ふざけてる」とかよく言われるのですが、こう見えても中学の時は生徒会副会長だったとか、高校時代も副キャプテン務めてたとか、彼女も一

人しかいたことないとか、意外と真面目エピソードが多いのが僕です。上にもある通り、なんの役職に就かせても大体「副」の一字が僕にはついてまわるし、運動させてもメチャクチャできないわけではないけど飛び抜けてできることはないっていう感じで、何をさせても中途半端なのが僕なのです。さて、そんな僕がなぜ大学に入ってもスキーを始めたかを書いていこうとすると、高校時代の話に遡ることになります。僕が高校生の時からずっと思っていることは、「同時に三つのことを頑張っている状態が人生一番充実するのではないか」ということです。高校時代の三つは、バドミントン、周回走、勉強です。周回走ってなんやねんって感じだと思えますが、周回走というのは、私の出身校である長田高校が誇る伝統カリキュラムであり、「毎日体育の授業時に約二・五キロを全速力で駆け抜ける」というものです。周回走では、一位の人が襷をかけて走ります。全員のペースメーカーとして働くのです。僕は当時、バドミントン部に好きな子がいました。その子に少しでもカッコいい姿を見せたいという思いから、毎日誰よりも早く走ることを目指しひたすら走り込みをして、バドミントンも夜遅くまでひたすらに練習しました。最初はこんな不純な動機から頑張りはじめた二つでしたが、次第にこの二つを頑張ること自体に楽しさを見出すようになり、この二つを通して出会った友人や仲間、作り上げた記録、かけた襷、全てが僕の青春のページに刻まれていきます。頑張っている時に訪れる、手に汗握り鳥肌が立つあの感覚をもう一度味わいたくて、その打ち込む対象として僕はスキーを選んだのです。この競技が僕にとって、青春の一

粒の種になってくれるかどうかは分かりませんが、全力で頑張りたいたいと思います。

自己紹介

小川史温

初めまして。スキー部に入部しました。小川史温（おがわ しおん）です。学科は工学部材料科学総合学科です。生年月日は2004年の一月十日です。出身高校は埼玉の熊谷高校です。最高気温ランキングで浜松市と同率で1位の場所といえば、聞いたことを思い出すかもしれません。生まれは熊谷の隣の深谷です。少し前に話題になった大河ドラマの『青天を衝け』の主人公である渋沢栄一を生んだ場所です。ご存知の方も多いでしょうが『資本主義の父』と称されたりするほどの人物だそうです。予約が必要ですが渋沢栄一記念館があるのも、もし訪れたら行ってみてください。自分の知識はだいたいがゲームと漫画で仕入れたといっても過言でなくゲームと漫画には時間をかけました。自分の趣味の一つに漫画があります。両親が漫画を結構買う家庭だったので、小、中学校の暇などによく読んでいました。特によく読んだものとしては『ダイの大冒険』や『ロトの紋章』や『刀牙』、『ドラゴンボール』、『嘘喰い』、『ワンピース』、『M』、『R』、『Mr』、『chen』、『Awakens』、『Romance』などいろいろあります。どれも名作ですが、ダイの大冒険はアニメがリメイクされているのでそれを見てもいいかもしれません。自分のもう一つの趣味はゲームです。記憶にある一番最初にやったゲーム

は幼稚園児の時に買ってもらった『New スーパーマリオブラザーズ Wii』です。スーパーマリオシリーズで三番目の売り上げを誇っています。ちなみに一位は1985年発売の『スーパーマリオブラザーズ』です。次にやりこんだゲームは『ポケットモンスターエメラルド』です。自分は初期のDSでプレイしたのですが、これはカードリッジ装着できる今のイメージとは少し変わったDSでした。小学校高学年になるといわゆるFPS (First Person Shooter) というジャンルにはまりました。この時はライト層向けのFPSが流行っており、BFシリーズとCODシリーズが二大巨頭でした。前者を家に帰ったらずっとやっていました。中学、高校時代もFPSにはまっており『レインボーシックスシージ』というゲームを友達と永遠にしていました。通算プレイ時間が見れるのですが1406時間でした。自分の受験勉強の時間の約半分も費やしていました。

ほぼ名作漫画、ゲーム紹介になっていましたがどれも面白いので購入してはいかがでしょう。

自己紹介

嘉齊琉聖

はじめまして、工学部電気情報理工学科一年の嘉齊琉聖です。名前はかさいりゅうせいとよみます。ちなみに、この漢字でかさいと読む苗字を持つのは日本で唯一僕の家族だけです。

そんなことは置いといて早速自己紹介を始めたいと思います。出

身は福島県の須賀川市というところで、生まれも育ちも須賀川市でした。誕生日は11月2日、血液型はA型、星座はさそり座です。身長は169.5cm、体重は60kg、視力はかなり悪くコンタクトをつけてます。母、父、姉、弟、弟の6人家族です。小さいころは田舎の中の田舎のほうに住んでいたのも、虫取りやザリガニ釣りが好きだった気がします。幼稚園は須賀川幼稚園でした。寺のすぐ横にある幼稚園だったのでめっちゃお祈りしてた気がします。

小学校は三年生まで阿武隈小学校、四年生になって引越して須賀川市立第二小学校に転校しました。DSを買ってもらってイナズマイレブンとモンハンにはまっていたので、ポケモンと妖怪ウォッチを全然知らずに生きてきました。Switch買ったらやりたいです。小学校からサッカーを始めました。最初は喜んでスクールに通っていましたが、高学年になるにつれて友達と遊ぶほうが楽しくなっていました、ここで練習をサボることを覚えます。

中学校は須賀川市立第二中学校でした。部活はサッカー部でした。練習はかなりきつくて走るのが嫌いになりました。でも、なぜか引退した後にサッカー部の友達数人と特設駅伝部に入りました。三年生最後の文化祭ではサッカー部の友達と劇をやりました。内容はかなりバカっぽいのですが結構盛り上がっていたので良かったです。僕の中学校は伝統的に合唱が強く、合唱コンクールはハイレベルでした。そこで金賞をとってみんなで喜んだのはいい思い出です。あと保健委員会の委員長をやっていました。

高校は安積黎明高校です。なんと入試で主席をとってしまい新人

生代表挨拶をしました。本当にびっくりしました。部活は弓道部と迷って結局サッカー部に入りました。僕の高校では3年に一回文化祭があり、僕が一年生の時に文化祭がありました。夏休みから準備を始めてめちゃくちゃ楽しかったです。しかし、公開文化祭の日になんとサッカーの一年生大会が入ってしまいました。文化祭でみんな盛り上がっている中、サッカー部だけが途中で学校を抜けて、自転車で大会の会場に重い足取りで向かったことは一生忘れないでしょう。そしてコロナウイルスの到来があり、インターハイがなくなったり、合唱コンクールがなくなったりしてどこかに遊びに行くこともできず、過ごしていました。しかし、学年の意向として何とか修学旅行だけはやろうとのことだったのでなんとか修学旅行に行くことができました。修学旅行は本当に楽しく、たくさんの思い出ができました。そして部活を引退後、受験勉強を始めてAO三期に落ちたものの一般で合格することができ、今に至ります。

仙台一高

加藤杏菜

こんにちは。工学部材料科学総合学科一年の加藤杏菜です。出身は地元仙台で富沢に住んでいます。みんな東西線沿いに住んでいるのが最近の悩みです。ここでは私の母校、仙台一高について紹介しようと思います。大学に入ってまでなぜ高校語りをしているん

だと自分でも思いますが一高愛が勝っているのでご容赦ください。ほんとは何個も紹介したいですが二つだけにしておきます。もっと知りたい人はいつでも大歓迎なのでぜひ聞いてください。

其の壱、ぶっとんでる。何がどうぶっとんでいるのかという何とも言い難いですね。入学早々理不尽に怒られながら応援歌を刷り込まれ(よくある話です)その後、裸足にヘツキヤをつけて校庭で全身全霊をかけて闘う運動祭(騎馬戦や棒倒し、奇妙なバトンを使ったリレー他)を経て、某川向かいの高校「にこを(仙台二高)」と野球の定期戦でこれでもかというほどヤジリ合い声がかかるまで騒ぎ、壱高祭では水泳部のWater Boys & Girlsや夜祭、各ブースで盛り上がり三日間の来場者数は八千を超えるほどです。もちろん行事だけではなく日常生活にも一高特有のものが垣間見られます。校内は土足で、休み時間にコンビニ行ってなんなら仙台駅行って昼飯買って食べることができ、正月三が日も学校が開いていて、学校敷地内に準公道が通っているので誰でも入れて、土手の桜がとつてもきれいです。一言で言えばcrazyな学校ですね。

其の弐、「にこを」を敵対視。定期戦の相手「にこを」とは切っても切れない縁があり、会うたびに罵り嘲り貶しています。今年から再び一高二高定期戦が一般客来場可能になったので行きましよう。言葉では到底伝えきれないので体感してほしいです。こんな一高と「にこを」ですが本当はお互い大好きでめちゃめちゃ仲良しなので安心してください。ここスキー部にも「にこを」の卒業生がいるので仲良くしたいなと思っています。時折騒いでいたらすみませ

ん。

最後に簡単な自己紹介をします。中高と陸上競技部で短距離をやっていた。特に高校時代は400m 専門で部活に捧げていたのですね。それなりのフィジカルはあります。人と喋るのが好きなので暇があれば誰かと話したいです。弱虫ペダルが好きです。ロードレース見るのも好きです。スキーに関しては基礎スキーを四歳からやっています。したがって競技経験は全くないので今から楽しみます。人一倍負けず嫌いなので勝負事は何でも負けたくないって思っています。これからよろしく願います。

かっけー字

齋藤瑛斗

はじめましてこんにちは。今年からスキー部に入部しました、理学部物理系1年の齋藤瑛斗(さいとうえいと)です。出身は東京ですが、その前は中国に住んでいたためB区もまだ言えぬまま仙台に引っ越してしまいました。最近はお口笛を吹くのにハマっています。一人暮らしだと怒られることがなくていいですね。

さて、皆さん受験期はちゃんと勉強していましたか？私の高校のクラスにはサボり癖のある人が多く、彼らは受験勉強から逃げるために全力を尽くしていました。小休憩と言ってはゲームに興じ、受験期は様々なゲームが開拓されました。中でも「机でサッカー」は名作で、スキー部でも流行らせたいと思います。一人が持ってきたのに起因して、夏からはけん玉が流行しました。夏の終わりには皆マ

イけん玉を持ち始め、勿論私も持っていました。そんなサボりの一環で私は、受験が終わったらやりたい事を妄想してはメモを取っていました。スカイダイビングしたい、ピッキングできるようにしたい、絵本作家になりたい、アマチュア無線やりたいなど突拍子もないものだらけで、受験が終わった今も殆どまだできていません。そんな中ここ最近やりたかったことのうちのひとつ、かっけー文字を書く事に凝っているその話をしたいと思います。

かっけー文字を書きたい、そう思うようになったのはテレビで中核派のニュースを見たのがきっかけでした。白のヘルメットに塗りつぶして中核の文字、ポップな書体の中に力強さがあり、自分もこんな字を書きたい！そう強く思いました。そして最近その気持ち思い出し、密にかっけー文字を書く練習をしています。所謂ゲバ字を参考にして我流で書いているのですが、あいうえお表を作りそれに倣って練習しています。他にも漢字以外は小さく書く事、漢字の下の方を大きく書く事や、角張った字体と丸い字体を使い分ける事に気を付けています。練習もかねて普段からこの字体で書くようにしているのですが不慣れで時間がかかり、テストが終わらないという実害を引き起こしています。今後は慣れるまでテストで使わないようにしたいと思います。他の書体でも書けるようになりたいので、自分の字に自信がある人は是非レクチャーしてください！

最後になりますが私はスキーの経験があまりなく、体力も全くないので、コン練をして見返してやろうと企んでいます。今後ともどうぞよろしく願います。

自己紹介

澤田真拓

はじめまして、工学部材料科学総合学科一年の澤田真拓です。マヒロと読みます。青森県の弘前高校からやってきました。スポーツは五、六歳の頃から高校一年生までアルペン、小学一年生から四年生までマラソン、小学五年生から中学三年生まで軟式野球、高校一年生から三年生まで硬式テニスといろいろやってきました。アルペンを一番長くやってきましたが、部活としてアルペンをやってきました。ことはないのですが、オフシーズンもスキー部の皆さんと練習できることがうれしいです。また、オフシーズンにスキーに関する練習をしたこともあまりないので、オフシーズンの間に右足の弱さなどの自分の課題を解決し、少しでもスキー部に貢献できたらと思います。今年はいよいよ唯人さんに勝つことを目標に頑張ります。

・高長根スキー場

初めて行ったスキー場です。保育園のスキー学習で訪れる内にスキーをやりたくなり、このスキー場で競技としてのスキーを始めました。このスキー場は弘前市民の小学生はリフト代が無料だったので、非常に助かりました。また、一般客が少なく、ほとんど貸切状態だったため、集中して練習することができました。もうなくなってしまうスキー場ですが、自分の基礎を作ってくれたホームグラウンドといえるようなスキー場でした。

・そうまロマンピアスキー場

小学校の授業でお世話になったスキー場です。私が通っていた小学校では、スキー学習をこのスキー場で行っていました。無料でリフトに乗せてもらい、記録会の時はポールを張ってくれました。コースが短くSLの練習しかできない点と、地元の小学生が常に混んでいる点が不満ですが、ほかのスキー場よりご飯が安い点では満足です。

・岩木山百沢スキー場

コースは長いですが、ナイターで第二リフトを使えないのが不満です。ナイターの時も第二リフトを使えるようにすれば、急斜面でのポール練習をすることができるとし、一般客も少しは増えると思います。食堂はいろいろなメニューがあっただけです。

・青森スプリング・スキーリゾート

経営者が変わってからアルペンが練習できる環境がなくなり、リフト代も高いです。春スキー以外で行くことはないです。

・秋田八幡平スキー場

冬休みの合宿で小学五年生くらいの頃から毎年行っていました。寒いし、天気悪すぎです。春スキーするなら良いスキー場です。リフトでストックを折ったことが懐かしいです。

自己紹介

塩倉颯瀬

はじめまして、工学部一年の塩倉颯瀬(しおくらはやせ)です。初回なのでとりあえず自己紹介をしたいと思います。出身は岩手県久

慈市。総合格闘家の扇久保博正の出身地、あまちゃんのロケ地として知っている方もいるかもしれません。ただ、ここでは久慈市が日本最大の産出量を誇る琥珀（こはく）について少し触れたいと思います。琥珀とはおよそ数千万年〜数億年前、恐竜が生きていた時代に存在した樹木の樹脂が固まり化石となったものです。琥珀のなかに昆虫が入ったまま固まったものもあります。近年はこの昆虫のDNAを取り出す研究が進むなど生物学における重要な資料として活躍しています。岩手県久慈市に訪れた際にはぜひ琥珀を見に行ってみてください。

ここからは自分の趣味であるカラオケについて書いていきたいと思います。皆さんは1人カラオケ（ヒトカラ）は好きですか？気楽に自分の好きな曲が歌える、自由度は高い。そんなヒトカラが好きな人もいるのではないのでしょうか。しかしながら、結論から申し上げますと私はヒトカラの魅力を感じることがありません。カラオケは少なくとも2人以上でないと楽しめないと考えています。それはなぜでしょうか。この2つの違いは根本的なカラオケに行く理由の違いによるものだと思います。私がカラオケに行くのは「うまくならない」「楽しみたい」という気持ちが強いためです。うまくならないという目的を含む場合、「1人で歌いまくったほうがいいじゃん」と思うかもしれませんが、これが落とし穴です。ヒトカラでは自分の歌を評価するのは機械だけだからです。カラオケに複数人でいったときには、周りの反応からどの歌い方が心に響きやすいのかを学ぶことができます。自分にとってうまいとは点数を取ることではな

く、人の心に響くかどうかなんです。たまにYouTubeでプロの歌手が自分で作曲した歌を歌ってカラオケ採点をしているのを見ますが、なぜ98とか99点とか取れないのかなと思ってしまいます。やはり機械でうまさは、はかれないのでしょうか。

最後にスポーツの経験についても紹介していこうと思います。小学校の頃サッカーとアルペンスキーをやっていて、中学と高校ではサッカーを続けていましたが、スキーは趣味でやるぐらいでした。アルペンスキーはブランドが長いので心配なこともあります。今よりも速く滑れるようにトレーニングを頑張りたいと思います。

梨

初めまして、其田啓太郎です。そのだと読みます。よろしくお願ひします。 其田啓太郎

私は千葉県市の市川市出身です。東京ディズニーランドがある浦安市の北にあり、東京都江戸川区の東です。

自己紹介として、私の好きな食べ物について話そうと思います。私は真夏に、梨畑に囲まれた助産院で生まれました。そのせいか、私は梨が大好きです。梨のシーズンになると、学校に行く前に毎朝梨を食べていました。

千葉県は梨の名産地だということを知っていましたか？収穫量は千葉県が全国ナンバーワンです。

中学校の時、梨をもっと食べたくて、梨が半分以上を占め、残り

は米とふりかけで構成された弁当を母に頼みました。作ってくれたので、とても喜びました。残念ながら、この弁当は身体的に辛くて、次の日からいつもの弁当に戻ってしまいました。しかし、良い経験になったと思います。

千葉の梨は日本の中で一番だと自負していますが、私は県の中でも市川市の梨は特別だという思いがあります。

これはおそらく私が市川市出身で、市川市の梨に慣れ親しんできたからです。

市川市には大町梨街道と呼ばれる通りがあり、道沿いに梨の直売所が約五十軒並んでいます。小学生の時、大町梨街道で梨狩りを楽しみました。また母はいつも大町梨街道で大量に梨を買ってきてくれました。

中学校では、部活の友達のMがいました。Mは市川市の梨農家の息子でした。ある夏休みに、Mの工場でMと共に働きました。木でできた急な階段をのぼり、工場の屋根裏の倉庫の中に入った時はとてもワクワクしました。人生初のバイトのような気分で、仕事が終わった後にはMのお母さんから大きな梨を5、6個頂きました。忘れられない思い出です。

こうして私は市川市の梨に恵まれて生きてきました。

しかし、それを愛しているからこそ生まれる問題があります。

市川市の隣に船橋市があります。あの「ふなっしー」がいるところ

です。これはおそらく市川市の最大のライバルでしょう。そのため、梨は大好きですが、ふなっしーは好きではありません。市川市の梨の生産量は船橋市の梨より多いのに、船橋市の梨が全国に広まるのがとても悔しいのです。

私が仙台に来て、出身の話をするときにふなっしーを使うことがあります。ほとんどの人が反応してくれるのですが、私はやはり市川市の梨に誇りを持っているので、複雑な気持ちです。

このように、梨に対する情熱と苦悩についてダラダラと書いてしまいました。

本当に市川市の梨はおいしいです。仙台でも市川市の梨を食べたいなと思っています。梨の季節が待ち遠しいです。シーズンになったら皆さんもぜひ食べてみてください！

チェンソーマンについて

瀧颯太

お初にお目にかかります。今年スキー部に入部した瀧と申します。生まれも育ちも神奈川県で、中高は一貫の私立浅野中学高等学校という男子校に通っていました。男子校出身なので女子相手にしゃべるときキョドったり目を逸らします(多分)が、大学では対人経験を重ね改善を図っていく所存です。

部活は中高六年間ジャグリング部でした。自分で言うのもなんですが、うちの部は中高のジャグリング部ではレベルが高く見ごたえ

のある演技も多いので、神奈川に行く機会があれば、是非浅野の文
化祭に行ってみてください。損はさせません。

スキー歴としましては、基礎スキーが九年でSAI一級まで取得済
み、競技スキーは未経験といった感じでした。

過去のSPURを見た感じ、好きなものを紹介するようなのでやっ
ていきます。チェンソーマンは少年ジャンプで連載されているスプ
ラッタアクション漫画で、現在第一部が終了し、今夏から第二部の
開始とアニメ化が発表されている作品です。特徴的な名前とデザイ
ンで有名ですね。あらずじは、

借金のためにデビルハンターに身を投じてきた少年デンジはある
日取り立て人のヤクザに殺されてしまう。しかし、相棒の悪魔ポチ
タが彼に自らの心臓を差し出すことでデンジは“チェンソーの悪魔”
として生き返り公安所属のデビルハンターとして悪魔と戦っていく。

というようなものです。この作品の登場人物は皆どうしようもな
く狂っており、それらと、作者である藤本タツキ先生の圧倒的な画
力と独創的なデザイン、そして慈悲のない残酷かつ美しいストーリ
ーによって他作品とは一線を画すものに昇華しています。

さらに、この作品のもう一つの魅力は、藤本タツキ先生の大道具、
小道具を用いた映画的表現です。これは例えば、悲しい出来事があ
ることを暗示する際にその場面を雨の夜の夜にするといった表現方
法を指します。(季節などは大道具、たばこの吸い殻などは小道具と
区別します)これが各所にちりばめられており、これにより明文化
されている表現とは違う味わいを感じることが出来ます。また時に

醜く見えるほどに登場人物の表情を写實的に描き、その内面を描き
出し、読了後にはよい小説を読んだような余韻が味わえます。

一部完結を記念して、現在ジャンプ+等で一巻部分を無料配信中
ですので、少しでも興味の湧いた方は是非読んでみてください。

自己紹介含めその他色々

谷祥太郎

初めまして。工学部電気情報理工学科の一年谷祥太郎です。苗
字は谷、名前は祥太郎です。最近フランス語の授業で同じ先生に二
回も間違えられたので一応言っておきます。出身は、神奈川県横浜
市で、自己紹介の時に、「出身は横浜です。」と言うと、「横浜アピー
ルうざい。」と言われ、「出身は神奈川県です。」と言うと、「横浜のく
せにわざわざ神奈川県って言う所が逆にうざい。」と言われ、どちら
にせようざいと言われるので、いつも腹を立てています。中学校の
時の部活はバドミントン部で、高校の時は空手道部でした。なぜ大
学で空手を続けないのかとよく聞かれますが、単純に大学の空手、
特に組手が怖いからです。

自己紹介はここまでにして、ここからは僕の恋愛観について話し
たいと思います。皆さんご存じかと思いますが、今、僕は彼女がいま
せん。そして、とてつもなく彼女が欲しいです。なぜここまで自分が
彼女を欲しいのか自分なりに考えてみた結果、一人暮らしを始めて
二ヶ月ほど経過した現在、孤独というものを再認識したからだと思
います。家に帰っても一人、その日あったことをすぐに話せる人も

いない中、彼女がいれば、寂しいときにラインや電話をしても、会いたくなつた時に会いに行つても、咎められることはありません。恋人とは、時間的や精神的に自分の心を満たしてくれる、あるいは、自分が相手の心を満たしたいと思えるような存在だと僕は考えます。

ここで、僕のタイプについて話したいと思います。いつもタイプを聞かれる時は、好きになつた人がタイプと答えるので、明確なタイプは自分でも理解していませんが、可愛いに越したことはないです。そして、僕は、遠出やバーベキュー、食べ歩きなど比較的アクティブなことが好きなので、そういうことが好きな人だと嬉しいです。最近ではインスタで流れてくるおすすめのお歩きデートスポット五選などを見て、色々としミュレーションしています。また、テレビゲームや漫画、アニメも好きなので、インドアな人だからといって無理ということは全くありません。一番好きな漫画は、東京喰種で、ラインのアイコンなども東京喰種のキャラです。彼女との理想の関係は、素直に何でも言い合える関係です。理想論と言われるかもしれませんが、要はこのぐらい親しくなりたいということです。

ここまで、自己紹介や自分のタイプについて色々話してきましたが、こんな僕に少しでも興味があるという女性の方はいつでも大歓迎です。

地元の話

根本京次郎

はじめまして。スキー部1年の根本京次郎です。スキー部に所属し

ていますがスキーは初心者でスキーに関するエピソードがあまりないので地元である福島県須賀川市について少し語りたいたいと思います。須賀川市で有名な物といえばウルトラマンや牡丹ですがそんなことは周知の事実なので今回は須賀川の知る人ぞ知る祭り、あじさい祭りを紹介したいと思います。あじさい祭りは毎年7月第二日曜日に開催されます。梅雨の時期に開催され、参道には約6000株の色とりどりのあじさいが咲き誇る地元民に愛されている祭りです。

あじさい祭りといえば近くの小学校で配布されるかき氷無料券が有名です。近くの小学校でかき氷無料券が全校生徒に配られるのですが、喜々として長蛇のかき氷の列に並ぶ低学年の子、行列に並んでまで無料のかき氷を食べるものかとかき氷を馬鹿にする中学年、そんな使われない無料券を集め、転売ヤーのごとく祭りを支配する上級生の姿は今でも忘れることができません。祭りという屋台がつきものですがあじさい祭りで特に印象に残っている屋台はピンボールと型抜きです。豪華賞品が景品に並ぶピンボールでは玉がはじき出されると屋台のおばあさんが「入れ！入れ！」とかけ声をかけてくれてとても元気が出ます。そして日が暮れて食べ物の屋台が閉じ始める頃に一つだけ明かりのともる屋台があります。それが型抜き屋台です。型をきれいに抜くことができれば難易度に応じた景品がもらえるといった屋台で、この屋台の存在を知るわずかな人だけが唯一明かりのともるこの屋台に集い、他愛のない話をしながら型抜きに励みます。このときの独特の雰囲気は何事にも代えがたいものがあります。梅雨の時期になると思い出してしまふ、僕にとつて

はそんな須賀川の祭りでした。さて、須賀川の祭りは他に、きゅうりを2本お供えして1本の須賀川産のきゅうりをもらうきゅうり天王祭、福島県最大級の花火大会、日本三大火祭りの一つ松明あかしなどがあります。これらの祭りはまた別の機会に紹介するとして須賀川に来るならこの3つの祭りのどれかに来るのがおすすめです。しかしそんな祭りも去年は全て中止になってしまいました。はやくこのウイルスが落ち着いて普通の生活を送りたいですね。それでも須賀川市は良いところで、そこで過ごすことができよかったですと感じています。地元の話しかしていませんがこれで部員文を締めたいと思います。

私の甘党生活

花田彩未

初めまして、今年入部した工学部材料科学総合学科一年の花田彩未です。出身は三重県で、遠隔地からはるばる東北まで来た同郷の人がなかなか周りにいないことが最近の悩みです。中学の時は、吹奏楽部で打楽器を演奏していました。小さいころからピアノをやってきたこともあって音楽全般かなり大好きです。また、高校に入ってから男子バスケット部のマネージャーになりました。運動は全くできなかつた自分がまさか運動部に入るとは思ってもいませんでしたが無事三年間続けることができ、なんと、スポーツは違えど大学でも、マネージャーを引き続きすることとなりました。今まで積み重ねた経験を生かせるところは生かして、初めてのことに精力的に

取り組んでいくことが私の今後の目標です。

軽く私の遍歴を述べさせていたただいたところで、私の甘党生活について話させていただけようとおもいます。私は大学生になって三重県から引越して、自由に食べ物を買うことができるようになった途端に、大学生協からコンビニまであらゆる甘いものに手を出すようになったしまいました。気づけば、毎月の食費の半分を甘いものが占めていたり、体重が春から5kgも増量してたりと、デメリツトばかりが目立つようになってきてしまいました。しかし、そのうえで私なりに色々食べ比べをしてみてもあったもの、つまりクリームたい焼きについて語りたいと思います。クリームたい焼きとは、普通たい焼きのあんこが入っているところに、カスタードやチョコ、抹茶など甘くておいしいクリームを入れて、冷やして作ったたい焼きのことです。カスタードが入ったものは様々なコンビニに売っていますし、最近では、抹茶味も期間限定で出しているところが多いです。場所によっては、チョコやイチゴ、さらに仙台にちなんでずんだ味のたい焼きを出しているところもあります。クリームたい焼きの一番の高評価ポイントは、どの味もはずれが少ないということです。たい焼きはあんこを包んだそもそも甘い食べ物ですが、皮自体はちゃんと味と触感などもありつつ、他の甘みの邪魔もしない、ちょうどいい上品な甘さを持っています。なので、チョコ系はもちろん、イチゴなどの果実系とも喧嘩することなく、一つのスイーツとして成立しやすいです。また、たい焼きには、たい焼き特有の絶妙なもちもち感、そして何より鯛の姿かたちがあり、だれの目から

見てもたい焼きだとわかることも、スイーツ飽和社会の今この時でも市場を勝ち抜く大きな理由になるのではないかと考えています。しかし、最近では、とりあえず鯛の形をしていれたいやきだろう、という安直な思考で作られたとさえ感じる負えないほど、たい焼きの生地感が変えられたものも存在します。それはそれでおいしいのですが、クリームたい焼きは、少し香ばしい、もちもちなたい焼き生地があつてこそで、生地を、もはやもちのようにまでしてしまつては、果たしてクリームたい焼きといえるのか私にも判断がつきません。現在、あらゆるコンビニやスーパーでクリームたい焼きが売られているので、ぜひ自分好みの味、そしてたい焼き生地を探してみたいです。

自分について

増田優津樹

初めまして、工学部機械知能・航空工学科一年一組の増田優津樹です。入学当初はきちんと覚えていなかったこの長い漢字の羅列も今では気に入っています。とりあえず自己紹介をしようと思います。出身は埼玉県のさいたま市です。学校法人佐藤栄学園栄東高校というところに所属していました。小学校から私立で高校まで上がってきたので大学受験は小学校受験ぶりでした。東北大学以外の場所では大宮に住んでいると言ってもわからないと言われますが、ここではある程度通じるのでうれいす。バスケットを七年くらい不真面目にやっていました、全く上達しませんでした。体力も筋力も

ないです。大学では自称文化部で通していこうと思っています。これが理由で特技といえるものがないことが若干のコンプレックスです。スポーツは凡そ好きですが、上手いかといえば話は別です。昔は読書が大好きでした。小学生のころに村上春樹にはまっていたことは密かな自慢です。ちなみに星新一が一番好きでした。これらは高学年の頃に読んだもので、低学年のころにはモーリス・ルブランの「ルパン」シリーズにはまっていました。あとハリーポッターも読みました。今では読書以外の娯楽を知ってしまい、滅多に読書することは無くなってしまいました。思い出すとあの頃の楽しさは失われてしまったと悲しくなります。私は一般に性格が悪いといわれることが多いですが、自分では優しい人間だと思っています。人見知りをするタイプで、友達を作ろうとしなかったため、大学では友達が少ないです。高校からの同期がいてよかったです。昔から親友というものにあこがれており、探してはいないけれど求めています。忘れていましたが、私はアニメが好きです。深夜帯のアニメは毎シーズン見ますし、受験前はジャンプのアニメなども見ていました。受験後に「ゆる言語学ラジオ」というYoutuberにはまり、言語学が少し好きになりました。良く見聞きしている人がいたらぜひとも声をかけてほしいです。受験とコロナのせいでまともな高校生活が送れなかったもので、大学でその分を取り返そうといろいろなことに手を出そうとしています。時間的にきつそうなので妥協しました。スキー部に入ったのもその一環です。一つのスポーツを全力でやってみたいと思っています。自分の欠点として、自転車に乗

れないということがあげられます。小学校からバス通学だったので乗れないのも無理はないと思いませんか？いつか練習してすぐに乗れるようになるだろうと期待しています。課題さえきちんとやっていたら今のところ最高の大学生活です。

故郷の紹介

宮崎真瑛

この度スキー部に入部しました理学部数学科一年の宮崎真瑛(みやざきまさえ)です。中・高では科学部に所属していたので運動部は人生で初めてです。出身は埼玉県の春日部市です。

春日部という名は「クレヨンしんちゃん」という作品の舞台であるということでも知っている方もいらっしゃると思います。これからそんな春日部市の紹介をしていきたいと思えます。日光街道・奥州街道上に位置し、人口は約25万人で仙台市太白区の人口と同程度らしいです。春日部市には4級グルメとして「春日部焼きそば」があり、市内の各飲食店で特徴が異なるが、シソふりかけが餡かけ焼きそばに振りかけられています。私自身、学校給食として食べたことがあり、他では中々味わえない味です。シソふりかけは春日部市の花である藤の花をイメージしているようです。駅前には藤棚が歩道に設置された大通りがあり、毎年花が咲く時期になると市民で賑わいます。さて、藤の花といえば皆さんはどこをイメージするでしょうか。栃木県の「あしかがフラワーパーク」など全国に名所があると思います。春日部には牛島という市街地から少し離れた場所に「藤花園」という

国の特別天然記念物に指定されている藤がある花園があり、評判が良いそうです。最寄りの東武アーバンパークライン(東武野田線)「藤の牛島駅」から徒歩10分でアクセス良好なので皆さんも近くに来た時には是非訪れてみてください。こんなことを言いつつ私は「あしかがフラワーパーク」には行ったことあるのですが、まだ藤花園を訪れたことがないのでいつか訪れてみたいです。

春日部は「大風あげ祭り」でも毎年盛り上がります。毎年5月3日と5月5日の2回中に行われ、市東部の庄和という地区の江戸川河川敷で揚げられます。江戸時代に始まり、国の選択無形民俗文化財に指定されているそうで、毎年約10万人が訪れているそうです。上若組と下若組に分かれて大風をそれぞれ揚げ、今年は「春日部」と「躍進」で「新型コロナウイルス感染症が終息して、春日部が発展してほしい」という思いが込められているそうです。私自身も以前見に行ったことがあり、大風の大きさに驚いたことを今でも覚えています。最後に、埼玉県には何にもないと思われがち(๑)ですが探してみると多くの魅力があります。皆さんも是非埼玉に遊びに来てください。拙い文章ですみませんでした。これからよろしく願います

スキー7年目の挑戦

吉田溪人

初めまして！この度スキー部に入部しました医学部保健学科の吉田溪人です。小中とクロスカントリースキーを競技としてやっており、中学では個人で全国大会出場もしています。出身は秋田県大館

市です。大館市と言われてもピンとくる人は多分ないので軽く説明しようと思います。地元大館市は秋田県の北東部に位置する地域です。この前サイゼリヤが地元じゃないと言ったら驚かれました。なんと実家からインカレの会場の花輪スキー場まで車で30分です。ここで僕のスキーに対する思いを述べたいと思います。

僕は小学校四年生からスキーを始め、最初は体力作り感覚で始めたのですが周りの友達がクラブチームに入るということで自分も入ってみました。最初はきつくて練習するのが嫌になることもありましたが、僕はあることに気づいてしまいました。「リレーは気持ちいい」と。あの大応援を背に滑るのが楽しいと感じてしまったのです。

その時から「リレーの男」になるために練習をまじめにやるようになります。そのせいか個人の成績より圧倒的にリレーの成績のほうが優秀なのです。中学ではリレーで東北大会で入賞することを目標に滑り続けました。その結果2年の時に東北大会5位入賞をすることができました。僕は個人のレースよりタイムが1分縮まりました。このくらい僕はリレーに対する思いが強いのです。小中で一緒にチームを組んでいた友達3人ですが2人は陸上を頑張っており、もう1人は富山大学でスキー部に入部しています（この人とはインカレで勝負すると決めています）。そして大学でスキーをやるのが地元のスキー界隈に広まり、盛り上がっているらしいです（笑）。確かに同年代でスキーをやっているのが自分と1人の友人のみになってしまったので盛り上がるのもわかる気がします。この盛り上がりに恥じないように今季の目標を定めたいと思います。

まず、仲間を大切にしておいてスキーを精一杯楽しむことです。同期のメンバーと引退まで誰一人欠けることなく苦楽を共にして頑張りたいと思います。次に、ケガ無くシーズンを滑りきることでです。ケガをするとやりたくてもできないという辛い現実が訪れるので絶対に避けたいと思います。最後に、一年生のくせに生意気なと思われるかもしれません。すべての大会（国体を除く）で入賞することです。一筋縄ではいかないことはわかっています。しかし、一年目はこの目標に向かって足掻いていきたいと思っています。これからスキー部として頑張っていけます。よろしくお願いします。

ラ・ラ・ランドが呼んでいる

渡邊梓

こんにちは。今年スキー部に入部した文学部一年の渡邊梓です。まず自己紹介を手短かにします。出身は栃木県那須塩原市です。中学は卓球部、高校は百人一首競技かるた部に所属していました。趣味はマラソン、ロードバイク、映画、釣り（これから）です。あとコブクロが私の生活上必要な存在です。嫌いな食べ物はバナナで好きな食べ物はバナナ以外です。

あと八百字を映画の話で埋めます。今回語りたいのは「ラ・ラ・ランド」についてです。私は同作を中学三年生の時に初めて見ました。それ以来、年に一度のペースで見返しています。私はあまり恋愛ものに詳しくないのですが、間違いなく言えることとして、この作品

がこの系統の中でナンバーワンです。簡単に内容を説明します。女優として売れることを夢見るミア（エマストーン）はカフェで働きながらオーディションを繰り返し受けますが日の目をあびることができません。ある日、彼女はバーでピアノを弾くセバスチャン（ライアンゴズリング）と出会います。彼はいつか自分の店を持ち、本格的なジャズを思う存分演奏したいと願っていました。はじめは互いに嫌味を言っていた二人ですが、やがて恋におち、互いの夢を応援しあいます。ミアとの生活安定のためセバスチャンは知り合いのバンドに加入し、幸運にもツアーを行うまでの人気者となりました。しかし、バンドの音楽には彼の愛するジャズの要素が微塵もありません。ある晩、ミアは忙しいセバスチャンに、今の音楽が好きなのか尋ね、そこから喧嘩に発展。「夢はどこへいったのよ？」と責め立てるミアは彼のもとを離れます。その後ミアは劇場を借りて「一人芝居」を実施しますが観客席はガラ空きでした。駆け付けたセバスチャンにミアは「終わりよ！何もかも！」と言葉を残し、故郷へと帰ってしまふのです。・・・ここからがこの作品の醍醐味ですが説明しません。特にラスト十分は心が奪われます。

本当に良い映画と出会うと、私は鑑賞後にとてつもない喪失感に襲われます。私は今まで数多くの映画を見てきましたが、この感覚を味わうことができたのは数少ないです。この映画はその中の一つです。この作品はジブリ作品と共通点があります。その一つが説明しすぎないことです。出会い、心が通う喜び、劣等感、すれ違う心情。これらを言葉で限定せず音楽で、表情で、目に見える景色で表現し

てくれるので、色々な解釈ができます。誰にでも夢があります。誰しもが恋をします。だからこそこの作品は誰をも魅了するはずですが、決して忘れられない二時間と八分を保証します。ぜひご覧ください。

欲しいもの

足立玖美佳

スキー部はお金がかかりますね。先日卓球の授業で一緒だった人が、ポルト部の部費で毎月三万とられて、部活をやめた話を聞きました。卓球部の人が、毎月五千円しかからないと言っていました。さて、スキー部員はいいいくらお金を使っているのでしょうか？

私の所属しているコンバインド部門では、サマーシーズンは平均して二週間に一度は遠征(合宿や初ジャン)に行きます。夏休みを除いたサマーシーズンはざっと二十週ほどで、各合宿に一万かかるとしたら合計十万ですね。夏と冬に長い合宿に二回ほど、冬に大会に三回ほど行きます。各行事に十万ずつかかるとしたら、合計五十万ですね。追加で部費が年三万、他に道具代がかかります。まあ毎月バイトで五万稼いでいれば賄える金額だとは思いますが、当然その他娯楽に使うお金は少なくなっていくます。そんな金欠大学生の私が、欲しいけれど必要なものではないからと購入をためらい続けているものを書き連ねていこうと思います。

小さいホットプレート

ホットプレートでおうち焼肉とかしたい。でもなんだかんだフラパンで代用できるし、そもそも置いておく場所がない…。

ブルートゥースイヤホン

有線のイヤホンを持っていたからいらなと思っていただけけど、

アマゾンで衝動買いしてしまった。家の中でスマホを持ち歩くことなくずっと音楽を聴いていられるのがとても便利。電話しながら洗濯物干せるのも便利。あとスマホをiPhoneに変えたらイヤホンジャックがなくて不便しているからブルートゥースを使いたい。愛用していたが春休みの帰省でなくしてしまった…。

キーボードスタンド、ペダル

ほのかさんからいただいたキーボードを最近使っているが、スタンドがないため机の上に置いている。スタンドとペダルを揃えてちゃんと弾きたい。

ノートパソコン用モバイルバッテリー

今持っているモバイルバッテリーはスマホとタブレットには充電できるが、電圧が足りなくてパソコンには充電できない。よくパソコンの充電を忘れたまま学校に持って行って授業開始時に残り三十%とかになっているので、リュックの中に備えておきたい。

スキーウエア

中学の時からずっと同じスキーウエアを使っていて、飽きてきたし物もボロボロになってきた。今のウエアはリフト券ホルダーが壊れてしまってポケットも一つ穴が開いている。次の冬までに新しいものが欲しい。

ストック

大学入学直前に友達と行った苗場の春スキーでストックを折ってしまい、レンタル屋さんでストックを借りた。レンタル屋さんのおじさんがもうスキーシーズン終わるから持って行っていいよとストックをくれたのでそのまま使っているが、そのストックのせいで初心者に見えると言われてしまうので新しいのを買わなくては…。

後半二つに関しては正直なところ、購入をためらうというよりは買っていくのがめんどくさいという理由で買っていないだけです。基本いつも欲しいものはネットで注文するのですが、スキー用具は自分で見て買いたいですね。先日フリーブーツを五万で買ったので、しばらくは新しいものが買えないと思います。この文章が掲載される頃にはどれか一つでも買えているといいな。

ベーカーリーは好きですか？

小澤わかば

仙台に移り住んで約一年、川内キャンパスと卸町の間を自転車で移動するようになってから、数多くのベーカーリーを訪れました。今回はその中でもぜひ皆さんにご紹介したい店舗をいくつかピックアップしたので、暇な人は読んでもらえたら嬉しいです。私のベーカーリー愛が溢れてるだけの文章なので、暇な人もさっさと呼んでくれたら嬉しいです。

○ブレドール仙台大和町店(卸町から徒歩10分)

とにかく安い。だいたい120〜150円くらいで買える。定番

メニューを多く取り揃えていて、バレンタインなどの季節限定メニューも豊富。普段から安いのに、半額セールや学生キャンペーンなどを頻繁に行っている。コンビニパンより少し高い位の値段で、ベーカーリーのパンを楽しめるのが何よりのポイント。買いすぎに注意。

○ジャンヌダルク・フィスエペール(葉師堂駅から徒歩5分)

隠れ家的なパン屋さん。絵本の中に出てくるような緑色の建物に入ると、膨大な種類のパンが並ぶ(ホームページを見たら、120種類を超えるらしい)。手の込んだラインナップが特徴的で、無花果のガトーショコラ、フロランタンバナース、ピロシキ等、他のベーカーリーには見られない種類が豊富。

○柴田パン本店(連坊駅から徒歩0分)

コッペパン専門店。おかずパンも、甘い系もたくさん。潰して焼いたパニーニも美味しい。一覧から食べたいコッペパンを選んで注文すると、目の前で作ってくれる。フワフワなパンに挟まれるのは、こだわりたっぷりの具材。コンビーフ(ポテトサラダ入り)や手作りメンチ、フルーツ生クリームなど、全種類制覇したくなる。

○和ベーカーリー&フルーツ大福 七曜星(五橋駅から徒歩3分)

2021年7月にオープンしたベーカーリー。フルーツ大福や高級生食パンが目玉商品だが、私が推したいのは「特製とろけるクリームパン」。このクリームパンは、19年間の人生で食べた中で、圧倒の1位。麦わら帽子のようなシルエットで、外側は香ばしいサク

サクのビスキュイ。中からとろとろで濃厚なカスタードクリームが溢れる。その他のパンも和テイストで美味しいのでお試しあれ。

○UP:BAKER fluff 宮町店

他の店舗と比べると比較的小規模でおしゃれなパン屋さん。数多くの種類の中で、一番の推しはメロンパン。クッキー生地がパン全体を覆っていて、星のようなかわいらしい可愛らしいシルエツト。中の生地が類を見ないくらいにフワフワで、優しい甘さが口の中に広がる。ドイツの伝統菓子クラップフェンは、あっさりとした生クリームがたっぷり入っていて、おすすめ。

とにかく、ベーカーリーって幸せな気持ちになるよねってことが言いたかったです。スキーと結びつけようと思いましたが、難しそうなので諦めます。

大学に入って、初めての運動部、初めての競技スキー、初めてのスキージャンプと、怒涛の一年でした。体力が削られてポロポロになっても、ジャンプで転んで心が折れても、楽しいと思えるから続けています。昨年設定した「自分の理想とするジャンプ・滑りを頭の中で描けるようになること」という目標は達成しました。今年度は、その理想に近づいていく一年にしたいです。今後も応援よろしくお願いします。

個人的な目標

郭啓悦

とうとうスキー部に入学してから一年が過ぎました。先のシーズンは僕が初めてスキーに多くの時間を割いたシーズンでありました。とても楽しいシーズンであったとともに、自分の技術を大きく向上させることができたシーズンだったのでとても満足しています。スキー部のブログのほうでも来シーズンの目標を書きましたが、ここでは簡単に個人的かつ私的な目標を述べたいと思います。

その目標とは、車の免許を取ってレンタカーなどを借りて旅をすることです。そもそも僕はまだ車の免許を取得しておりません（これを書いている段階では）。免許を取るつもりはありません。「お前遅いよ」という方もいらっしゃると思いますが、去年の三月あたりから自動車の免許を取ろうとするのは二年のこの時期にしようと考えていたことなので、僕自身あまり気にしていません。（新歓で月山に行ったときは免許早めにとっても良かったかなーとは思いました）免許を取って一年もたわずに自分で車を使って旅に出ることは恐怖ではありませんが、友達にもそういう人がいるので恐怖ではなくなりました！あ、その友達とは東北大学の人ではありません。夏休みに実家に帰るまでには免許を取得し、実家の車を運転させてもらって猛練習するというのが今のところの予定です。行きたいところなどは大体決まっています。とにかく免許取得頑張ろうと思います。なぜ旅なのかというと大学生の時期にしかできないことであると考えているからです。ありがたいことなのかわかりませんが、東北

大学の長期休みは8・9月の2か月と10・11月の2か月です。スキー部は冬が勝負の部活なので12月と1月は当然潰れます。旅をするなら8月と9月しかありません。8月は多くの学校が夏休みなので観光地には人がたくさんいますが、9月は授業が始まっています。その10月に旅をすれば値段も安く済み、自分の思い通りに旅を計画できるのではないかと考えています。社会人になったら10月にたくさんのお休みをいただくのは難しいと思うので、大学生のうちに行けることと考えています。早速今年の夏休みに旅を計画中です！

個人的かつ私的な目標はこんな感じですが、これからの一年間いろいろなことに挑戦し、楽しめたらなと思っています。(専門の授業が始まり、青葉山へ登らないといけないときは面倒だなと思うこともあります)が、学んでいる内容はとても興味深いです)

カードゲーム

川田裕貴

私は当初は遊戯王について書こうと思っていた。実際深夜テンションで書きあげてみたが、冷静になって読んでみるとひどくニツチな話題となってしまった。これではみな遊戯王に興味を持ってくれないな、と思い、いつそのことカードゲームの概論を話してみようと思いついた先がこの文章である。

そも、カードゲームとは何か。最近ではオンラインで出来るそれも増えてきたが、元来は手のひら大の大きさの文章や絵などが印刷された紙を用いて行うゲームである。ルールはゲームによって違うが、

共通していることは相手に勝つことを目標とするゲームである、ということである。カードゲームの醍醐味はここにあるのだ。相手の公開情報と非公開情報から次の手を予測し、相手を上回り、自分の勝ちをもぎ取る。これこそがカードゲームをやる意味と言っても過言ではない。そんな大変面白いカードゲームだが、結構種類がある。そこで、それぞれのカードゲームをここで説明する。

● トランプ

言わずと知れた世界的なカードゲームである。トランプとまとめたがトランプだけでもさらに星の数ほど細分化できるのでここでは省略。本文の趣旨とも反するので。

● 遊戯王

私の大好きなカードゲームである。一番のセールスポイントは他のカードゲームを圧倒するカードプールの量からなる多彩なデッキ構築性にある。というかあまりにカードプールが大きすぎて時間がえげつない勢いで溶けていく。最近電子ゲームで遊戯王ができるようになったので、興味がある人は僕に言ってくれと手取り足取り教えられる。8000あるLPを削り切ると勝てる。ルールが難しい。というか書いてある効果が読みにくい。

● デュエルマスターズ

私の好きなカードゲームその2。これもカードプールがくそでかい。こっちは電子ゲームができたのでやりたいならぜひ。5枚あるシールドをブレイクして、最後にとどめを刺せるシステム。ルールも効果も簡単なので初心者比較的おすすめ。

● ポケモンカード

世界的人気ゲームであるポケモンのカードゲーム。絵柄が可愛くて、ルールが簡単なのが素晴らしい。カードゲーム超絶初心者におすすめの一つ。6枚あるサイドを取り切ると勝ち。

有名どころを四つまとめてみた。どれもはまると時間とお金がい意味わからないくらい溶けていくので、正しく大学生にお勧めのゲームとなっている。個人的には遊戯王が一番楽しいのだが(戦略性に富む、未知のデッキが多い、カードの使い方次第でジャイアントキリングもできる)、本当に好き嫌いの別れる要素が多いため、人によるとしか言えないのだ。人によってはカードゲームすら向いていない人がいるので注意されたし。

やらかしています

永島史帆

今日は5月18日水曜日。今病院のベッドの上でこれを書いていきます。5月16日に人生で初めて救急車に乗るという経験をし、半日くらい様子を見て退院かと思いきや緊急入院となってしまうました。新歓が一番頑張らないといけない時期にこんなことになってしまったって本当についていません。ご迷惑をおかけしています。一人暮らしで緊急入院という今までもこれから先もない(と信じたい)経験をしているので、現状報告と運ばれて入院するまでの流れについての反省会をしたいと思います。

まず救急車っていざ呼ぶとなると、「ほんとにこのくらいの症状で呼んでいいんだろうか」っていう感情に駆られ、救急車を呼ぶか否かの決断に時間がかかってしまいました。腹痛下痢と言っても症状に波があったので、朝まで我慢するか呼ぶかの葛藤でいっぱいでした。その数時間無駄だったなってすごい後悔しています。

次は救急車を呼んだ際、5分で到着すると言われ、焦ってほんとに最低限のものしか手に持っていけなかったことです。ラピユタで「5秒で支度しな」と女船長に言われたパズーに比べて、自分には体調が優れないながらも5分間の猶予があったにも関わらずです。当然運ばれる時はまさか入院になるなんて思いもしなかったので、財布と薬くらいしか持っていきませんでした。後々当然ですが着替えとかパソコンとか持ってきておくべきものが出てきますよね。実家暮らしなら、、と何回も思いました。まあ仕方なしですね。

ここで少し現状報告をしようと思います。今は胃腸の中を空にして休ませるために口からの食事を全くとっていない状況です。基本一日中ベッドで安静にしていなければならず、もどかしい思いでいっぱいです。しかし川田とゆいとわかばが救急車を呼ぶ前日の昼間にゼリー類を家まで来て差し入れてくれたりだとか(これが無かったらほんとにやばかったです)、同期先輩を問わずたくさん心配のLINEをいただいたりと、今回のことで改めてみなさんの温かさを感じました。ほんとにスキー部にはいい人しかいません。感謝感謝です。

とにかく一人暮らしで入院することの大変さを実感しました。と
りあえず早く元気になってここから出ます！

Bucket List ～人生でしたい7つのこと～

野崎 菜月

みなさんは、bucket list というものを聞いたことがありますか？
簡単に言うと、「人生でしたいことリスト」のようなものです。ま
だ若いうちに死ぬまでにしたいことのリストを作って、何もやり損
ねないようになりたいです。今回はその中のいくつかを紹介します。
将来見返した時に少しでも達成できていれば嬉しいですよ。

1. スペインに住む…5年程前にスペイン語を学び始めたた
き、スペインの文化や国民性、食べ物や建築物など、本当
に魅力溢れる国だなあと思いました。それ以来、スペイン
で生活したいと思っています。

2. ユニークな見た目に挑戦する…具体的に言うと髪型です。
一つは、眩しいくらい色素のうすい金髪に染めることで
す。似合うかはわかりませんが、一度は（できれば大学生
のうちに）試してみたいです。もう一つは坊主（毛が短く残
っているくらい）です。これはかなり勇気がいるかもしれま
せんが、なんだか人生観が変わるような気がします。

3. 世界中を旅する…一人でも誰かとも。日本でも海外で
も。家族が旅好きで幼い頃からよく旅行に連れて行ってく
れたので、私も旅行好きになりました。旅の醍醐味は①現
地の美味しい食べ物を食べる②景色や建物を目で楽し
む③新しい価値観を得ることだと思えます。旅をする
と必ず発見があるし、生きていくエネルギーを蓄えられま
す。大学生のうちに色々なところに旅に行きたいと思っ
ているのですが、お金と時間がかかることが壁です。お金も
時間も作るものだと分かっているのですが、なかなか難
しいです。

4. スカイダイビングをする…私はジェットコースターなどの
絶叫系が大好きなので、これは絶対に行きたいです。生身で
地上の景色を見てみたいです。爽快感以外にもいろんな感
情が湧いてきそうです。

5. クラシックカーに乗る…私は外見の観点から、現代の車よ
りもクラシックカーの方が好きです。風情があつてとても
良いと思うのですが、共感できる人いないでしょうか？も
ちろん乗り心地も燃費も悪いですが、それを上回る魅力が
あります。社会人になったらクラシックカーを購入する、
というのが私の長年のささやかな願いです。

6. マッチングアプリで恋活を試みる…マッチングアプリっ
て、賛否両論ありますよね。最終的に結婚まで行っている
カップルもいる一方で、実際会ってみたら写真と全く違っ

た、などもよく聞く話です。私はとても理にかなって
と思うのですが、実際のところどうなのでしょう。例え
ば最高に波長が合う人がどこかに存在していたとして、
も一生その人に出会えないって、ちょっともったいないよ
うな気がしてしまいます。マッチングアプリだったらそん
な人も効率よく探せると思うのですが、そんなに簡単な話
ではないのかもしれないですね。

7. 一緒に楽しめる人生のパートナーを見つける..私が高校生
ぐらいのときは、一生独身でもいいかな、と結構本気で思
っていたのですが、一人暮らしを始めて、やはりずっと一
人でいるのは好きではないのかも、と思い始めました。別
に結婚はしなくても、一緒にいろんなことを楽しめて、気
楽にいられるソウルメイトのような存在がいいですが、そ
んな人って本当に見つかるのでしょうか。私にとって永遠
のテーマな気がします。

今思い付くのはこんなところ。他にも考えたらいくらでも出
てきそうですが、とりあえずこの辺にしておきます。読んでいただ
き、ありがとうございます。

人生なめ腐っていた件について

村上大空

「人生イージーだと思っている」これは昨年度の SUPR の私の部
員紹介で書かれた文である。割と慕っていた先輩にこのように書か

れたときの衝撃は今も鮮明に覚えている。こう書かれたことによっ
て当時ほとんど関わっていなかった先輩にもそういうやつだという
先入観を持たれ、すっかり部内でなめた人間として勘違いされてし
まった。我ながらとてもかわいそうである。念のため確認するが私
は先輩のことも人生もこれまで一度としてなめ腐ったことなどない
し、むしろ尊敬出来る人が周りに多すぎて自分に自信が持てないか
弱い人間なのである。実際高校までは真面目で良い子キャラだった
はずなのだ(多分)。そんな自分が今部内でなめた奴として認識され、
新しく入った一年生にまで浸透しかけている。これは由々しき事態
である。一刻も早くイメージ回復しなければならぬが、その為には
私生活の何気ないことから変えていくことが大切だと思う。確かに
に昨年度から一人暮らしが始まり、生活が乱れていた日もあった。
人に見られてる所も見られていない所も、今一度自分の私生活を見
直し、今年度改善すべきことを、歳の数だけ記そうと思う。

→挨拶をきちんとする。野球部だった頃を思い出す。

↯先輩との会話を適当に流さない。先輩と話すときは好きな子と話
していると思うことにする。

↯先輩に呼ばれたらちゃんとした返事をする。

↯おごってもらえそうな雰囲気の時ギリギリまで自分が出すよう粘
る。

↯すぐにデリバリーを頼まない。1000円以上で配達料無料という誘
惑に流されない。

↯野菜生活で栄養を摂った気にならない。

- 5.こたつで授業受けない。
 - 6.ビールばかり飲まない。
 - 7.朝食をコーンフレークに頼らない。
 - 8.カードからの支出がやばそうな月に myJCB を開かないようにして現実逃避しない。
 - 9.ベット上の洗濯物を片付けるのを面倒くさがって yogibo で寝ない。
 - 10.合宿後またすぐ合宿があるからといってポストンバッグを部屋に放置しない。
 - 11.2weeks のコンタクトケースの洗浄液をちゃんと毎日変える。
 - 12.LINE で文章を長押ししたら出てくるスタンプに頼らない。
 - 13.チャリ鍵を無くさない。
 - 14.喉渴いた時、水分補給の手段としてみかんを食べない。
 - 15.卵の賞味期限を切らさない。
 - 16.片足分しかない靴下をこれ以上発生させない。
 - 17.ぎつねダンスの沼から抜け出す。
 - 18.tiktok を消す。
 - 19.運転する時シートベルトをつけ忘れない。
 - 20.SUPR を期限ギリギリに提出しない。
- まだまだ書き足りない所ではあるが、以上のことに気をつけて健全な私生活を送ることで、身も心も引き締まった、謙虚に人生を送る一年にしていこうと思う。

料理チャンネルについて

山田唯人

こんにちは。アルペン2年の山田唯人です。書くネタが無くて、何を書いていこうかだいぶ悩んだのですが、今回は自炊について書いていこうと思います。

皆さんはほとんどの人が大学生になって一人暮らしを始めたと思うのですが、自炊をしていますか？自分は結構自分でご飯を作るのが楽しくて、一年たった今も自炊をしているのですが、たまにテスト期間や他の用事があって疲れている時などは自炊がめんどうくさくなってしまっって、ファストフードや外食などに甘えてしまうことがあります。多分皆さんもそのような経験があったり、そもそも自炊をするのがめんどうくさくなって自炊しなくなってきたりしてしまっていると思うのですが、そんな人達に僕は、料理系 YouTuber を勧めたいです。

自分が好きな料理系 YouTuber を見ると、ストーリーなどが作られていて面白いチャンネルの人は普通に見ても楽しめる上に、自分もその料理を実際にまねて作ってみようという自炊に対するやる気を出すことができます。

自分がおすすめる料理系 YouTuber の一人目は、「さきみキッチン」です。ここは、家で作れる安い、爆速、おいしいレシピを出しています。レシピの内容としては、油淋鶏などの代表的な料理から、柿ピーをタレの材料に使った冷や奴などのアレンジがあるオリジナルのレシピまで色々なレシピを紹介してくれています。また、YouTube

の中でもショート動画を投稿しているので、そこまで時間をかけずに一つのレシピを見ることが出来ます。またこのチャンネルでは、ただただ料理のレシピを動画で紹介するのではなく、「部長」や「部下」「姪っ子」などのキャラが出てきてそのレシピを作るまでのストーリーが紹介されていて、楽しくレシピを学ぶことが出来ます。

二人目は「samscats」です。この人は海外のyoutuberなのですが、料理をするときに全て原材料から製作しているので、見ているだけで面白い、すごい人です。例えば、ラーメンを作るときは原材料の小麦粉から自分で麺を作ってみたり、他にもムール貝を使う料理で自分で海に行き、実際にムール貝を捕るところから始めたりと、すごい手の込んだ料理をしています。その工程をショート動画にまとめて料理工程のASMRのような編集をしてアップしているので、テンポ良く、気持ちよく見ることが出来ます。

ここまで、自分の好きな料理系youtuberについて紹介してきました。皆さんも、少し時間があるときや、自炊のやる気が出ないときなどは、紹介した料理系youtuberを見てみて、自炊を頑張ってみてください。

ローラー練習

山西友貴

こんにちは。ランナー二年の山西です。早いもので、東北大スキー部に入部してから一年が経過しました。スキー部に入部して最初に驚いたのは集合時間の早さですよ、特に長町六時集合は朝弱い僕

にとっては早すぎます。朝起きることが朝練みたいなものです。そこで、どうしたら、道交法を守り、安全に気を付けた上でどうすれば最短に長町に到着できるか考えていきたいと思います。

逆算して考えてみます。六時に練習が始まるので、僕の自転車のキヤパを考えると、五時四十七分くらいにはあの長い河川敷に入っておきたいところです。四十五分に入れたら、その時点で勝ち確です。のんびり歌を口ずさみながら自転車を漕げます。で、片平キャンパス前を通過して、長町に向かい、河川敷に入りますが、最近、去年の入部した時期からずーっと続いていた橋の工事が終わったので、2分近く的大幅な短縮に成功しました。よって、五時三十九分くらいに片平の正門前を通過すれば十分間に合います。

問題は、大学病院前から片平キャンパスです。僕は晩翠通を南下して向かうのですが、信号が多すぎる！定禅寺通、広瀬通、青葉通の三つの大きい通りを通過するのですが、広瀬通は確実に引っかかります、逆に青葉通と、定禅寺通は八十パーセントぐらいで通過できるので、青葉通を五時三十六分、ドンキ前の信号もほぼ一〇〇パーセント引っかかるので、それも加味して、五時二十六分には定禅寺通りを通過しましょう。

僕の家から、晩翠通の入り口までも割と信号が多く、八分はかかるので、五時十八分に家を出れば間に合います。準備に一〇分程度かかることを考えると、五時五分に起きられたら、まあ間に合うってことになります。

ただ、僕が一番気を付けないといけないのは、目覚ましのかけ忘れなんです。前日にバイトが入っていて、寝落ちしちゃって絶起みたいなパターン去年二回ぐらいやりました。すみません。最近、アラムを定期的にセットできる機能を使えばいいことに気づきました。機械オンチなので、わからないんですよ。ただ、最近ローラー練習が楽しいので、わりと朝すつきり起きられているような気がします。昨シーズン通して、自分自身の技術が向上してるのはもちろんなんです。コンバの同期が長い距離滑れるようになっていたり、去年僕と差があったのに、後ろ見たらついてきていたり、一年生も経験者入ってきたけど、絶対負けたくないし、ほかの一年生もうまくなっているし、周りのお陰もあって、いろいろなモチベーション高まる要素が多いです。今年も一年頑張ります。

ナイトフィッシングイズグッド

石橋智

サカナクションというロックバンドをみなさんは、ご存じですか？代表的な曲としては、「新宝島」「アイデンティティ」などがあります（個人的に好きな曲は「ミュージック」「ユリイカ」「ネプトゥーヌス」など、挙げ出したらきりがありません）。「ナイトフィッシングイズグッド」もそんな大好きな曲の一つです。

「ナイトフィッシングイズグッド」を直訳すると「夜釣りはいい」ですよね。実際、私も大学生になってから、ちょいちょい釣りに行っており、釣りを趣味にできたらいいなと思っています。そこで、今回は、初心者が釣り道具を揃える上でのコツ、おすすめ釣りを紹介していきたいと思います。（サカナクションの紹介をしていくのかなっと思わせてしまっていたらごめんなさい。ただサカナクションって言いたかったです）

釣りの道具を買ってと言われたら、何をかってこようとイメージしますか。おそらく、釣り竿、リール、糸、仕掛けあたりを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、これだけを決めて釣具屋にいくと、あまりの種類膨大さに圧倒され、買い物をする気が失せてしまいます。では、どうしたら良いかというと、釣り竿、リール、糸、仕掛けは全て、どんな魚をどんなやり方で釣るかで決まってきました。つまり、買い物に行く前に、釣りたい魚種とその釣り方まで考えてからいくと、スムーズに買い物ができるはずですよ。

でも、どんな魚がどんな釣り方で釣れるかなんてわかんないしっ

と思ったかもしれません。そこで、今回、紹介するのが「穴釣り」です。「穴釣り」と聞いて、湖一面に張った氷に穴を開けて糸を垂らすワカサギ釣りを想像した人がいるかも知れませんが、違います。ここで言う「穴釣り」は、至ってシンプルで、テトラポットの隙間や際に餌を付けた仕掛けを落とすだけです。もし、餌を垂らした先に魚がいたら、ほぼ9割方の確率で釣れます（ガチです）。釣れる魚は、メバル、カサゴ、マハゼなど、どれも素揚げや天ぷらにするとめちゃめちゃ美味しいのが釣れます。

そして、用意する釣り道具は、とっても安く簡単に、釣具屋で売っている初心者用の「2000円」くらいの釣りセットで充分です。仕掛けは、「テトラ穴釣り」と書かれたセット（針は4号あたり）になっているものを買うととても楽です。あと、餌ですが、釣りの餌と聞くと、長くてうねうねした虫を想像して、いやムリムリと思ったかもしれません。ご安心ください、魚切り身（アジやサバ、サンマなど）や、なんと魚肉ソーセージでバチバチ釣れます。

最後に、注意点とたくさん釣るためのポイントです。注意点は、足場の悪いテトラポットの上を移動するので、落下に気をつけてください。必ず複数人で行うや、ライフジャケットを着けるなど安全には細心の注意を払いましょう。そして、たくさん釣るためには、とにかくたくさんの穴に仕掛けを入れてあげてください。穴釣りは、ガチャです。すぐ釣れる穴もあれば、全くつれない穴もあります。餌を垂らして反応がなければ、すぐ変える。これがコツです。皆さんもSSRが出るまで、テトラポットの上でリセマラしてみませんか？

私の大学生活を構成するものたち。

岩佐帆夏

こんにちは、ランナー3年の岩佐帆夏です。

何か一つ語ることにしようものか思いつかないので、なんとなく思いつくままに書きます。幹部文と体験記で真面目な文章は終わったのでゆるーい感じでお許しください。

① 部活

頑張ってる。

② バンド

5人でオリジナルバンド組んでる。私はキーボード。冬私いないから4人でやってもらってて、完成した曲に帰ってきてから自分のパート付け加えるのが大変。曲作るのがって難しいと感じる今日この頃。全員多忙で時間合わなくて練習20分とかある、その後朝勤とか朝練とか行ってる、あたおか、全員運動部出身だからたまに走ったりもしてる、全員いい奴、最高。来週学内、外でライブある頑張る。

③ NPO 法人アスイク

貧困世帯（仙台の場合は生活保護か児童扶養手当全額）の子どもを対象とした、学習支援や相談支援をしている。様々な家庭の事情や本人の障害等を抱える子どもたちの居場所になれたらと思っている。身近な友達で似た境遇の子がいて、自分は偶々恵まれているだけでこの子は悪くないのにと、この差に対して何もできない自分が情け

なくて始めた。これに関しては語ると止まらないから割愛。でも子どもたちに必要とされているのを感じてすごくやりがいがある。ほのかさん！聞いて！って言うってくる子供たちかわいい。

④ 就活

私が今一番追われていて一番嫌なもの。ES、ケース対策、GD練習、フェルミ、セミナー、面接：大学入ってから一番勉強してる。はやく内定欲しいです。でも一周回って今迷走中。

⑤ サークル

エレクトーンサークル（と一応モルックも）入ってます。一応10年位やってた。定禅寺通のジャズフェスに出る予定です！楽しみ！！

⑥ バイト

1, 2年生はバ畜だった。③のアスイクはずっと継続で、それに掛け持ちでチューター、塾講師、居酒屋、接客、Uberとかの配達系、単発etc: バイトが好きなのもあれば、お金を稼ぐのがゲーム感覚で楽しいものもある。給料計算して自分頑張った！！って頑張りの価値が数字に出るのが良い。一番やばい時期週0だったけどそれはもうしたくない。でも最近就活に向けて減らしてアスイクだけで週2, 3。こんなにバイトしてないの大学生初だから早くたくさんしたい。

⑦ 友達

私本当に友達には恵まれてる。小、中学校のいつめんも未だに仲いいし、今はたまにしか会えないけどそのたまにが家に帰ってきた！って感じでLove。高校の友達いつも電話するし会いに行くし最高。

大学もふつかる経済友達を大切にしていきたいところ。もちろん部活もバンドも。

⑧ こたつ

こたつで寝落ちする率高すぎてこたつをベットにしたい。5月だけどまだしまう気ない。神だもん。

⑨ 美味しい食べ物

悲しいときも、自分お疲れ様るときも、病んだ時も、嬉しいことがある時も、美味しいものを食べるって最高！気分が上がります

⑩ 酒

酒しか勝たん。ストゼロ！飲みゲー！とかじゃなくて、日本酒とかワインを嗜む女か、カシオレの女になる。まじ周りのせい。スキー部は平和すぎるほど平和。

⑪ 旅行

色んな所に行くのが好き、とか言いつつ関西ばっか行ってる。青春18割とヘビューザーだからもつと新しいところ行きたい誰か行こう。東北まだ開拓しきれてない

⑫ ユニバ

大好き、楽しい、最高。今は年パス持ってるけど今年も買うかは迷ってる。関西出身勢にユニバだよってイントネーション怒られがち。今月末スキー部で行くかも(?)

⑬ 車

バ畜の結果、アウトランダーを手に入れた。爆音で音楽聞くの好きだったのに Bluetooth の機械最近なんか壊れた最悪、買い替えなき

や。保険とか維持費含め完全に自分のお金だから早くバ畜になりたい。

⑭ わかにゃん

姉妹の四女。私は長女。歳は10個差、可愛い。私が惚気すぎてラッナー多分全員わかにかん知ってる、でも私よりスパー上手い。

⑮ ゼミ

大学の勉強のことを何も書いていなかったので付け足し。経営学科の非営利組織論の西出ゼミ。ZPO関連や、ゼミ生企画で自分たちが色々企画、実行してる。③のアスイクと関連してやりたいことができるし、メンバーのノリ良くて最高、当たりだった。

日焼け止め

尾碕明

日焼け止めを塗り忘れる。塗らなくてはと頭をよぎるが、その瞬間に面倒臭がるとすぐに忘れ去り、気づいた頃には練習が終わっている。中・高とも屋外部活出身の私は、母親に「大人になったらシミ・シワだらけになるよ!」とよく叱られていた。その度に「大人になったら金持ちになってシミ除去手術を受けるから大丈夫!」と応えていたが、最近、日焼け止めを塗らないことに対して自分の中で開き直る感情に気がついた。

「アンチエイジング」。若々しく、健康的に生きることを目的とするこの言葉は、医学・美容分野では一般的である。私も八十歳でスカイダイビングをするデヴィ夫人のような方を拝見すると、いつまで

も若々しく健康でいたいものだと思う。しかし、一方で日本では美容面における「アンチエイジング」が過大に重視されているとも感じる。美魔女ブームがその典型である。五十代の女性に二十代のような肌のハリを求めるとか、わずかなたるみやしわを気にして健康な肌にメスを入れるとか、世間が女性を外見でしか判断しない象徴のような話だ。ヨーロッパ諸国では自分の顔に刻まれたシワを「私が生きてきた証。経験と知識の重なり。」と誇りに思う女性も多いそうだ。反対に日本ではあるアンケートで約7割の女性が「実年齢より若く見られたい」と回答している。「年相応」の魅力というものをまるで知らない。女性の魅力は外見上の美ではなく、知識と経験をエロスと捉えられる時代が来ない限り、日本の女性蔑視の根本は消滅しないと思う。

玉置浩二が好きだ。彼の歌の良さは二十代の私が語るには早すぎるほど、あまりに深く芸術的だ。ただ私の稚拙な表現を用いるならば、歳を重ねた経験値、そこから生み出される渋みと色気で満ちた声や表情はやはり圧巻である。新世代のアーティストが注目される現代でも、この渋さは彼らには表現できないだろう。

歳を重ねることは素敵なことだ。アンチエイジングなんてくだらない。

なんだか日焼け止めを塗らなくても良いような気がしてきた、

「紫外線って浴びてるだけで結構な体力消耗するよね。老化も進むんでしょ？病気の原因にもなるみたいだし。日焼け止めてって案外

大事だよね。」

朝練で疲れている私に向かって知人がこう言ってきた。その時、日焼け止めの健康面での効果を侮っていた自分を恥じる感情からか、朝練で浴びた長町の直射日光による日焼けからかはわからないが、私の顔は確かに紅潮していた。

日焼け止め、塗ろう。

三年マネージャーの部員文

黒田凜生

こんにちは。三年マネージャーの黒田と申します。東北大に入学して、スキー部に入学してからもうこれだけの時間が経ったことにびっくりしています。お察しの通り、私はユニークなテーマが思いつかないタイプの人間です。よって今年のSPDRでも、真面目な文章を書いてしまうことをお許しく下さい。しっかりと、部員文—スキー部員としての文章—を書かせていただこうという所存でございます。

まず、今までスキー部のみんなと関わってきたのは、何か一生懸命になっっている人を支えることや応援することです。やりがいがある楽しいということです。私の実家はスポーツ番組を見る文化がなくて、サッカー、野球といったメジャーなスポーツさえしっかり観てきませんでした。(学校の体育と、好きな人が部活

でやってるのを見てたぐらいでした笑)。でもスキー部に入部して何度か試合を見させていただいたことで、マネージャーという仕事の素晴らしさや充実感に気づきました。選手のサポートをするのはとてもやりがいがあります。自分の働きと比例して選手がより快適に練習ができるというのが分かりやすいからです。また、普段からコツコツと練習を重ねる選手の姿を見ているからこそ、それが結果として表れるのを見たときや、うまく結果にならないとき心が動きまです。もちろん選手同士でも感じられる気持ちだと思うのですが、マネージャーとして外野的なポジションからみんなを見ると、本入たちが気づいていない部分にも気づくことができます。選手のみんなは、みんなが思っている以上に頑張っていて格好いいということとは、マネだからこそのわかることです。選手にとっては、頑張ることが当たり前だからです。筋トレやランニング、ローラーの練習を毎日続けていることが本当に凄いです。

なんとなく自分に向いている気はしていたのですが、やはりスポーツに関しては、私は選手よりもマネージャーが向いています。体力もないし、走り続ける根気もなく、スポーツに向いていないけど、スポーツの生み出すいろんな喜びに関わりたいたいと思っています。っては、マネージャーというポジションの存在はとて有難いなど思えます。実際に競技をやっているわけではないので、選手への関わり方が難しいという面もあるけれど、そのぶん自分がどんな関わり方ができるのか、どういう形で協力するのが適切なのか考えながら過ごしています。

最後に、スキー部はマネージャーがいなくても動くようになってはいるものの、マネージャーがいて支えられる部分はたくさんあるなど最近本当に感じていきます。それは事務系のお仕事もそうだし、普段の練習でもそうです。もちろん、やることがない時もあるけど、それはどの部のマネージャーも同じで、その分自由にさせてもらっているの、他の課外活動にも取り組みやすくありがたいことです。だから、私や新入生の彩実を皮切りにして、スキー部にはマネージャーが必要！どんどん入って一緒にマネのあり方を考えていこうという文化を作ってほしいなと思います。そうすることで、今後のスキー部の練習がよりよくなるのは間違いありません。

マネとしてのやりがい、合宿や練習での選手との関わり、遠征先の温泉街・・・いろんな楽しみがあるスキー部のマネージャーになって良かったと心から思います。難しさや大変さを感じることもありますが、選手の優しさやありがたうの言葉に救われていて、合宿に行くのがいつも楽しみです。今年も頑張るぞっ！ えいえいおー！

活動報告と会員募集

渡部新

昨シーズン、部内(アルペン内)に膝痛の会を立ち上げましたのでこの場を借りて、活動報告をさせていただきます。

膝痛の会は膝に限らず、慢性的な痛みを抱えている者による相互扶助組織です。

僕は昨年のオフシーズンに増量を行い、体重は増やせたのですが、

筋肉量が追い付いていないためシーズン中に冷えると慢性的に膝に痛みを抱えるようになりました。川田裕貴も昨年の夏に足首の骨折をし、筋肉が落ちていたため同様に膝の痛みを抱えていました。リフト上で僕が川田に膝の痛みを打ち明けたところ骨折で病院に通っていた川田から膝の痛みに効く筋肉のほぐし方を教わったことから膝痛の会はスタートしました。

主な活動はリフト上やゲレンデで「今日の膝の調子はどうですか」とお互いに気遣い合うこと、膝に良いストレッチや膝周りの筋トレを共有すること、温泉に入って膝を温めることです。

実際に「シーズン活動して、コース整備後の声かけは非常に効果がありました。コース整備のハの字が膝に大きな負担を与えるのですが、膝の痛みの具合を共有するだけで、共有する前と比べて膝の痛みが半減しました。また、温泉も湯治ったものが存在するだけあって、(こちらは本当に)効果がありません。

暖かくなってきたのとスキーもオフシーズンになって滑らなくなったので膝痛の会もオフシーズンに入ったのですが、オフシーズンもしっかりと活動していきたいと思えます。会としては来シーズンを見据えて、膝の関節に負担をかけないように筋トレを行い、筋肉量を増やしていきます。川田はまずは昨シーズン末の骨折も直してしっかり来シーズンに備えてほしいです。僕は体重をベスト体重にもっていくこともこのオフシーズンでの目標です。

会員は他にも居た気がするのですが、僕と川田以外の会員を把握していません。会員の皆様には大変お手数をおかけしますが、僕に

ご連絡ください。

また、新規の会員も募集しております。どこかに痛みを抱えて居る方、痛みを抱えて居なくても痛みを抱えている人により添える方であればOB・OCの皆様も含め、どなたでも入会可能です。募集は通年で行っていますのでいつでもご連絡ください。もちろん、体験や見学、仮入会も可能ですのでお気軽にお問い合わせください。

没案集

大坪 奏祐

SPURの部員文、毎年何書くか悩むんですよね。部員文書いたことのある皆さん or 参考にしようと思つて過去の部員文読み漁つてくる未来の現役の皆さんいかがでしょうか。そんなことないよという方もいるかもしれませんが、私は悩みます。一年生のときは大体自己紹介すればいいのであまり困ることはないかと思いますが、二年生以降つてホントに自由つてなつちゃうので難しいですよね。私は、二・三年生のときは何か書こうかアイデアを温めて書いてたよいうな気がするのですが、今年はまだまらないまま時間が過ぎてしまったので、思いついたけど没になつた案について書きます。

最初に思い付いたのは、「実はヤバい〇〇の裏知識5選」みたいなYouTube風のタイトルで何か書こうと思つてました。けどSPUR的にいい感じの内容で掘り下げられるような知識を思いつかなかつたのでやめました。語れる趣味がないというわけではないですが、マニアックなネタだとよくないと思ひました。

次に思いついたのは、「会話を強要してくる人について」という感じで書こうと思ひました。しかし、割とどがつた内容になり、普通に批判されまくりそうだったのでやめました。ちなみに、「批判したい人は勝手に言つてくれ」みたいな文章入れようかなとかまで考へてました。このフレーズ実はエミネムの映画8 Mileでラップバトルの相手にマイクを渡すときにエミネムが吐き捨てるフレーズを意識してました。ネットフリのYouTubeチャンネルでそのシーン見れる

るので興味のある方は見てみてください。

そして、最後に思い付いたのは「マッチングアプリの実態」みたいな案でした。これと一つ目の案を組み合わせてもいいかと考へていました。これならいけるよいうな気がしたのですが、ちょっと参考にしようと思つて過去のSPUR見てたら、SPUR63(2019)にて、当時三年生の平澤さんが、「マッチングアプリの考察と感想」という内容で既に論じられていたのでやめました。やめました、このタイトルについて簡単に言うなら、「LINEとかのメッセージ返すのだるいと思つてる人は絶対向いてないからやめとけ」です。

そんなところでいい感じの文字数になつたんじゃないですかね。なんかずるい感じの内容になつてしまったので、これを見た後輩たちはこの部員文の真似しないでください。今回の没案をタイトルとして論じていただくのは構いません。

今年も頑張ります。ああ

最近の就活

鈴木昂

原則としては、就活は4年生の6月から開始されるということがルールとなつてゐる。しかし、その期間前に「インターン」「面談」「説明会」「座談会」など多くの就活が日系大手で始まる。また外資やベンチャー、ファームなどに至つては、二年生の秋冬から採用活動が始まるまで存在する。(私も実際初めて内定のようなものをもらったのは、2年生のうちであった)実際今現在就活をしてい

る4年生もいるが、大体の人は3年生のうちに1-2個の内定を獲得し、4年になっても就活を続けている人が多く見受けられる。この執筆をしているの月には日系の大手の就活が始まり、学生たちはヒイヒイ言いながら、仙台と東京を往復しているのである。ここからもオンラインでの選考が主流になったからといっても、東北大の就活生が、地理的に不利な立場に立たされているかが、わかるであろう。

ここで、身に染みて感じた就活において重要なことを話したい。

それは実家の所在地である。私は関東出身であるため、東京都内のほとんどの会社までは一時間圏内に実家がある。そのため帰省がてら選考を受けに行くことができた。しかし宮城出身の友達などは朝早く東京に行き、選考を受け、交通費は出ても宿泊費が出ないため、夜遅くの新幹線で帰るというハードスケジュールを毎週〆回くらい繰り返す強者も多くいる。大変だなー

このように最近の東北大生の就活の話をしてきたが、最後に、私にとって就活はとても興味深い経験であったと思う。様々な社会人の方と話をさせて頂き、様々な仕事があることを知ったし、様々な考え方に触れることができた。

最後にはもう言ったが、スキーのことを何も話してなかったのて話したいと思う。昨年の冬は、就活もひと段落しており、たくさん滑ることができた。またスノーボードに関して本格的に始めたので、来年の冬は競技をするかは未定ではあるが、スキーとスノーボードのバッジテストを受け、両方とも一級を取りたいと考えている。

PS 堀君が今spurの内容からすると、今年は遊びに頻繁に誘ってくれるようなので、楽しみに誘われるのを待ちたいと思います。(提出期限20分前に書いてる特権で、堀君の内容は確認済みです。)

アニメについて 第二期

高橋 諒

毎年部員文を書くときに、去年は何を書いたかなと去年のSPURを確認する。そうだ、アニメについて不完全燃焼のまま終わっていた。字数がもったいない。アニメの話に戻ろう。

アニメの醍醐味と言えば、声が付いて作画が動くことだと私は考える。漫画や小説の中で動きを伴わなかったキャラ達が自由に画面の中を動き回っている。それだけで、原作を読んできたファン達(以下、原作勢と呼ぶ)は満足してしまうかもしれない。そこに声が入れば、そしてそれが自分の中で予想していたような声であれば、なお満足できるだろう。もちろん、想定と違う声で困惑する原作勢もあるだろうが、それに関しては何を言っても仕方ない。制作陣との解積不一致が起きただけのことである。ここで、私はアニメ勢たれと声を大にして言いたい。これは、別に原作勢に対する抗議でもなんでもない。原作の頃から追っていた作品がめでたくアニメ化を迎える、そんな瞬間を共有できる原作勢の方が良いに決まってはいるが、声が想像と一致しないのは正直きつい。そこで解釈一致してしまえば、アニメ化されていない部分でも脳内再生は容易く行われ、原作

をまるでオーディオブックか、アニメのように想像することができ
る。ちなみに、アニメ勢はまず声優の声に違和感がある者はほとん
どいない。棒読みであるとか、余程キャラの風貌にそぐわない声を
していない限り、違和感は生じない。アニメ化を迎える喜びも、面白
い作品なら心期制作決定の知らせで同じ様に喜べば良いと個人的に
は思う。そして一番大きいアニメ勢としてのメリットは、労力が少
ないという点である。漫画は能動的に読まないと話が進まないが、
アニメは話が勝手に進んでくれる上にちよつと見逃したところであ
まり問題なく話に戻っていくことができる。また、コスト的な面を
考慮しても、単行本といたたいわゆる漫画を買ったり、最新話を追
って週刊誌を買ったりといった投資が原作勢には必要だが、アニメ
は独占先行配信でもしていない限り地上波やBSの無料のチャンネ
ルの中で見ることができる。コストもかからないため、ハズレだと
してもあまりダメージは深くない。ハマれば、単行本を揃えて声を
当てながら読めば良いだけなのである。声優さんは我々の想定を超
える演技をオールウェイズしてくれるので問題は無い。これらの理
由から、私は同じ作品なら媒体はアニメから視聴することを強くお
勧めする。次にどこかで自由に語れる場があれば、その時はお勧め
のアニメの話しよう。どうせまた千字には収まらないだろうけれ
ど。

ある冬の記憶

中田 和真

3年前の1月初旬、来たるセンター試験に向けて最終準備に入っ
ていた。自分を含め予備校内には緊張感が漂っていた。自分として
はこれ以上親に迷惑はかけたくないという思いが強く、センター試
験は絶対に失敗できない試験として君臨していた。しかしそれまで
の模試結果や問題演習を通して大きな自信をつけていたのは事実で
あった。この調子なら本来の実力が発揮できれば目標とする点数を
取れるだろうと意気込んでいた、そんな矢先であった。

2019年1月10日、センター試験2日前のこの日、いつもの
ように朝から予備校に来ていた。空き教室の椅子に座り勉強を始め
1時間くらいが経った頃である、体に異変が起きたのは。体がだる
い。最初はただ眠たいと思っていたがどうやらそうではないらしい。
勉強に集中できなくなるほどの倦怠感を感じていた。これ以上ここ
にいてもダメだと感じ、予備校を後にした。その後家で熱を測ると
38度を超えていた。その日は休息に努めたが翌日も熱は引かず、
医者に診てもらったところインフルA型と言いつ渡された。頭が真っ
白になった。「よりにもよってどうしてこのタイミングで」、自分含
め誰しもがそう思った。そして本試験を受けるかどうかという大き
な選択を迫られることになる。

ご存知の通りセンター試験には本試験を受けられなかった人のた
めに追試験が用意されている。しかし追試験は本試験よりも難易度
が高いイメージもあり、できれば本試験を受けたいというのが本心

であった。しかし万全ではないこと、流石にインフルの状態で会場に赴くのはアカンということで追試験を選択した。その後は回復に努め、2日ほどでほぼ万全の状態まで回復した。今思うと、かの伝説のリスニング問題に立ち会えなかったことは大いに悔やまれる。そして追試験に向けて過去問を解いていた。点数は本試験の過去問に比べ明らかに落ちており、東北大を狙うにはぎりぎりの点数で推移していた。そして追い討ちをかけたのは本試験を解いた点数(763)だった。結果として不安を抱いたまま追試験に臨むことになった。

追試験の会場は京都に指定されていたため前日に京都に入った。前日の夜、そして1日目の朝は緊張と不安から食事に手が付かず、コンディションとしては最悪であった。そんな状況を救ったのが1教科目の日本史であった。もともと得意科目ではあったが、思った以上にスラスラと解けたのである。それが自信につながり、体調の回復につながった。苦しくはあったものの2日間全力を出し切ることができた。結果としては目標点に達し、東北大を受験することができ無事合格を勝ち取った。そしてこの部活に出会い、充実した日々を過ごすことができている。

自分としては正直奇跡みたいなものだと思っています。でも今は、あの時頑張った本当によかったと心の底から思っています。皆様は大事なイベントの直前は体調管理に十分に気をつけていただけだと思います。ちなみに私は成人式の2日前に高熱を出し、友人との旅行の2日前に体調を崩しました。お願いだから過去から学ぶことを覚えてください。

誘う

堀 倫彰

こんにちは。とりあえず、配属される研究室が決まり、大学4年生になることができほっとしております。しかし、卒論のテーマを決めるために、先行研究の論文を読みあさっていますが、英語ばかりで睡魔がよく襲ってきます…。英語から離れようとしても無駄なことを実感しております。研究室の同期は僕を含めて5人で、スキー部の同期の人数と一生です(ただ、スキー部の場合は全員男子…)。同期が男子しかいない状況も決して悪くないが、きっと女子もいた方がよい。知らんけど…)。今回は、そんな新たな環境のもとでの学生生活を送り始め、最近、というか常日頃思う僕の気持ちについて、少し話してみます。特に、読んでも知識が増えたりするわけではないので、ご注意を。

割と昔から、友達が多い方なのですが、誰かと遊ぶとなった時、自分から誘ったことがほとんど記憶にありません。大抵、周りの誰かに「〜に行こうぜ、〜行かない？」などと誘われていくことばかりです。いわゆる受け身の姿勢を貫いてしまっているわけです。しかし、大学4年生であり、飲食店のバイトも4年目、年齢も22、3となつて、大体の場面において目上の立場になって、自分が誘うべきという場面がちらほらと出てきています。そこで困ったのが、自分から何かを誘うといった経験があまりないので、誘うといった行動をおこすのに、割と勇気が必要だということです。ここで、今まで僕と関わってくれた人のために、勘違いして欲しくないのが、誰

かと遊ぶことは決して嫌いではない、むしろ好きな方です（一人で過ごす時間も必要ではあるが）。まれに、自分から誘って遊ぶことがあるんですが、誘う勇気を考慮しても、遊んだ時の楽しさの方が勝ちます。きつと、根っからの恥ずかしがり屋なのかなと感じています。

バイトで新たに仲間に加わり、年の近いバイトに、バイトの人を遊びに誘う時どうするか聞いてみたところ、「その場のノリ」というよく聞く答えが返ってきました。誰かを誘うことに対して、自分自身が勝手にハードルを上げていたんだなと改めて実感しました。人と話していると、自分と違う価値観に触れることができ、楽しいということも今までの経験上わかっているので、人との関わりを求めていくことは必要&重要です。今年一年は、したいことがあった時、自分から周りの人を「誘う」ことに、チャレンジしていこうと思います。（とりあえず、夏は海に行きたい）。

令和三年度学友会スキー部会計報告

支出の部			収入の部	
項目	細目	金額	項目	金額
登録費・会費	学連登録費	145,000	部費	551,000
	SAJ登録費	228,100	体育部補助金	184,000
	県連登録費・会費(OB分含む)	62,000	シュプール広告費	50,000
道具・施設代	ワックス	56,083	OB寄付金	378,000
	プロテクター	7,979	前年度繰越金	2,516,519
	ビデオカメラ	54,020		
	陸上トレーニンググッズ	2,620	支出合計	1,353,765
	体温計	1,518	収入合計	3,679,519
	ウォータージャグ	2,508		
	初ジャン費用	37,360		
	ワックス用ボックス	4,156		
保険	スキー団体保険	140,000		
インターネット関連	シュプール発行	91,865		
	ホームページ	4,125		
九大戦	協力金	80,000		
エントリー費	インカレ	179,000		
	全国公	166,000		
	国体予選	79,500		
新歓	新歓費	6,353		
その他	振込手数料	1,320		
	ハガキ代	630		
	挨拶回り	3,628		

令和3年度寄付金報告

昭和29年卒	高橋 公正	昭和53年卒	宮崎 豊
昭和30年卒	鬼川 徹	昭和57年卒	八重樫 誠司
昭和34年卒	木名瀬 武男	昭和60年卒	木村 浩之
昭和37年卒	栗原 義郎	昭和61年卒	喜多見 哲
昭和38年卒	中村 彰太郎	昭和63年卒	村主 正範
昭和39年卒	工藤 博司	平成2年卒	風間 聡
昭和39年卒	加藤 孝	平成3年卒	山下 健司
昭和42年卒	高津 宣夫	平成3年卒	三井 裕之
昭和42年卒	佐藤 佑	平成6年卒	川原 靖雄
昭和42年卒	河合 久嗣	平成7年卒	土屋 史紀
昭和43年卒	原田 有造	平成26年卒	伊藤 一成
昭和44年卒	壺 富士雄	平成25年卒	小林 東史
昭和45年卒	高橋 喜三雄	平成31年卒	平山 悠暉
昭和45年卒	植杉 健一		
昭和45年卒	矢口 弘志		
昭和48年卒	長谷川 明		

(敬称略)

令和3年度に御寄付いただいた方のお名前を掲載しております。令和3年度は計378000円のご支援をいただきました。多額の寄付金をお寄せいただきありがとうございます。頂いた寄付金は、ヒュッテの布団・冷蔵庫の新調、練習道具の購入などに使わせていただきました。

なお、令和4年度分寄付金につきましては、来年度のSPUR第67号に掲載いたします。今後ともご支援よろしく願いいたします。

お問い合わせ等は下記をお願いいたします。

- ・〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内四一 学生支援課 課外活動係 気付
- ・スキー部ウェブサイト(<http://ski-tohoku.main.jp>)のメールフォーム (下QR)



令和4年 7月

寄付金のお振り込み方法のご案内

平素スキー部の活動に格別のご配慮をいただき、心よりお礼申し上げます。

昨年度より、寄付金は銀行口座へのお振込みと「PayPal」へのお振込みの2通りの方法でお送りいただけます。PayPalとはインターネット上の決済システムで、アカウントを作成していただければ、スマートフォン・パソコンから簡単に寄付を行っていただけます。詳しくはPayPalのホームページでご確認ください(下記左QRコード参照)。また送金の際には、下記右のQRコードより、東北大学学友会スキー部のアカウントにご送金いただけます。なお、これまで通り、銀行口座へのお振込も引き続きご利用いただけます。

OB・OGの皆様の御支援を重ねてお願いいたします。

東北大学学友会スキー部 部員一同

・PayPalを用いた寄付金送付

<PayPalアカウントをお持ちの方>

スキー部PayPalアカウントに送金(下記右QRコード)

<PayPalアカウントをお持ちでない方>

PayPalサイトでアカウント作成(下記左QRコード参照)

→スキー部PayPalアカウントより送金(下記右QRコード)

PayPal ホームページ

東北大学学友会スキー部 PayPal 寄付フォーム



(PayPalアカウント作成用)



(スキー部への寄付金受け付けフォーム)

・銀行口座を用いた寄付金送付

これまで通り、ご利用になれます。

ゆうちょ銀行:02200-4-19520

みずほ銀行 仙台支店:723-1077949

口座名義はどちらも「東北大学学友会スキー部」です。

<お問合せ先>

学友会スキー部 会計 渡部 新 電子メール:ski.racing.tohoku@gmail.com

東北大学スキー部部則

第一条 本部は東北大学学友会スキー部と称する。

第二条 本部は東北大学学友会運動部の一環として母校の名誉のために活動すると共に、各自技術の向上に努め、部員会員相互の交誼を温め、その親睦を密にすることをもってその目的とする。

第三条 本部は前条の目的を達成するために次のことを行う。

- 一、 対外試合の参加
- 一、 部報および名簿の作成
- 一、 各種部活動の実施
- 一、 その他

第四条 本部はその本部を東北大学片平丁校内に置き、その他の支部を統合する。

第五条 本部は部員、会員および特別会員をもって構成し、その資格は次の者とする。

- 一、 部員は東北大学在学中の学生
- 一、 会員は東北大学卒業生で在学中本部に在籍した者
- 一、 特別会員は、部長、副部長、顧問、コーチおよび特に部会で認められた者

第六条 本部部长は次の義務を負うものとする。

- 一、 入部の際、定額の入部費を負うものとする
- 一、 部費として年間一定額納入すること
- 一、 定められた部会、トレーニング合宿およびその他の部活動に参

加すること。欠席する際にはその事由を届けねばならない。

第七条 本部部长の進退は部会でこれを決定することができる。

第八条 部会は部員をもって構成し、主将が必要と認めた場合これを召集する。

第九条 本部部长、特別会員については別にこれを定める。

第十条 本部部长は次の者をもって構成する。

- 部長一名、副部長一名、顧問若干名、監督若干名、コーチ若干名、主将一名、副主将一名、主務一名、副主務若干名。

第一一条 主将、副将、主務、副務は、前年度の役員の推薦により

選出し、部会の承認を要する。その任期は一年（四月より翌三月）

とし、再任を妨げない。

第二二条 本部部长の経費は学友会費・部費・入部費・会員費・寄付金その他の収入より充当し、会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二三条 主務は部員に対し年一回以上の会計報告をせねばならない。

第一四条 本部部則の改正は部総会で総部員の三分の二以上の賛成をも

って議決することができる。

第一五条 本部部則は昭和三十五年七月一日をもってその効力を発する。

東北大学萩雪ヒュッテ使用規定

(昭和四十年七月一日制定)

(趣旨)

第一条 東北大学萩雪ヒュッテ(以下「萩雪ヒュッテ」という)の使用については、この規定の定めるところによる。

(使用目的)

第二条 萩雪ヒュッテは、東北大学(以下「本学」という)学生および教職員の体育活動・研修等に使用するものとする。

(使用の願い出)

第三条 萩雪ヒュッテを利用しようとする者は、所定の願書を使用日七日前までに学生部長に提出し、その許可を受けなければならない。

(使用期間)

第四条 萩雪ヒュッテの使用期間は七日以内とする。ただし、特別の理由があると認められたときはこの限りではない。

(使用日時等の変更および使用の取り消し)

第五条 本学において公務上の必要が生じた場合は、使用許可を取り消し、または使用日時等を変更させることがある。

2. 使用の許可を受けた者(以下「使用者」という)に規定違反の行為があると認められた場合は、使用許可を取り消すことがある。

(使用権利譲渡の禁止)

第六条 使用者は使用の権利を第三者に譲渡してはならない。

(損害賠償)

第七条 使用者が故意又は過失により、建物・設備・備品等を損失又は滅失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(使用者心得)

第八条 使用者は別に定める使用者の心得を守らなければならない。

(補足)

第九条 この規定に定めるもののほか、萩雪ヒュッテの使用に関し必要な事項は学生部長が定める。

附則

この規定は昭和四十年七月一日から施行する。

東北大学萩雪ヒュッテを学友会スキー部が使用するときの方法について

(昭和四十二年十月二十日)

東北大学萩雪ヒュッテを学友会体育部スキー部が使用するとき、左記の方法によるものとする。

記

- 一、東北大学萩雪ヒュッテ(以下「萩雪ヒュッテ」という)を、学友会スキー部(以下「スキー部」という)が使用するときは「東北大学萩雪ヒュッテ使用規定」(昭和四十年七月一日制定)によるほか、次の方法によるものとする。
- 二、スキー部は萩雪ヒュッテの一部(二階部分)を通常専有するこ
とができるものとする。
- 三、スキー部が強行訓練の合宿のため萩雪ヒュッテを使用するとき
は、スキー部以外は使用させないものとする。
- 四、萩雪ヒュッテのスキー部専用室を使用できる者は、スキー部部
長、副部長、監督、部員とする。ただし東北大学(以下「本学」
という)関係者が管理上必要な場合は使用できるものとする。
- 五、萩雪ヒュッテをスキー部以外の者が使用するときは、一階
部分を使用するものとする。ただし、一階の各室が一時的に収
容能力を超えたときは、スキー部活動に支障ない限りスキー部
専用室を使用できるものとする。

六、スキー部は、萩雪ヒュッテの運営について随時本学に協力する
ものとする。

七、スキー部が強行訓練等により萩雪ヒュッテを使用するときは、
学生部に届け出るものとする。

東北大学学友会スキー部現役名簿

	氏名 (部門)	学部	出身校
部長	風間 聡	東北大学大学院 工学研究科土木工学専攻	
副部長	青木 俊明	東北大学 国際文化研究科	
監督	浅野 颯太	工学部 電気情報物理工	

4年生	大坪 奏祐 (コンバインド)	工学部 材料科学総合	鹿児島 玉龍
	鈴木 昂 (アルペン)	経済学部	麻布
	高橋 諒 (ランナー)	医学部 保健	古川
	中田 和真 (ランナー)	経済学部	富山
	堀 倫彰 (ランナー)	理学部 地球科学系	世田谷学園

3年生	石橋 賢 (主将、アルペンチーフ)	農学部	仙台第二
	岩佐 帆夏 (ランナーチーフ)	経済学部	札幌北
	尾碕 明 (コンバインドチーフ)	法学部	札幌南
	黒田 凜生 (マネージャー)	文学部	兵庫
	渡部 新 (アルペン、主務・会計)	工学部 電気情報物理工	仙台第二

2年生	足立 玖美佳 (コンバインド)	工学部 機械知能航空工	洗足学園
	小澤 わかば (コンバインド)	工学部 建築社会環境工	群馬県立中央中等教育学校
	郭 啓悦 (アルペン)	工学部 材料化学総合	巣鴨
	川田 裕貴 (アルペン)	工学部 電気情報物理工	芝
	永島 史帆 (コンバインド)	工学部 機械知能航空工	開明
	野崎 菜月 (アルペン)	工学部 機械知能航空工	石橋
	村上 大空 (コンバインド)	工学部 機械知能航空工	松山東
	山田 唯人 (アルペン)	工学部 機械知能航空工	新潟
	山西 友貴 (ランナー)	工学部 電気情報物理工	大阪府立茨木

1年生	阿部 拓人 (コンバインド)	薬学部	室蘭栄
	今井 敬裕 (ランナー)	経済学部	長田
	小川 史温 (コンバインド)	工学部 材料科学総合学科	熊谷
	嘉齊 琉聖 (ランナー)	工学部 電気情報理工学科	安積黎明
	加藤 杏奈 (ランナー)	工学部 材料科学総合学科	仙台第一
	齋藤 瑛斗 (コンバインド)	理学部 物理系	市川
	澤田 真拓 (アルペン)	工学部 材料科学総合学科	弘前
	塩倉 颯瀬 (アルペン)	工学部 材料科学総合学科	盛岡第一

	其田 啓太郎 (アルペン)	工学部 機械知能航空工学科	県立船橋
	瀧 颯太 (アルペン)	法学部	浅野
	田中 遼真 (コンバインド)	工学部 電気情報物理工学科	駒場東邦
	谷 祥太郎 (コンバインド)	工学部 電気情報物理工学科	山手学院
	西村 大佑 (ランナー)	工学部 機械知能航空工学科	春日
	根本 京次郎 (ランナー)	工学部 電気物理情報工学科	安積
	花田 彩未 (マネージャー)	工学部 材料科学総合学科	四日市
	増田 優津樹 (アルペン)	工学部 機械知能航空工学科	栄東
	宮崎 真瑛 (ランナー)	理学部 数学科	昌平
	吉田 湊人 (ランナー)	医学部 保険・看護	大館鳳鳴
	渡邊 梓 (ランナー)	文学部	宇都宮

的確なリアルアドバイス
豊富な品揃え
適切なWAX情報
販売からレンタル、中古販売まで

EST  1959
UCHIDASPORTS
PRO SKI SHOP



新潟県妙高市関山2065
TEL: 0255-82-2031 / FAX: 0255-82-2071
MAIL: myoko-uchidasports@helen.ocn.ne.jp
HP: <http://www.uchida-sports.com/>

ブナの森 玉原高原 ペンション
バン・デ・ルージュ

Vin de Rouge



交通：関越自動車道沼田ICより35分

玉原スキーパークの目の前です。(11月末より5月連休まで滑走可能)

クロスカントリースキー、山スキーにも最適。春はブナの新緑や玉原湿原のミズバショウ。夏はテニス、ハイキング、登山、サイクリングなど。ラベンダー園では夏山リフト運行中。ラフティング(激流下り)、カヌー、パラグライダーの体験教室あり。秋にはブナの森の紅葉の中でぶどう狩り、リンゴ狩り、きのこ狩り。

萩雪会の皆様のおいでをお待ちしております。(56年卒杉山)

〒378-0071 群馬県沼田市上発知町玉原高原 Tel 0278-23-9114

—広告協賛一覧—

ご協力ありがとうございました。

ウチダスポーツ

バン・デ・ルージュ

蔵王温泉観光(株)

メンズヘアージェントルマン

(有)伊東与三郎商店

堀畜産 (有)

けんと

スキー部冬季宿泊先：
東北大学萩雪ヒュッテ
山形県山形市蔵王温泉 820-1
TEL 023-694-9094

スキー部口座：
郵便振替口座 02200-4-19520

編集後記

SPUR66号の編集・発行は、石橋智、川田裕貴、山田唯人、野崎菜月で務めさせていただきました。誤りのないようには努めましたが、誤字・脱字等を見つけたら、ご連絡お願い致します。

SPUR	第66号
発行年	令和4年
発行所	東北大学学友会スキー部 〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
発行者	石橋智
編集者	川田裕貴 山田唯人 野崎菜月
印刷所	プリントコープ 東北大学片平校舎 学生協内

スキー部ホームページアドレス：

<http://ski-tohoku.main.jp/>

右のQRコードからもアクセスできます。

最新の活動状況は、こちらでご覧になれます。



スキー部ブログアドレス：

<http://skitohoku.blog105.fc2.com/>

問い合わせ先

ski.racing.tohoku@gmail.com



SPR 六十六号 (令和四年度)

創部70周年記念号

東北大学学友会スキー部